

## はじめに

皆さんは、一体、何が欲しいのですか？ お金ですか？ 物ですか？ 地位や名誉や権力ですか？ 幸せが欲しいではありませんか？ それも、真の幸せが・・・では、その真の幸せは、どうしたら得られるのでしょうか？ それは、真理を心の底で理解できた時に得られるのです。人生の目的は、ただ一点・・・真理を心の手でしっかりと掴むことです。

真理を得るのに、難行苦行は不要です。難しい論理もいりません。真理を難しく考えないでください。必要なのは、やり続けることだけです。それには、強い意志がいります。根気がいります。努力がいります。ぜひ、真理を心の手でしっかりと掴んで帰ってください。

この「真理の書」が、真理を得る一助となれば幸いです。

二〇一八年七月

かとう はかる

# ◎目次

はじめに	1
第1節 真理の道	3
第2節 幸せ	41
第3節 意識	66
第4節 魂	106
第5節 心	130
第6節 想念	151
第7節 瞑想	179
第8節 宇宙	202
第9節 神	250
第10節 真理のよろず箱	297
おわりに	351
補足…誤った信仰（迷信）を正す	352

## 第1節 真理の道

皆さんは、今、大変な学びをしようとしているのです。なぜなら、永遠の生のことを学ぼうとしているからです。永遠の生のことを学ぶわけですから、一筋縄では行きません。忍耐がいられます。努力がいられます。強い意志がいられます。でも、決して苦しい学びではありません。学びが進めば、進んだ分のご褒美が頂ける学びだからです。

どうか、心に希望の明かりを灯し学び続けてください。きっと、「続けて良かったなあ！」と喜べる日がやってくるでしょう。

### 学びの目的

人の世に沢山の苦しみがあるのは、人間として生きているからです。人間として生きれば、この世の苦惱が付き纏うのは止むを得ないのです。例えば、肉体維持のために、お金や物がいられます。お金を稼ぐためには、良い学校に入り、良い会社に勤めなくてはなりません。そうすると、様々な苦しみが生まれるのです。

これは、人間として生きるからです。でも、神の分身であることを心の底で知り、神の分身に生きるようになったら、もう、苦しみはありません。

学びの目的は、「神の自覚に近づくこと・最終的には、神の自覚を得ること」です。神の自覚に近づけば、人間的苦しみは薄れます。更に、神の自覚が得られれば、もう、人間的苦しみはありません。学びに入る前に、まず、このことを伝えておきたいと思います。

## 学びの手順

---

求道者の学びの手順は、次の通りです。

一、本当の自分を知ること！

自分とは、神が「自」らを「分」けたのです。神が「自」らを「分」けて創った分身ですから、「自分は神」なのです。まずは、このことを知ることです。

二、思想化すること！

知識は、単なる知識ではありません。何度も、何度も、繰り返し返せば、知識は、思想化され、心の底に落ちて

ゆきます。心の底に落ちた知識は、やがて、自覚に結びつくのです。

三、自覚すること！

求道者の最終目標は、神の自覚に入ることです。それは、マントラを想い続けることで成就できます。難しいことはありません。ただ、想い続けるだけです。

このように、学びの手順は、一から入り、二に移行し、三で終わるのです。

## やり続ける根気と努力が必要

真理は、底なし沼のように奥が深いのです。何万転生もかかなくては、心の底に落ちないのが真理なのです。求道の旅が厳しいと言われるのは、やることは単純でも、やり続ける根気と努力が半端ではないからです。

何の変化が起きなくても、やり続けてください。「やり続ければ、必ず、扉は開かれます。」それは、宇宙の法則（原因と結果の法則）が保証してくれるからです。法則は、絶対、嘘をつきません。良い原因を作

れば、必ず、良い結果が生まれます。そのためには、やり続けることです。努力することです。

私が求道者に願うこと・それは、「やり続けて欲しい！努力して欲しい！」と言う願いです。もし、求める気持ちが萎えたら、石に穴をあける雨滴を見て心を奮い立たせてください。

## 正しい真理の求め方

「求道者だから、この世の楽しみをすべて捨てる！」、と言った苦しい真理の求め方はしないでください。美味しいものを食べたかったら、食べたら良いのです。旅行に行きたかったら、行ったら良いのです。テレビを見たかったら、見たら良いのです。今の自分の思い通りに生きてください。

確かに、自分を律したくなる気持ちは良く分かります。でも、神は、苦しんで真理を求めなさいとは言っていないのです。むしろ、「楽しみながら真理を求めてください！」と言っているのです。ただ、途中で怠けて歩かないから、怠けた分、取り戻さなくてはならなくなり、苦勞するだけです。亀のように着実に歩いていたら、苦勞せずにゴールテープを切ることができるのです。

難しい理論や技術など、一切いりません。必要なのは、「続けること」だけです。このことは、これから、

何度も言い続けます。どうか、焦らず、怠らず、真理を求め続けてください。

## 求道者の悩み

---

この世が幻だと知った求道者には、一般人のような深刻な悩みはありません。でも、求道者には、別な悩みがあるのです。

一つは、求めても求めても手応えがない時に生まれる焦りです。

二つは、求める気持ちを萎えさせる自我（サタン）の抵抗です。

三つは、周囲の人たちの邪魔（環境）です。

でも、この悩みは、決して悪いことではありません。むしろ、喜ぶべき悩みです。なぜなら、悩めるまでに成長したからです。神は、小学生に大学生の問題は与えません。また、大学生に小学生の問題も与えません。神は・・越えられないハードルは与えないのです。

神を信じ、目の前にあるハードルを越えてください。必ず、越えられます。

## 真の指導者とは？ パート1

多くの宗教団体は、「ご本尊に手を合わせれば、健康になりますよ！」とか、「仏像を拜めば、幸せになりますよ!」、と言った、ご利益を餌にして信者を集めます。一般人が、ご利益宗教に走るのは、努力しなくて良いからです。しかし、どうでしょう？ 努力せず、真理が得られるでしょうか？ もし、努力せず、真理が得られるなら、この世は、怠け者で一杯になってしまいます。全能の神が、そんな怠け者に都合の良い仕組みを創るはずがありません。

自分で卵を抱き、卵をヒナに返すのです。自分でオールを漕ぎ、船を彼岸に到着させるのです。他力信仰を勧める指導者を信じてはなりません。真理を得るのは、あくまでも、「自力」です。

真の指導者は・・・

- 科学的に説きます。
- 自力を説きます。
- 必然を説きます。
- 法則を説きます。



- 想念の偉大さを説きます。
- 一つのモノを説きます。
- 瞑想を重んじます。
- 社会体験を重んじます。
- 真の幸せを説きます。
- 幽界の話しや現象の話をしません。
- 自分の利益を考えません。
- 数や量より、質を大切にします。
- 人の目を気にしません。

このように、真の指導者は、一から十まで、真理に徹しています。

あなたの周りには色々な指導者がいると思いますが、良く吟味して選んでください。

## 自分の神聖を傷付けてはならない！

他力信仰やご利益信仰がいけない理由は、自分の神性を傷付けてしまうからです。私たちは、鈍重で、汚く、無能な人間ではないのです。偉大な能力を秘めた神の分身です。その分身がチツポケなご利益を欲しがっては、偉大な神性を汚してしまうのです。

自分の中には、二人の自分がいるのです。一人は「真我の自分」です。もう一人は「自我の自分」です。自我の自分は、肉体を大切にしたりしますので、どうしても、この世のご利益を欲しがるのです。でも、私たちの本性は、神です。神が、この世のご利益を欲しがるなど大笑いです。真の求道者なら、「真理のご利益」を欲しがってください。

どうか、自分の本性を知ってください。自分の本性を、心の底で知ったら、偉大な能力が蘇ってきます。その者は、もう、この世のご利益など欲しがらなくなります。

## 何よりも真理を最優先させる

---

眞実は、外側の物質の世界にはありません。眞実は、内側の意識の世界にあるのです。ですから、外側の人たちを、どうこうしようと考えないでください。内側の自分の意識を、どうこうしようとだけ考えてください。だからと言って、「物質の世界を軽んじて良い！」と言っているわけではありません。物質の世界も非常に大切です。なぜなら、物質の世界と意識の世界は、二つで一つだからです。どちらが無くて、どちらも存在できないのです。第一、肉体が無くて、この世の物が無くても、真理を学ぶことができません。ですから、肉体も物も大切です。でも、それは、必要最低限度で良いのです。

世の人々は、この世のことに四苦八苦して生きていますが、この世のことは、方便であって目的ではないのですから、この世のことは、五十歩百歩でやってください。

人生の目的は、あくまでも、「真理を学ぶ」ことです。どうか、この世のことは、二の次に、真理を学ぶことを最優先にしてください。

## 良く受け取る癖をつけよう！

この世には、様々な苦しみがありますが、これを単なる苦しみとして受け取るか、試練として受け取るかで、苦しみの辛さがまるで違ってくるのです。苦しみとして受け取れば、絶望です。試練として受け取れば、希望です。神は、私たちの親です。その親が、我が子に意味のない苦しみを与えるわけがないのです。どうか、「この苦しみは自分を大きくしてくれる！」と良く受け取ってください。良く受け取れば、どんな苦しみも乗り越えられます。

良く受け取れば、光が強くなるので苦しみが和らぐのです。悪く受け取れば、光が弱まるので苦しみが増すのです。光を強くするか、弱くするかは、あなたの受け取り方次第で変わってくるのです。

どうか、どんなことも良く受け取る癖をつけてください。この宇宙に見せかけの悪は有っても、本当の悪は無いのですから・・・。

## 命核（格）者になろう！

この社会には、人格者と言われる人たちが、大勢おりますが、本当に、その人たちは、人格者なのでしょうか？ このように言うのは、真の人格者は、同時に、「命格者」でなくてはならないからです。

人格は、肉体の一生において培った点ですから、その生限りで無くなってしまいます。でも、命格（核）は、魂の歴史において培った線ですから、永久に引き継がれて行くのです。一生一生の点が、命格（魂）の線になっているのです。その意味では、一生一生の点である人格形成は、とても大切です。

では、今の社会で言われている人格者たちは、命核者に相応しい人たちなのでしょうか？ その人たちの心の中はどうでしょうか？ 純な動機で人の世話をしているのでしょうか？ 悪想念を抱いていないのでしょうか？ 良心に忠実に生きていますでしょうか？

真の人格者は、人前での人格者ではなく、良心の前での人格者でなくてはならないのです。良心の前で正直に生きている人こそが、真の人格者であり真の命格者なのです。どうか、点である人格を極めながら、同時に線である命格も極めてください。そのためには、やはり、真理を学ぶ必要があるのです。

## 真の求道者とは？

---

真の求道者と偽者の求道者の違いを教えましょう。

真の求道者は・・・

- 真理に一生を捧げます。
- 根気があります。真理を掴むまで、決して諦めません。
- どんな障害に遭っても、決して挫けません。
- 自力を頼りにします。
- 知識で満足しません。
- 自分を変えようとします。
- 現象を嫌います。
- 人の目を気にしません。かと言って、常識人です。
- 謙虚です。頭の低い人です。
- 自分の成長だけ考えます。人を誘うようなことはしません。

偽者の求道者は・・・

- 気まぐれで真理を求めます。
- 根気がありません。何か障害に遭うと、すぐに諦めてしまいます。
- 真理を、駆け込み寺にしたり、隠れ蓑にしたりします。（家庭や社会からの逃避者と言う意味）
- 他力に頼ります。
- 知識で満足します。
- 今の自分で満足しています。
- 現象が好きです。
- 人の目を気にします。
- 増長します。高慢です。目立ちたがり屋です。
- 人を誘おうとします。それは、外側のモノ（言葉や文字）で、真理が得られると思っているからです。

このように、真の求道者と偽者の求道者には、大きな違いがあります。

## 真理を永遠に求め続けねばならない理由

真理は、一生や二生で得られるものではありません。永遠の生をかけて、求め続けねばならないのが、真理なのです。なぜなら、宇宙は、永遠であり、無限だからです。探しても、また、探しモノが出てくるのが、宇宙の深遠さなのです。ですから、簡単に手に入る真理と思っはなりません。いや、永遠に手に入らないのが真理だと思ってください。だからと言って、大変な旅だとも思わないでください。楽しみながら、希望を持ちながら、続けられる旅です。それは、求道の旅すがら「幸せと言うご褒美」が頂けるからです。

私たちが欲しいのは、真理でも、なんでもないので。「幸せだけが欲しいのです。」理論など、どうでも良いのです。この世のことなど、どうでも良いのです。宇宙のことなど、どうでも良いのです。神のことなど、どうでも良いのです。ただ、幸せだけがあれば良いのです。この書を読み深めるにつれ、今、述べたことの意味が解ってくると思います。



## 求道者の責任

---

地球人類は、何十億年もの時をかけ、鉱物・植物・動物・人間へと進化を遂げてきました。特に、学びの友の皆さんは、神を自覚する寸前まで進化した偉大な魂です。それだけに、宇宙に対して責任があるのです。その責任ある魂が、欲のために、感情のために、自尊心を守るために、役割を放棄して良いでしょうか？ あなたには、地球人類を牽引する重要な役割があるのですよ！

今の地球人類は、完全に道を逸脱しています。その逸脱した道を修正できるのは、学びの友の皆さんたちだけです。難しいことをしなさいと言っているわけではありません。「簡単なことをやってください！」と言っているのです。

簡単なこととは・・・

社会体験を、真心を込めてやることです。  
瞑想を、真心を込めてやることです。

この二つのことを、今のあなたの環境の中で精一杯やれば良いのです。それが、地球のために、宇宙のためになるのです。

真理を求める気持ちが萎えたら、「縁生の友たちよ！」の曲を見てください。心が折れそうになったら、「私は負けない！」の曲を見てください。きっと、気持ちを奮い立たせることができるでしょう。

## 奥深い真理

宇宙は無限です。神は無限です。真理は無限です。宇宙には、知るべきことが無限にあるのです。無限にあるのですから、一生や二生で得られるものではないのです。いや、永遠の生をかけても得られないのが真理なのです。覚者は、そのことを知っていますので、気長に法を説き、気長に求道者の成長を待っているのです。

少々、真理をカジッたからと言って傲慢になる人がおりますが、それは、真理の奥深さを知らないからです。彼らが辿り着いた所は、真理の門前です。まだ・屋敷の門も潜っていないのです。相当、学んだ皆さんでさえ、屋敷内に一步踏み入っただけです。

どうでしょう？ 屋敷の奥が見えますか？ あまりにも、奥深くて、愕然としているではありませんか？ 諦めては困るので言い添えますが、「やった分のご褒美が頂けるのも、真理の素晴らしさです。」一

やれば一のご褒美が、五やれば五のご褒美が、10やれば10のご褒美が頂けるのです。

どうか、焦らず、でも、怠らず、着実に歩んでください。真理の旅は、永遠に続くのですから・・・。

## 自力で得る パート1

---

この宇宙は、「原因と結果の法則」によって進化成長するようになっていきますから、努力（原因を作る）しなければ、真理は、絶対得られません。私が他力を嫌うのは、原因を作らなければ、結果が得られないからです。

「原因と結果の法則」は、私たちの中に組み込まれているのです。他人が磨いた技で、自分が成長できないのは、他人の原因を自分の結果にできないからです。ですから、技が欲しかったら、自力で技を磨くしかないのです。努力なしに、何も得られないことを知ってください。これは、当たり前のことです。

もう一つ、待っているのは、何も得られないことも知ってください。真理は、能動的なものです。こちらから働きかけねば、得られないのが真理なのです。ただ、口を開けていて、どうして、食べ物が口に入ってくるでしょうか？

「働かざる者、食うべからず！」です。「為せば成る、為さねば成らぬ何事も！」です。どうか、能動的に働きかけてください。働きかければ、必ず、得られます。

## 自力で得る パート2

---

真理は、自力で得るしかありません。それは、一人ひとりが、主観者であり、主体者だからです。

「Aさんの宇宙には、Aさんしか入れないのです。」

「Bさんの宇宙には、Bさんしか入れないのです。」

Aさんの体験は、Aさんだけの体験です。Bさんの体験は、Bさんだけの体験です。人の体験を自分の体験にできないのは、当人しかいないからです。だから、人を頼ってはいけません。確かに、「崖の上に美味しい果物（真理）が実っていますよ！」と、人に教えることはできません。しかし、実際に崖によじ登り果物を取って食べるのは当人なのです。

どんな覚者の話を聞いても、どんな覚者の本を読んでも、覚者と同じ境地になることはできません。あくまでも、本人が体験して得る境地です。だから、「自力なのです。」 自力は、科学です。他力は、非科学

です。

非科学とは、「幻の科学」、「消えてしまう科学」と言う意味です。

科学とは、「真実の科学」、「永遠に残る科学」と言う意味です。

私たちは、永遠の存在ですから、永遠の科学を学ばなくては意味がないのです。

## 真剣に求めよ！

---

生半可な求め方をした人には、ニセモノの真理が与えられ、真剣な求め方をした人には、ホンモノの真理が与えられます。これは、「原因と結果の法則」からして当然のことです。神は、怠け者にホンモノの真理を与えるような温情は持っていないのです。なぜなら、怠け者にホンモノの真理を与えたら、宇宙を破壊してしまうからです。あくまでも、真剣に求める者に与えられる、ホンモノの真理です。それを支えているのが、「原因と結果の法則」なのです。

「神は、厳しい法則（原因と結果の法則）をもって、私たちを成長させようとしているのです。」

生半可で与えられるホンモノなど、この宇宙に、何一つないのです。もし、あるとしたら、それは、消え

て無くなる幻だけでしよう。真理は、永遠に無くならないホンモノです。ホンモノは、真剣に求める者だけに与えられるのです。

どうか、真剣に真理を求めてください。

## 真の指導者とは？ パート2

もし、簡単に真理が得られると言う指導者がいるなら、疑ってかかってください。どこかに、必ず、落とし穴があるはずです。今の地球には、人を惑わす偽指導者が、ウヨウヨいるのです。そんな偽指導者に騙されないよう、再度、ホンモノの指導者とニセモノの指導者の見分け方を教えましょう。

- ホンモノの指導者は、常識的な法の説き方をします。
- ニセモノの指導者は、非常識的な法の説き方をします。
- ホンモノの指導者は、説法の中身で勝負します。
- ニセモノの指導者は、説法の中身で勝負できないから現象を利用します。
- ホンモノの指導者は、「自力で真理を得なさい！」と言います。

- ニセモノの指導者は、「私が真理を受けましょう!」と言います。
- ホンモノの指導者は、「救うのは自分自身です!」と言います。
- ニセモノの指導者は、「私があなたを救いましょう!」と言います。

自力を説く指導者は、ホンモノですが、他力を説く指導者は、ニセモノと思ってください。成果（結果）は、原因を作った者に与えられるのです。やりもしないで、結果が与えられることは、絶対ありません。これは、どんな星においても、どんな幽界においても、どんな高度な神界においても、変わらぬ常識です。

## 叩き続けよう!

「この真理は絶対間違いない!」と確信したら、テコでも動かさない求め方をしてください。躊躇してはダメです。扉が開くまでドンドン叩き続けてください。叩き続ければ、神（真我の自分）は、根負けして扉を開いてくれます。真理を得るために、難しいことをする必要はありません。必要なのは、根気だけです。

「根気」の「根」とは、根っ子のことです。「気」とは、エネルギーのことですから「根気」とは、根に張り付いたエネルギーと言う意味になります。このエネルギーは根に張り付いていますから、使っても、使

っても、涸れることはないのです。そのエネルギーを使って、真理を求め続ければ、成さぬことはないのです。

「継続は力なり！」です。やり続ければ、必ず、成就します。これは、「原因と結果の法則」が保証してくれるので間違いありません。

## 良い樹には良い実が実る

私は、よく言います。「私のところで学んでいる人たちは、みな、成長していますよ！」と・・・そうです。「良い樹には、良い実が実り、悪い樹には、悪い実が実るのです。」その樹が、良い樹か、悪い樹か、判断するには、その樹で、学んでいる人たちの成長を見れば分かるのです。

「人類の夜明」の本は、理解力の無い者にとっては、ただのボタ山にすぎませんが、理解力の有る者にとっては、宝の山なのです。実際に、「人類の夜明」の本を読んだ者は、良い実を付けています。これは「人類の夜明」の本に書かれてあることが、間違いない真理である証なのです。ぜひ、「人類の夜明」の本を読んでも良い実を付けてください。繰り返し、読めば、読むほど、良い実を付けることができるでしょう。



## 知識に溺れてはならない！

「知識人は悟れない！」と言われるのは、知識に溺れると自由な発想ができなくなるからです。悟りは、知識では無いのです。真理は、言葉や文字を超越しているのです。ですから、覚者は、何かに例えて法を説くのです。

「真理は無限ですから、真理には無限の意味が込められているのです。」その無限の意味を受け取るのは、あくまでも、「本人の理解力」ですから、理解力のない者は、目の前に宝物があっても持ち帰れないのです。

ある求道者が、知花先生に、こんなことを言っていました。「そんなこと何度も言わなくても分かっていきますよ！」と……。でも、本当にその人は、解っているのでしょうか？ 解っていないから、先生は、何度も言うのではありませんか？ 覚者が、何度も言うには、言うだけの理由があるのです。

言葉や文字は、伝達手段として作られた道具ですが、その道具の中に、思いは、いくらでも込められるのです。特に、覚者の言葉には、深い意味が込められているのです。どうか、覚者の言葉を、注意深く、何度も、何度も、探ってみてください。あなたの理解力が増した分の、真理の深みが発見できるはずですよ。

## 失敗の人生などない！

「私の人生は失敗だった！」と、悔む人がおりますが、悔む根拠は、何でしょうか？ 悔む根拠など、何も無いのです。それは、「同時に、二つの人生を歩むことができないからです。」

例えば、別な人生を歩めたとしても、果たして、今、以上の人生になっていたでしょうか？ もしかしたら、今、以上に苦しい人生になっていたかも知れないのですよ？ 同時に、二つの人生が歩めるなら、良い人生か、悪い人生か、比べられるかも知れませんが、二つの人生は歩めないのです。言うことは、「悔む根拠などない！」と言うことです。

失敗の人生だと思ってはなりません。いいえ、むしろ、成功の人生だと思ってください。なぜなら、「今、真理を学んでいること自体が成功の証だからです。」もし、失敗の人生だったら、今、あなたは、真理を学んでいなかったでしょう。

今日まで、あなたが歩んできた人生は、大成功だったのです。これからも、自分の選んだ人生の道を信じ、歩き続けてください。

## 体験は宝！

この表現世界には、「本当に良いことも」、「本当に悪いことも」ありません。なぜなら、良いことも、悪いことも、「残らない」からです。残るのは、体験によって大きくなった「原子核（魂）」だけです。

この表現世界に、本当に良いことも、本当に悪いことも、無いと言うのは、「良いことも、悪いことも、条件次第で入れ替わるからです。」

- 例えば、A国では良いことであっても、B国では悪いことかも知れません。
- Aの時代には良いことであっても、Bの時代には悪いことかも知れません。
- Aの人にとっては良いことであっても、Bの人にとっては悪いことかも知れません。

このように、条件次第で変わるのが、良いことであり、悪いことなのです。条件によって変わるのは、良いことも、悪いことも、絶対的なものではないからです。しかし、「体験したことだけは、絶対的なものとして、魂に刻まれ残るのです。」

体験は、宝です。体験だけが、成長させてくれるのです。アリが忙しく動くのも、子供が忙しく動くのも、体験して原子核を大きくしたいからです。私たちは、今日まで、動いて、体験して、魂を大きくしてきたの

です。これからも、動いて、体験して、魂を大きくしてください。

## 体験の大切さ！

体験なしに偉大な事を成し得た人は、未だかつて一人もおりません。偉大な事を成し得た人ほど、多くの体験をしているものです。私が「体験は宝！」と言うのは、「体験だけが魂を成長させてくれるからです。」

一番、手軽な体験の場は、家庭内における家族との触れ合いです。家族同士は、言いたいことを言い、やりたいことをやる、関係にありますから、喧嘩もすれば、仲良くもできます。だから、互いに欠点を見せつけ合い学べるのです。家庭環境は、魂を成長させる手軽な体験道場なのです。

本格的な体験は、社会へ出て様々な人と触れ合うことです。「人」と言う字を見てください。左の「ノ」と右の「ノ」が支え合っていますね。「人間」と言う字を見てください。「人」の「間」と書きますね。この字が示すように、私たちは、人と支え合い、触れ合いながら成長してゆくようできているのです。

自分一人で成長できないのは、相手がいなくては、体験できないからです。

○ 足が速いか遅いかは、人と走って比べてみなくては分らないのです。

○ 大きいか小さいかは、二つの物を比べてみなくては分からないのです。

○ 善か悪かは、比べてみなくては分からないのです。

○ 幸せか不幸せかは、比べてみなくては分からないのです。

相手あつての体験なのです。相手あつての成長なのです。私たちが相対世界に生まれてきたのは、相対的体験を通して成長するためなのです。家庭や社会は、その体験をさせてくれる有り難い体験道場なのです。どうか、体験の大切さを知ってください。

### **身を持って体験する大切さ！**

どんな宗教も、良いことを言います。

例えば、

人に優しくしなさいとか・・、

人の物を盗んではなりませんよとか・・、

人を、傷つけたり、殺したりしてはなりませんよとか・・、

でも、口で諭して良くなるものでしょうか？ 良くなるなら、こんな殺伐とした地球になっていないはずです。あなたは、知識だけで泳げるようになりますか？ 知識だけで自転車に乗れるようになりますか？ 何事もそうですが、体験なしに身に付くことはないのです。

「人間は、身をもって体験しなければ、成長できないようにできているのです。」  
だから、私たちは、肉体を持って生まれてきたのです。

肉体ほど有り難い環境はありません。「痒い！ 痛い！ 苦しい！ 寒い！ 熱い！」の感覚があるから、私たちは、真剣に生きようとするのです。もし、五感がなかったら、この世が幻だと思い、真剣に生きようとしなくてしょう。真剣に生きなければ、真剣な体験ができません。それでは、魂は成長できないのです。魂の成長には、どうしても、厳しい体験が必要なのです。それも、厳しければ、厳しいほど、魂は、大きく成長するのです。どうか、体験を嫌わなくてください。

### 自分の眼力を信じよう！

あなたは、何十億年もの時をかけて、真理の基礎を築き、真理の柱を立て、真理の壁を作り、真理の屋根

を立ち上げ、やっと、真理の建物を完成させる寸前まできたのです。もし、この真理が間違っていたら、今まで苦労して築いてきた建物を、すべて壊さなければならぬのです。

「あなたが選んだ真理の眼力は、未熟だったのでしょうか？」

「あなたの守護霊は、間違った指導をしていたのでしょうか？」

あなたは、自分の眼力を信じないのですか？ 自分の守護霊を信じないのですか？ 自分の眼力を信じないで、自分の守護霊を信じないで、一体、何を信じると言うのですか？ 確かに、自分の中にも外にも、山のサタンがいますから、惑わされるのも、無理はないかも知れません。でも、思い出してください。この真理に出会い感動したあの時のことを……。

良いのです。苦しかったら出て行っても……。でも、帰ってきたくなったら、いつでも、帰ってきてください。門は、いつでも、開かれています。「過ちては改むるに憚ることなかれ！」です。恥じることなどありません。いや、かえって勇氣ある魂だと、私は敬服します。

## 感動の涙！

あなたは、私に感動の涙を流させてくれました。あなたも、一緒に涙を流してくれました。いいえ、私やあなただけではありません。沢山の人たちが、今も涙を流しています。その感動の涙は、嘘の涙だったのでしょうか？ 私たちが流した、あの感動の涙は、嘘の涙だったのでしょうか？

真理で流した感動の涙は、目を腫らしません。この世の情で流した涙は、目を腫らします。あの時に流した感動の涙は、あなたの目も私の目も腫らしませんでした。それは、間違いない真理だったからです。

何が大切なのでしょうか？

自尊心を守ることでしょうか？

真理を得ることでしょうか？

真理を得ることです。ね・・・。自尊心は、この世限りのモノですが、真理は、永遠のモノです。さあ！・・・  
永遠の真理のために人生をとおうではありませんか？



## バチが当たって良かったと思える人になろう！

迷いから目覚めるには、「バチが当たったと！」思える苦しい体験が必要なのです。悲しいことですが、人間は、痛みや、苦しみを、体験しなければ目覚めないのです。ですから、神は、目覚めに必要な刺激剤として「原因と結果の法則」を用意したのです。苦しければ、どんな人でも反省します。反省は、神の光を呼び込むので自分が変わるのです。それも、心に汚れを多くつけた人ほど変わります。反省は、心の汚れを取る洗剤のようなモノです。ぜひ、反省をお勧めします。「人類の夜明二」の中に詳しく反省の仕方が書いてありますので、ぜひ、読んでください。

「バチが当たったと思える人は、幸せな人です。」

それは、神の存在を認めるまでに成長した魂だからです。

「バチが当たったと思えない人は、不幸な人です。」

それは、まだ、神の存在を認めるまでに成長してない魂だからです。どうか、一日も早く、「バチが当たって良かった！」と、思える人になってください。

## 真理の価値はお金で換算できない！

人間は、価値をお金で換算しようとはしますが、真理の価値を、お金で換算できるでしょうか？ できません！ なぜなら、真理の価値は、無限だからです。この世のモノは、有限ですから、お金で換算できませんが、真理は、無限ですから、お金で換算できないのです。私たちの意識が有限ならば、この世のモノの価値を認めましょう。でも、私たちの意識は、永遠に無くならないのです。永遠に無くならない意識は、無限の価値を持った真理を求めなくては意味がないのです。永遠の意識が、有限のモノを求めるとは、矛盾だからです。繰り返します。

真理が無限の価値を持っているのは、私たちの意識が永遠に無くならないからです。永遠の意識は、永遠のモノに寄り添い、無限の価値を生み出してゆくのです。どうか、「意識の永遠性と価値の永遠性」について深く考えてみてください。きっと、私が言わんとすることが解ると思います。

とは言っても、どんなに有限なモノであっても、無価値ではないのです。なぜなら、魂は、有限なモノを通して成長するようにできているからです。だから、私は、この世の物も軽んじてはならないと言うのです。

「神が創られた宇宙に、無駄なモノは、何一つ無いと！」言われるのは、「どんなモノも進化成長に寄与し

ているからです。」

## 求道者の使命

どんなに、沢山の物やお金を集めても、どんなに、地位や名誉や権力を得ても、死ねば、みな、置いて行かねばなりません。その置いて行かねばならないモノを、奪い合っているのが人類なのです。それは、本当の自分を知らないからです。自分が肉体だと思っている人は、どうしても、この世のモノを欲するのです。これは、仕方がありません。カツオブシを前に食べない猫がいないように、この世の華やかなものを見せられ飛びつかない人はいないからです。猫を責められないように、私たちも人を責められないのです。でも、いつまでも、そうであってはなりません。私たちは、一日も早く、本当の自分を知り、カツオブシに惑わされない自分に成長しなければならぬのです。

どうか、原子核を大きくしてください。魂を大きくしてください。大きくすれば、欲望と感情に振り回されない自分が築けます。当然、自分の使命もハッキリと見えてきます。特に、あなたのような熟した魂には、重要な使命があります。

一つは、「本当の自分を知る使命です。」

二つは、「地球に理想の世を建設する使命です。」

どうか、本当の自分を知ってください！そして、地球に理想の世を建設する先駆者としての使命を果たしてください！

## 真理を求める姿勢

私たちは、どのような姿勢で真理を求めるべきでしょうか？ 考えてみましょう。

一、「求めよ！さらば与えられん！」は、真理です。何事もそうですが、求めなければ、与えられることはありません。お金も、地位も、嫁さんも、求めたから与えられたのです。真理を自分のものにしたければ、根気よく、それも、積極的に求め続けることです。求め続ければ、「原因と結果の法則」が、間違いなく、あなたを自覚の境界線へ運んでくれます。

二、頼り過ぎない求め方をしてください。外側の指導者に頼り過ぎると墮落します。内側の真我に頼り過ぎると焦りとなります。何でも頼り過ぎは良くありません。ただ、淡白に、やり続けることだ

け考えてください。

三、「皆がそうしているから自分もそうする!」、と言った求め方も良くありません。人の目など気にしないことです。自分流の求め方をしてください。

四、無理な求め方をしないでください。無理な求め方をすれば、痛い目に遭います。「無理が通れば道理が引つ込む」と言う諺がありますが、道理が引つ込むことはありません。無理をすれば、必ず、法則によって諫められます。今の環境の中でやれる、精いっぱい求め方をしてください。神は、無理な求め方は望んでいないのですから……。

五、形が大切なわけではありません。格好など、どうでも良いのです。求める強さ、真剣さ、熱意が、大切なのです。

六、内側に有るモノは、どんなに地味でも、どんなに見えなくても、ホンモノです。外側に有るものは、どんなに華やかでも、どんなに美しくても、ニセモノです。自分の意識が、外側のモノに惑わされていないか? 注意を怠らないでください。

## なぜ？ なぜ？

私たちの意識の中には、万能のコンピューターが備わっていますから、「なぜ？ なぜ？」と、自分の意識に問いかければ、必要な場合には、必ず、答えが返ってきます。知花敏彦師が、自問自答しなさいと言われたのは、自分の心の中に万能のコンピューターがあるからです。

この世のコンピューターを使うには、お金がかかりますが、自分の心の中のコンピューターを使うには、お金はかかりません。また、誰の許可もいらないし、何処へ行く必要もありません。いつでも、自由に使えます。ですから、大いに利用することです。

利用の仕方は簡単です。「ただ、自分の心に問いかければ良いだけです。」ただし、興味本位の質問や知識欲を満足させるような質問は避けてください。「今の自分に必要な質問だけしてください。」本当に必要なら、朝方の目覚めかけの時とか、お風呂でくつろいでいる時とか、散歩している時とかに、ヒラメキとして答えが返ってきます。やり初めの頃は、正しい答えか分からないかも知れませんが、やり続けていれば分かるようになります。ぜひ、挑戦してみてください。

## 肉に死んでこそ真に生きる者となる

肉体を自分だと思っている限り、不自由な生き方しかできません。今、人類は、肉体を自分と限定し、不自由な生き方をしているのです。でも、本当の自分は、肉体ではありません！ 人間ではありません！ 個体ではありません！ 宇宙を自在に闊歩できる、「意識です！」、「魂です！」、「生命です！」、「神です！」、肉体を自分だと思っから、地を這って生きなければならぬし、「生・老・病・死」にも、苦しまねばならないのです。「自分は意識である！」と、思えたら、そく、自由が得られ、すべての苦しみから開放されるのです。

知花敏彦師は、こうおっしゃっておられました。

「肉に生きるは死である。肉に死んでこそ真に生きる者となる！」と・・・。肉に死ぬとは、肉体の執着を捨てると言う意味です。この世のモノの執着を捨てると言う意味です。そのためには、本当の自分を知らねばなりません。どうか、本当の自分を知ってください。それも頭で知るのではなく、心の底で知ってください。心の底で知ったら、自由な生き方ができるようになります。

## 師は自分の中にある

---

師と仰いでいた者が亡くなると、あたかも、求道の旅が終わったかのような振る舞いをする人がおられますが、求道の旅は、そんな軽薄なものではありません。求道の旅は、永遠に続けられるものです。それも、自分の心の中で永遠に・・・。

いつまでも、外側の師を頼ってはいけません。自分の中には「内なる師（神・真我）」がおられるのですから、自分を頼ってください。でも、どうしても、外側の師に逢いたいなら、

「イエス様を呼んでください！」

「お釈迦様を呼んでください！」

「知花先生を呼んでください！」

「私を呼んでください！」

あなたの中には、これまで、自覚の境界線を超えた、すべての聖者がおられるのですから・・・。



## 第2節 幸せ

幸せの大きさを、外から量ることはできません。本人が、どれだけ、満足しているか？ 納得しているか？が目安です。その意味では、幸せは、一人ひとりが創ると言って良いでしょう。

人生の最大の目的は、真の幸せを得ることです。この第2節では、幸せについて、徹底的に追求して見たいと思います。

### 人生の目的は幸せを得るためである

人生の最大の目的は、幸せを得るためです。私が、この結論に至ったのは、死んでも自分の意識が無くならないことを知ったからです。

私の人生は、苦しみの連続でした。私は、考えました。こんな苦しみを味わうのは、意識があるからだと…。そこで、私は、意識を、どうしたら無くせるか考えました。でも、いくら考えても無くす方法が見つかりませんでした。それは、死後、自分の意識がなくなるイメージが、持てなかったからです。私は、気付きまし

た。「そうか、自分の意識が無くならないからイメージが持てないのだ！」と……。それ以後、私は、意識を無くすことを諦め、無くせない意識を、どうすべきか考えました。その結論が、意識を幸せの中に置くことだったのです。永遠に無くならない意識を、苦しい処に置くより、楽しい処に置きたいのは、皆さんだって同じだと思います。

「人生の目的は、唯一、幸せを得るためです。」それ以上の、人生目的はありません。

## 何が幸せを感じるのか？

世の人々は、山登りをしたり、旅行をしたり、スポーツをしたり、遊園地に遊びに行ったり、映画を見に行ったりします。また、ペットを飼ったり、花や木を育てたり、宝石を身に付けたり、着飾ったり、化粧したりします。なぜ、そのようなことをするのでしょうか？ それは、「幸せになりたいからです。」でも、本当に幸せになっているのでしょうか？ いいえ、肉体上の幸せは、すぐに色あせてしまう幸せです。でも、殆どの人が、それを、本当の幸せだと誤解しているのです。それは、本当の幸せの正体を知らないからです。肉体が幸せを感じることはないのです。幸せを感じているのは、「意識・心」なのです。「意識・心」が

受け取らなかったら、幸せは感じられないのです。肉体（脳）は、感覚を「意識・心」に伝達する中継所に過ぎないのです。あくまでも、幸せを感じているのは、「意識・心」なのです。その幸せ程度も、人それぞれ違うのです。なぜなら、人によって幸せの満足度が違うからです。ですから、同じ幸せを味わっているようで、みな、違う幸せを味わっているのです。「幸せを、物やお金の多寡で量れないのは、幸せの感じ方が、人それぞれ違うからです。」

この世の幸せとは、そう言うものなのです。

## 何が幸せをくれるのか？

何が幸せをくれるのでしょうか？ 結婚が幸せをくれるのでしょうか？ 家族が幸せをくれるのでしょうか？ 何が幸せをくれるのでしょうか？ 物が幸せをくれるのでしょうか？ 地位や名誉や権力が幸せをくれるのでしょうか？ いいえ、そんなモノでは幸せは得られません。もし、そんなモノで幸せが得られるなら、私は、そのすべてを、あなたに差し上げましょう。でも、貰っても、あなたは、決して満足しないでしょう。

幸せは、外から得られるのではなく、自分の「意識・心」が与えてくれるのです。このことを知れば、外側に幸せを貰いにゆくことはなくなるでしょう。

幸せは、誰でも得られます。それも平等に……。それは、自分の「意識・心」の中に幸せがあるからです。どこかに、幸せがあるわけではないのです。また、誰かが持ってきてくれるのでもないのです。幸せは、自分が持つてくるのです。

## 幸せの受け取り方

---

世の人々は、誰かが、何かが、幸せをくれると思っていますが、誰かが、何かが、幸せをくれることはありません。幸せは、自分の意識が与え、自分の意識（心）が受け取るのです。その意識（心）を、私たちは、持っているわけですから、私たちは、すでに、幸せが与えられているのです。ただ、その幸せを、どのような思いで受け取るかが大切なのです。

どんな小さな幸せも、「感謝の思いで受け取れば」大きな幸せになります。反対にどんな大きな幸せも、「不満の思いで受け取れば」小さな幸せになります。「これが最高の幸せだ！」と言う幸せなど、どこにも

無いのです。受け取り方次第で、大きくも、小さくもなるのが、幸せの正体なのです。

## 究極の幸せの定義

---

「究極の幸せ」の定義は、

「一、永遠に尽きない幸せである。」

「二、永遠に色褪せない幸せである。」

と言えるでしょう。

理由一は・・・

私たちの意識が有限なら、一時の幸せで満足できるでしょうが、私たちの意識は、永遠に無くなることはないのです。永遠に無くならない意識は、永遠に尽きない幸せでなくては満足できないのです。

理由二は・・・

私たちの意識は、どんな美しいモノを見ても、どんな耳障りの良い音を聴いても、どんな美味しい食べ物を味わっても、どんな香ばしい匂いを嗅いでも、どんな心地良い物を触っても、飽きてしまいます。贅沢と言えば、贅沢な話ですが、飽きるから、飽きない幸せを求めて努力するのですから、飽きることは、良いことなのです。

留まっている水は、淀み、やがて、腐ってしまいます。幸せも、同じ幸せの中に留まっていたら、淀んで腐ってしまいます。だから、次から次へ湧きでる新鮮な幸せが必要なのです。

## 幸せは実在

「実在」と言う意味は、「本当に有るモノ！ 永遠に無くならないモノ！」と言う意味です。と言うことは、私たちの「意識も、幸せも」実在だと言うことです。なぜなら、幸せを感じる私たちの意識が、永遠に無くならないからです。

「意識は、幸せを感じるによって実在できるのです。また、幸せも、意識に感じてもらえるから実在できるのです。」

もし、幸せが非実在なら、意識も非実在になり、宇宙に一つの真実も無くなってしまう。それでは、宇宙は、消えて無くなるしかありません。宇宙が存在できるのは、あくまでも、幸せがあるからです。意識があるからです。

幸せあつての意識です。

意識あつての幸せです。

だから、私は言うのです。この世の幸せも、幽界の幸せも、夢の幸せも、幻覚の幸せも、意識が感じている幸せは、みな、實在だと・・・。

### この世の事は幸せを得るための方便？

今、人類がやっているどんなことも、幸せを得るための方便です。お金や物を得るのも、地位や名譽や権力を得るのも、良い学校に入るのも、良い会社に入るのも、良い家庭を持つのも、山に登るのも、海に潜るのも、スポーツをするのも、絵を描くのも、音楽をやるのも、幸せを得るための方便です。でも、地球人類は、そのことに、まだ、気付いていないのです。だから、方便のために、毎日、四苦八苦して生きているの

です。でも、一般の人は、四苦八苦して生きて良いのです。なぜなら、四苦八苦して生きること、次のような精神力が身に付くからです。

努力心が培われます。

忍耐力が付きます。

集中力が付きます。

緻密さが養われます。

感性に磨きがかかります。

心が強くなります。

これらの学びは、魂の基礎作りに大いに役立つのです。

でも、学びの友の皆さんは、そんな基礎作りは、もう、終わったのですから、方便のために四苦八苦する必要はありません。皆さんが、やるべきことは、肉体維持に必要な社会体験をすること、そして、瞑想をすることです。



## 外見で決められない、幸・不幸の正体

「何が幸せで、何が不幸なのでしょうか？」これは、外見で決められるものではありません。なぜなら、心の中の幸せは、外側からでは分からないからです。確かに、見た目、金持ちの人の方が幸せそうに見えるでしょう。でも、心の中は、どうでしょうか？ 金持ち故に経済動向が気になり、金持ち故に政治動向が気になり、金持ち故に遺産相続に悩むなど、心の中は、不安でいっぱいではありませんか？ 魂の進化の面から考えても、安楽な環境より、厳しい環境の方が魂を大きくするのですから、貧乏人が不幸せだとは言えないのです。「肉体は苦しんでいるけれど、魂は喜んでいる！」と言われるのは、厳しい環境であればあるほど、魂は成長するからです。

神が望んでいるのは、あくまでも、魂の進化成長です。見た目、幸せだからと言って、羨まないでください。見た目、不幸せだからと言って、嘆かないでください。外見で決められないのが、幸・不幸の正体なのですから……。

## 幸せは平等

---

世の中には、お金や、物や、地位や名誉があれば、幸せだと思っている人たちが大勢おりますが、本当に、そうでしょうか？

どうでしょうか？

○ ゴミ箱をあさって食べている乞食と、何十万もかけて食べている大金持ちの幸せ度を比べることが、できるでしょうか？

○ 高価な服を着ている人の幸せ度と、安物の服を着ている人の幸せ度を比べることが、できるでしょうか？

○ 豪邸に住んでいる人の幸せ度と、アパートに住んでいる人の幸せ度を比べることが、できるでしょうか？

また、こうも言えます。

○ ゴミ箱をあさって食べている人は、エネルギーが頂けないのでしょうか？

○ 安い服を着ている人は、寒さを凌げないのでしょうか？

○ アパートに住んでいる人は、雨風を凌げないのでしょ  
うか？  
更に言うなら、

○ 安物の車に乗っている人は、旅行できないのでしょ  
うか？

○ 安物の服を着ている人は、天皇様に会えないのでしょ  
うか？

○ 中学出の人は、出世できないのでしょ  
うか？

このように幸せと言うものは、お金や物の多寡で決められるものではないのです。と言うことは、この宇宙に「これが幸せだ！」と言える、絶対的な幸せなど無いと言うことです。

幸せは、人の心が生み出すのです。人の心が生み出す幸せですから、比べることは、できないのです。比べられないから、幸せは「公平であり、平等なのです。」神様は、実に、公平な仕組みを作られたものと感心します。

## 星の進化度は平和度で判断できる

星の進化度を判断する基準は何でしょうか？

それは、

「魂の熟成度」と

「幸福度」と

「平和度」です。

ただし、魂の熟成度と幸福度は、外から見えないので判断基準に使えません。でも、平和度は、目に見えないので使えます。

争いごとの少ない星は、平和度が高いので、進化度の高い星です。争いごとの多い星は、平和度が低いので、進化度の低い星です。これは、当然のことでしょう。では、この物差しを使って、地球の進化度を測ってみましょう。

今の地球は、争いごとが絶えません。病気も多いです。事件や事故、自然災害も、日常茶飯事に起きています。と言うことは、平和度の低い星だと言うことです。平和度が低いと言うことは、進化度の低い星だと言うことです。当然、幸福度も低いでしょう。

では、この判断基準を使って、あなたの魂の進化度と幸福度を推測してみてください。

## 分かち合ってこそその幸せ

「神と人間の物語の曲」の文の中に・・・「私は、すべてに満ち足りている！ 幸せ一杯である！」と言う下りがあります。この文から察すると、神の世界は、幸せいっぱいなのでしょうが、自分しかない神の世界においては、ただの自己満足にしか過ぎません。そこで、神は、人類を創り、自分の味わっている幸せを、客観的に認めてもらおうと考えたのです。確かに、人類は、神が味わっている幸せを、認めてやれる立場になりました。でも、神が、どんな幸せを味わっているかは、依然として分かりません。なぜなら、幸せは、味わっている当人しか分からないからです。人の味わっている幸せを、自分のものにすることは、絶対できないのです。その事に気づいた神は、仕方なく、人類の喜んでいる姿を見て満足しようと、考え方を変えたのです。

自分だけの喜びでは、心から喜べないのです。誰かと喜びを分かち合ってこそ、心から喜べるのです。これは、一人で見ているテレビドラマは、余り楽しめないけれど、家族と一緒に見れば、心から楽しめるのと同じです。神も同じなのです。神は、今、人類の喜びを、自分の喜びとしていっているのです。

今後、ますます、人類は、進化してゆくでしょうが、進化の折々、どんな喜びを表現するのか、神は、楽

しみにしていると思います。

## 人類が表現してこそその神の幸せ!?

人類が幸せを味わうまでは、神の幸せは、絵に書いたボタモチにしか過ぎませんでした。人類が幸せを味わうようになって、はじめて、神も、幸せを味わえるようになったのです。人と神は、一時も離れてはいられないのです。離れた途端、幸せから離れてしまうからです。

手には、表と裏がありますが、どこからが表で、どこからが裏だと言う境目はありません。でも、表と裏は、厳然として存在しています。神と人類も、どこから、どこまでが、人類で、どこから、どこまでが、神だと言う境目は無いのです。表の人類がいなければ、裏の神はいないし、裏の神がいなければ、表の人類もいないのです。どちらが無くても、どちらも無いのです。だから、神は、人類に幸せを味わってもらいたいのです。

「表の人類が、幸せを味わっている時は、裏の神も、幸せを味わっている時なのです。」

「表の人類が、不幸せを味わっている時は、裏の神も、不幸せを味わっている時なのです。」

神は、不幸せを味わいたくありません。だから、人類には、どうしても、幸せを味わってもらいたいのです。

人類が幸せを味わってこそその、神の幸せであることを知ってください。

### 幸せとは、神意識（神・生命）のこと

幸せは、実在です。なぜなら、神意識は、実在であり、その神意識は、幸せだからです。そうです。神意識は、幸せそのものなのです。「幸せ」とは、「神意識」のことなのです。

神は、この宇宙に、幸せ以外、何もお創りになりませんでした。その幸せで満ちている、この宇宙に、不幸せが、あるはずがありません。しかし、地球には、沢山の不幸があります。なぜでしょうか？

それは、

「自分の意識が、神意識であることを知らないからです。」

人間の意識だと思っから、悪想念を持ち不幸を作ってしまうのです。

さあ、自分の意識が、神意識であることを知ってください。知っただけでも、不幸は半減します。もし、

心の底で知ったら、もう、あなたに不幸せはないでしょう。

神意識そのものが幸せですから、その神意識を持っている人類が幸せでないはずがないのです。

## この世の幸せの種類

---

この世の幸せは、大きく分けて二種類あります。

一つは、「安堵感や安心感から生まれる幸せです。」

人は、安堵感に満たされると、幸福な気持ちになるものなのです。自然界の生き物たちが、巣を構えるのも、家族を持つのも、人間が、家を持つのも、家族を持つのも、安堵感に満たされたいためののです。心配や不安や恐怖の中には、幸せは無いのです。

もう一つは、「喜びから生まれる幸せです。」

この喜びには、次のようなものがあります。

- 五感で心地良さを感じた時の喜びがそうです。
- 何かをやり遂げた時の達成感がそうです。



○ 物やお金や地位や名誉を得た時の満足感がそうです。

○ 人に褒められた時の嬉しさや、人に無いモノを得た時の優越感なども、その一つです。

このように、この世の幸せは、二種類あるわけですが、いずれも、肉体ある限りの幸せです。私たちが目指している幸せは、そのような虚しい幸せではありません。「永遠に尽きない！ 永遠に色褪せない！」幸せです。

### 三つの幸せ！

---

では、「永遠に尽きない！ 永遠に色褪せない！」真の幸せは、どのような幸せなのでしょう？

この世は、変化変滅を繰り返す無常の世界です。その世界にある幸せは、一時の虚しい幸せです。「これが確かな幸せだ！」と思っても、次の瞬間、手の中からすり抜けてゆくのが、この世の幸せなのです。皆さんは、今日まで、そんな虚しい幸せを嫌というほど味わってきたのです。ですから、皆さんは、もう、そんな一時の幸せでは満足できないのです。神様は、そのような人のために、次の三つの確かな幸せを用意してくれました。

一つは・・・「理解力で味わう幸せ」です。

二つは・・・「意識的五感で味わう幸せ」です。

三つは・・・「意識が意識で味わう幸せ」です。

この三つの幸せは、「永遠に尽きない！永遠に色あせない！」真の幸せなのです。

一、理解力で味わう幸せ！

原子核が増え、理解力が高まれば、宇宙の様々な謎が解ってきます。その謎の一端が解った時、筆舌に尽くしがたい喜びを味わうのです。私は、この喜びを、「理解力で味わう幸せ！」と言っているのです。この理解力で味わう幸せは、宇宙が永遠であるがゆえに、「永遠に尽きない！永遠に色褪せない！」真の幸せと言えるのです。

二、意識的五感で味わう幸せ！

私たちは、成長と共に精妙な波動の身体を纏うようになりますが、その精妙な身体には、意識的五感が備わっており、私たちは、その意識的五感でも、幸せを味わってゆくのです。意識的五感で味わう幸せが、ど

うして、「永遠に尽きない！ 永遠に色褪せない！」幸せかと言いますと、魂の進化と共に纏う身体には、頭打ちがないからです。頭打ちがない身体で味わう幸せだから、「永遠に尽きない！ 永遠に色褪せない！」幸せと言えるのです。

三、意識が意識で味わう幸せ！

この幸せだけは、体験した者にしか解りません。

あえて、文字で表すとすれば・・・、

ただ・・・楽しいのです。

ただ・・・嬉しいのです。

ただ・・・喜び一杯なのです。

それは・・・意識が蕩けてゆくような幸せです。

これ以上、表現できないのが、「意識そのものの幸せ」なのです。そのような意識状態になった時、自分の意識が光ってくるのです。つまり、自分が光ってくるのです。モノや場所に関係ないのです。五感に関係ないのです。

ただ・・・意識が嬉しいのです。

ただ・・・意識が楽しいのです。

ただ・・・意識が喜びに溢れているのです。

このように、「意識そのものの幸せ」は、

何をしなくても！

何を見なくても！

何を聞かなくても！

何を味あわなくても！

何を嗅がなくても！

何を触らなくても！

また、

何を知らなくても！

何を持たなくても！

どこへ行かなくても！

また、

お金や物が無くても、

地位や名誉や権力が無くても、

ただただ、意識が、嬉しいのです。楽しいのです。幸せなのです。

伝えようのない幸せ・言いようのない幸せ・

それが、意識が意識で味わう幸せなのです。

## 無条件の幸せ！

肉体の五官で感じる幸せも、意識的・五観で感じる幸せも、理解力で味わう幸せも、条件が必要です。

例えば、肉体の五官で感じる幸せには、次のような条件が必要です。

- 沢山の物を持っていると言う条件・・
- 沢山のお金を持っていると言う条件・・
- 地位や名誉や権力を持っていると言う条件・・

- 楽しい場所にいると言う条件・
  - 嬉しい人に会っていると言う条件・
  - 楽しいものを見ていると言う条件・
  - 楽しいことを聞いていると言う条件・
  - 美味しいものを味わっていると言う条件・
  - 香ばしい匂いを嗅いでいると言う条件・
  - 美しい物を身に着けていると言う条件・
  - 肌で心地良さを感じると言う条件など・・・。
- また、意識的・五観で感じる幸せにも、次のような条件が必要です。
- 楽しいモノを意識で観る・
  - 楽しいモノを意識で聴く・
  - 楽しいモノを意識で味わう・
  - 楽しいモノを意識で嗅ぐ・
  - 楽しいモノを意識で観じるなど・・・。

そして、理解力で味わう幸せにも、次のような条件が必要です。

- 宇宙の謎を波動の高さで理解する・・・
  - 神の側面を波動の高さで理解する・・・
  - 意識の謎を波動の高さで理解する・・・。
- でも、「意識が意識で味わう幸せ」には、何の条件も要らないのです。

- ただただ・・・意識が嬉しいのです。
- ただただ・・・意識が楽しいのです。
- ただただ・・・意識が喜びに溢れているのです。
- ただただ・・・意識が蕩けるように幸せなのです。

このように「意識が意識で味わう幸せ」には、何の「条件も要らない幸せ」なのです。この幸せが、究極の幸せなのです。

## 究極の幸せを得る方法

では、究極の幸せを得るためには、どうすれば良いのでしょうか？ どうするも、こうするもありません。神意識そのものが究極の幸せですから、神意識を持っている、私たちは、すでに究極の幸せを得ているも同然なのです。ただ、私たちは、この世のしがらみを沢山持っているため、究極の幸せが味わえないだけです。

○ この世の慣習に従わねばならない！

○ この世の仕来りに従わねばならない！

○ こう、あらねばならない！ ああ、あらねばならない！

こんなしがらみに縛られていては、心穏やかに瞑想できないため、神意識に触れることができないのです。では、この世のしがらみを取っ払うためには、どうすれば良いのでしょうか？ それは、原子核を増やすことです。原子核が増えれば、

○ 理解力が高まります。

○ 視野が広がります。

○ 判断力が増します。



○ 先見の明が付きます。

そうなると、この世が幻だと言うことが、はっきりと分かるようになりますから、この世のしがらみに振り回されなくなるのです。この世のしがらみに振り回されなくなれば、深い瞑想に入れるでしょうから、神意識に触れることができるのです。

私たちは、究極の幸せだけが欲しいのです。究極の幸せを得たら、後は何も要らないのです。すべての生命体は、「究極の幸せ」を欲しているのです。

### 第3節 意識

この宇宙には、不可思議な謎が数多く存在しています。中でも最も不可思議な謎が、意識の謎なのです。意識の謎は、どんなに探しても探しても解明できないのです。私たちは、その解明できない意識を持っているのです。と言うことは、永遠に自分が解らないと言うことです。この節では、その不思議な意識の謎に迫ってみることにしましょう。

#### 意識の謎？ パート1

「私の意識」、「私の意識」、「私の意識」・・・この「私の意識」って、一体、何なの？ 誰なの？ 何者なの？ 何処から生まれたの？ 何処から来たの？ 何処に帰るの？ ……この疑問は、尽きることはありません。疑問を、膨らませれば、膨らませるほど、私を悩ませます。どんなに知りたいたいと思っても、知ることができないのです。でも、知らなくて良いのです。知った途端、「私の意識」が消えてしまうからです。なぜ消えるのか？ それは、・・知った途端、私の意識は有限の存在になってしまふからです。有限

とは、限りがあると言う意味です。終りがあると言う意味です。つまり、死があると言う意味です。「私」は、死にたくありません。だから、「私の意識」は、不明のままが良いのです。

ちなみに、神の別名は「不明」です。それは、永遠に神を知ることができないからです。不明なモノは、すべて、神の名で表示されるのです。

- 意識も不明です。
- 命も不明です。
- 光も不明です。
- 力（エネルギー）も不明です。
- 宇宙も不明です。
- 私も不明です。

だから、意識も、命も、光も、力（エネルギー）も、宇宙も、私も、神と呼ぶのです。そうです。私は、「不明な神」なのです。

「知れるモノは、有限なのです。知れないモノは、無限なのです。有限になりたくなかったら、死にたくなかったら、永久に「私の意識」を知らなくて良いのです。」

## 意識の謎？ パート2

「意識」とは何でしょうか？ それは、私と考える「力」です。何かを認識できる「力」です。「意識の力」があるから、私と思え、「意識の力」があるから、何かが認められるのです。では、その「意識の力」は、何処から来たのでしょうか？ 何処から生まれたのでしょうか？ 「意識の力」の源は何でしょうか？  
これは、宇宙の永遠の謎なのです。ただ、こうは言えます。

○ 「意識の力」が宇宙を生み出していると言ふこと。

○ 「意識の力」が命を生み出していると言ふこと。

○ 「意識の力」が叡智を生み出していると言ふこと。

○ 「意識の力」が創造の力（エネルギー）を生み出していると言ふこと。

○ 「意識の力」が素材を生み出していると言ふこと。

○ 「意識の力」が「魂を生み出し」「心を生み出し」「想念を生み出し」ていると言ふこと。

「意識の力」は、すべての産みの親なのです。では、その「意識の力」に、名前を付けましょう。「X」でも構いません。「？」でも構いません。「不可思議な存在」でも構いません。「意識主でも」、「創造

主でも」「宇宙の主でも」構いません。「それでも！あれでも！これでも！」構いません。どうにも呼び名が付けられるのが、「意識の力」なのです。なぜなら、「意識の力」は、宇宙の至るところに遍満しているからです。

このように「意識の力」は、摩訶不思議な存在なのです。その摩訶不可思議な「意識の力」を「神」と呼んでいるのです。摩訶不可思議な存在ですから、これ以上「意識の力」の詮索は止めましょう。

## 意識は宇宙に属するもの！

---

今の人類は、全員が全員、肉体を自分だと思って生きています。でも、私たちは、肉体ではありません。意識です。人間が、モノを考え、言葉を話し、文字を書き、物作りができるのは、意識を持っているからです。では、その意識は、科学者が言っているように、脳から生まれたのでしょうか？ 科学者は、脳が意識を生み出していると言っています。だから、彼らは、肉体が無くなれば、意識が無くなると思い、人は死んだらお終いだと結論づけてしまうのです。

意識は、永遠に無くならないのです。永遠に無くならない理由は、意識は、肉体に属するものではなく、

「宇宙に属する」ものだからです。「意識は宇宙そのものであり、宇宙は意識そのものなのです。」肉体は、単なる意識の乗り物（表現媒体）にしか過ぎないのです。どんな頑健な肉体も、意識がなくては動かないのです。

皆さんは、人の死を見ていると思いますが、意識が抜けた肉体は、単なる抜け殻なのです。抜け殻が、あなたですか？ 腐って無くなる肉体が、あなたですか？ よく、考えて欲しいものです。

## 一本の意識の糸

---

意識が二つ有るわけではありません。この宇宙には、たった一つの意識が有るだけです。そのたった一つの意識を別けて使っているのが、人間なのです。

このように考えてください。意識は、一本の糸のように境目が無いのです。意識を糸の上の方に持ってゆけば、「神意識」になり、糸の下の方に持ってゆけば、「人間意識」になるだけです。私たちは、糸の下の方に意識を持っていて「人間意識」にしているのです。

神と繋がりがなかったら、糸の上の方に意識を持っていてください。「糸の上の方に意識を持ってゆく作

業が瞑想」なのです。瞑想は、糸の境目を無くす、唯一の方法なのです。どうか、瞑想して、意識を上の方へ持って行ってください。そうすれば、そく、神と繋がります。ゆっくり、繋がるのではありません。そく、繋がるのです。それは、一つの意識の糸しか無いからです。

## 私たちは意識そのものである！

私たちは、体を持っていますが、その体は、勝手に動くのでしょうか？ いいえ、動きません。あなたは、話そうと思って、口を動かします。どこかに行こうと思って、足を動かします。口や足が勝手に動くことはありません。言葉を話すのも、手を動かすのも、足を動かすのも、すべて意識がやっていることなのです。その証拠に、意識が無くなった途端、体は動かなくなります。動かないどころか、体は腐って消えてしまいます。では、意識は、どうなったのでしょうか？ 体は死んでも、意識は絶対無くならないのです。「意識は永遠不滅」なのです。

私たちは、永遠不滅の意識なのです。しかし、今の地球人類は、肉体を自分だと思い、肉体のために四苦八苦して生きているのです。争い事が絶えないのも、肉体を自分だと思っているからです。

「肉体は、単なる意識の乗り物（表現媒体）にしかなりません。」生きて居るのは、肉体ではなく意識です。と言うことは、意識が、ご主人で、身体は、下僕だと言うことです。人類は、もう、そろそろ、そのことに気づいて良いころです。

## 自我意識はどのようにして生まれたか？

自我意識は、原子核（魂）が、ある一定量集まれば、自然と生まれるようにできています。それは、原子核一つひとつに「小さな認識力」が備わっているからです。でも、数が少なければ、認識力が小さいため自我意識が生まれません。

原子核が一定量集まると、認識力が強まるので、自分の存在や相手の存在が認識できるようになります。この状態を、「自我を持った、或いは、相対感覚を持った！」と言います。私たちは、五感を持っていますが、それは、相手と自分の区別をつけるためです。痛いから、肉体が自分だと思えるのです。もし、自分の手をつねっても痛くなかったら、肉体を自分だとは思えないでしょう。それでは、自我意識は、生まれません。感覚を通して自分を認識し、感覚を通して他人を認識するのです。



鉱物や植物に、自我意識が無いのは、原子核の量が少ないこと、と、五感を持っていないからです。感覚を持った動物になると、自己防衛する自我意識が生まれますが、でも、まだ、自分も認識できない未完成の自我意識です。しかし、人類のように原子核が膨大に集まると、はっきりとした自我意識が生まれるのです。

このように、自我意識は、「原子核の量と五感」が生み出す、特別な意識なのです。

## 自我意識を持つのは人類だけ！

---

鉱物や、植物や、動物は、自我意識を持っていません。では、神は、どうして、彼らに自我意識を与えなかったのでしょうか？ それには、二つの理由があります。

理由一、情の面から見た場合・

鉱物や植物は、何十億年も、ジッと動かないで、魂の基礎作りをしてきました。また、動物も、厳しい自然環境の中で、魂の基礎作りをしてきました。彼らには、人類のような物作りできる器用な手や足が与えられていません。そんな、彼らに、自我意識を与えたら、長期間、苦しまねばならなかったでしょう。それで

は、可愛そうなので、神は、彼らに、自我意識を与えなかったのです。でも、彼らの背後には、神がおられ、生きるに困らないようコントロールしているのですから、自我など、いらぬのです。

## 理由二、役割の面から見た場合・

地球には、キッチリとした役割があります。それは、地球圏に存在する、すべての魂を、地球の寿命が尽きるまでの間に、自覚の境界線を超えさせることです。そのためには、地球環境を維持してゆく必要があるのです。もし、未成熟な、鉱物や、植物や、動物に、自我意識を与えたら、恐らく、地球環境を破壊してしまうでしょう。それでは、地球の役割は果たせないのです。では、鉱物や、植物や、動物は、何のために存在させられているのでしょうか？ それは、人類を助けるためです。地球に役割があるように、人類にも使命があるのです。一つは、地球に理想の世を建設する使命です。もう一つは、自覚の境界線を超える使命です。この二つの使命を果たすためには、彼らの助けがなければできないのです。

## 自我は生まれ変わる度に違う？

生まれたばかりの赤ちゃんは、自分を認識することができません。それは、まだ、自我が生まれていないからです。長ずると自我が生まれ、自分を認識できるようになります。そうになると、他人の存在も、地球の存在も、宇宙の存在も、認識できるようになり、神っているのかな？ と言う思いも持てるようになります。

「この自我は、今生の肉体から生まれた自我ですから、来生まで、持ち越すことはできません。と言うことは、肉体を持つ度に、新しい自我が生まれると言うことです。」

では、死んだ肉体の自我は、どうなってしまうのでしょうか？ 心配いりません。肉体を脱いだ後も、自我は失いません。失わないのは、肉体の下に別な体を持っているからです。体を持っているうちは、自我は失わないのです。しかし、新しく生まれる時には、別な肉体を持つわけですから、前生の記憶は消され、前の肉体の自我は、消えて無くなってしまふのです。ですから、新しく肉体を持つと、新しい自我で人生を歩まねばならないわけです。

## 自我は変わっても自分は変わらない？

生まれたばかりの赤ちゃんに、自我が無いのは、肉体を使った体験が、まだ無いからです。肉体を使って体験すると、意識と肉体の乖離が埋まるため、肉体が、自分だと思えるようになるのです。思えるようになった時が、自我を持った時なのです。

さて、自我を持った人間は、肉体を自分と思いながら、人生を歩みます。そして、色々な人生体験を通して、魂を大きくし、一生を終えます。その肉体の自我は、その肉体限りの自我で、来生に持ち越されることはありません。来生は、来生で、新しい自我を持ち、新しい人生を歩むのです。でも、自我は、新しくなっても、自分は変わらないのです。前の肉体で自分と思っていた自分と、今生の肉体で自分と思っている自分は、変わらないと言うことです。

それは・・

「自分」は、永遠に引き継がれてゆく、命生（魂）の自分だからです。どんなに肉体が変わろうが、命生の自分は、変わらないのです。ですから、自分が無くなると思わないでください。自分は、命生（魂）であると思ってください。

よく、「前に、こんな事をした覚えがある」と言う「デジャブ」の体験をする人がおりますが、これは、命生に刻まれた、過去生の記憶が薄っすらと蘇ってきたためです。このデジャブの現象は、命生（魂）が、永遠に引き継がれていると言う証拠であり、自分（命生・魂）は、永遠に変わらないと言う証拠でもあるのです。

### 意識を持っているモノはみな神である

この宇宙には、たった一つの神意識しかありません。その神意識を、あなたは持っています。私も持っています。すべての人類が持っています。いいえ、人類だけではありません。石も、菌も、虫も、空気も、水も、土も、すべてのモノに神意識があるのです。と言うことは、すべてのモノは、神であると言うことです。

意識のないモノは、一つもないのです。なぜなら、この宇宙は、意識によって出来ているからです。意識から産まれたモノは、みな、同じ意識の子供たちです。形は違って同じ意識で創られたのですから、みな、兄弟姉妹同士なのです。だから、兄弟姉妹同士、喧嘩してはならないのです。

こう、心に刻みましよう！

「私は、一つしかない神意識によって創られたがゆえに、私は、神である！」と・・・。

「すべてのモノは、一つしかない神意識で創られたがゆえに、すべてのモノは、神である！」と・・・。

「神であるがゆえに、私は、すべてのモノであり、すべてのモノは、私である！」と・・・。

このように、私も、あなたも、すべてのモノも、一つの神意識で括れるのです。

## 意識の壁を破る

意識を一本の糸で示せるのは、人間意識と神意識は同じ意識だからです。同じ意識なら、神の自覚を持つのは、そう難しいことではないと思います。なぜなら、意識を入れ替える必要がないからです。ただ、人間と誤解している想いを、神の想いに変えれば良いだけです。

私たちは、気の遠くなる年月、人間と誤解して生きてきたために、人間の自覚を持つようになっただけなのです。私たちは、もともと、金なのです。ただ、金に泥が付いているだけです。泥を取れば、そく、金になります。私たちは、もともと、神なのです。神が人間と言う泥を付けているだけです。人間の泥を取れ

ば、そく、神に返り咲けるのです。

人間の誤解を解くためには、「自我と真我を遮っている意識の壁を」破ることです。それは、瞑想でできるのです。雨滴を見てください。硬い石に穴を開けているではありませんか？ 私たちも、何度も、何度も、神を想い続けられれば、意識の壁を破ぶことができます。どうか、「根気よく神を想い続けてください！」必ず、意識の壁は破られます。

## 意識の再認識

「意識」の謎を知ることには、永遠にできません。知った途端、意識が消えてしまうからです。意識が消えると言うことは、私が消えると言う意味です。それでは、宇宙に物語が生まれません。物語が生まれなくては、幸せも生まれません。だから、意識の謎を知らなくて良いのです。

意識は、永遠に無くなることはありません。意識は、永遠の昔から有ったし、今も有るし、未来永劫有るのです。意識は、「アルファ(α)にしてオメガ(ε)」なのです。「アルファ」にしてオメガ」だから、無くなりようがないのです。意識は、永遠不滅なのです。その意識を、私たちは、持っているのです。ゆえに、

私たちも、永遠不滅なのです。私たちは、意識そのものなのです。意識そのものだから、私たちの意識が無くなったら、宇宙が無くなり、宇宙が無くなったら、私たちの意識が無くなるのです。これは、宇宙Ⅱ人類Ⅱ神である証拠なのです。

神が存在していた時には、人類は存在していたのです。宇宙が存在していた時には、神人は存在していたのです。人類は、いずれ、誰でもが、神人になるのです。それは、意識を持っているからです。「意識」あればこそ「宇宙」です。「意識」あればこそ「神」です。「意識」あればこそ「私」です。「意識」ほど不思議なものはありません。

### 一度も私から離れたことのない意識

「意識」は、私から一度も離れたことはありません。「私」も、意識から一度も離れたことはありません。「私から離れた意識もなければ、意識から離れた私もないのです。」

「私は意識そのものであり、意識は私そのものなのです。」  
と言っことは、



「神は意識ですから、私から離れた神もいなければ、神から離れた私もないことになります。」

その意識は、一つしかありませんので、私を創造する場合、意識、自らが、私になるしかありません。つまり、神、自らが、私になるしかないのです。もし、二つも三つも意識があるなら、他の意識に、私になってもらえるかも知れませんが、一つの意識しかないわけですから、一つの意識が、私になるしかないのです。だから、意識は、常に、私と共にあったわけです。その意識と対面したければ、ただ、意識すれば良いだけです。意識が意識を意識すると言う意味です。一つの意識しか無いわけですから、そうするしかないのです。私と意識は、いつも一緒です。一時も離れたことがないのです。私と意識は、夫婦よりも、親子よりも、固い絆で結ばれているのです。それは、手よりも、足よりも、近い、心の中に存在しているからです。

### 意識に感謝しよう！

私たちには、感謝しなければならぬモノが一つあります。それは、意識です。意識がなくては、何も始まらないのです。「意識があるから、何かが有るのです。」意識がなかったら、何も有りようが無いのです。意識有っての物種なのです。私たちは、その意識を持っているのです。と言うことは、私たちが、すべての

モノを創っていると言うことです。世の人々は、外側に何かがあると思っていますが、外側に何かがあるのではなく、あなたの意識が、外側のモノを創っているのです。つまり、あなたの意識が、家族を存在させ、友人を存在させ、地球を存在させ、宇宙を存在させているのです。あなたの意識が無くなったら、何もかもが消えてしまうのです。

あなたの意識を存在させているのも、あなたの意識です。あなたの意識あつてのあなたの意識であり、あなたの意識あつてのあなたの意識なのです。あなたの意識は、切っても切れない関係にあるのです。どちらの意識が無くても、どちらの意識も存在できないのです。それは、「あなたの意識があなたの意識を創り、あなたの意識があなたの意識を創っている」からです。あなたの意識とあなたの意識は、何と不思議な関係にあるのでしょうか？

嬉しいことも、楽しいことも、苦しいことも、悲しいことも、みな、あなたの意識が創っているのです。幸せも、不幸も、みな、あなたの意識が創っているのです。だから、あなたは、意識に感謝しなければならぬのです。

## どんなモノも意識の兄弟姉妹

宇宙には、たった一つの意識しかありません。そのたった一つの意識のことを、「宇宙」と言ったり、「神」と言ったり、「魂」と言ったり、「心」と言ったり、「想念」と言ったりしているのです。でも、名を分けてしまうと、ややっこしくなるので、ここでは、「意識」という一つ名で説明することにします。

「意識は、すべての大元」です。どんな「モノ」も意識の創作物です。と言うことは、人類も、意識の創作物と言うことになるでしょう。同じ意識から生まれた創作物ですから、どんな人類も同じ仲間です。意識が二つも三つもあるなら、別な人類もいるかも知れませんが、一つの意識しか無いのですから、種類の人類しかないのです。だから、地球上に存在する色違いの人類は、みな、兄弟姉妹です。人類だけではありません。鉱物・植物・動物も、一つの意識によって創られた兄弟姉妹です。兄弟姉妹ですから、仲良くしなければならぬのです。

足蹴りしている石も、踏み潰している草花も、嫌っている菌も、嫌な虫も、みな、兄弟姉妹です。どうぞ、兄弟姉妹、仲良くしてください。

## 神を認めてやれる意識

神には、姿形がありません。表現されないのが、神なのです。それでは、自分の存在が無いので、自分の意識を分けて、分身を創り、分身を通して自分を認めてもらおうとしているのです。神は、創造力を持った本質（素材）ですから、何でも創造することができますのです。人類は、その神によって創られた、とびっきりの傑作作品です。とびっきりの傑作品なのは、神と同じ意識を持っているからです。しかも、その意識は、自分を認められ、神を認められる、自我意識です。この自我意識は、鉱物や、植物や、動物には無い、特別な意識です。神は、人類に、その自我意識を使って、自分を認めて欲しいのです。

人類は、今、自分を認め、家族を認め、地球を認め、宇宙を認めておりますが、まだ、神を認めてないのです。「神っているのかな？」と疑心暗鬼な状態なのです。神にとって、そんな人類が、何とも齒がゆいのです。

一般人は、仕方がないとしても、この本を読んでいる皆さんは、神を認めてやれるまでに成熟した魂です。から、どうぞ、神を認めてやってください。神は、喜んでくれるでしょう。私には、その「喜びの表情」が何となく解るのです。

## 神意識は「真・善・美」の塊

神意識は、真であり、善であり、美です。神意識の中には、一点の偽りも、一点の悪も、一点の醜いモノも無いのです。なぜなら、神意識そのものが「真・善・美の塊」だからです。私たちは、その神意識を持っています。だから、私たちは、偽りを嫌い、悪を嫌い、醜いものを嫌うのです。

私たちは、自我意識と神意識を持っていますが、自我意識は、肉体を保持したい思いが強いため、どうしても、欲望や感情を膨らませ、「真・善・美」を汚してしまうのです。でも、自我意識の中には、「真・善・美のひな形」が備えられているのです。だから、「真・善・美」を汚すと心が痛むのです。私たちの心は、神意識から生まれた心ですから、トコトン真善美を汚すことはできないのです。

この宇宙には、「真」だけがあるのです。「善」だけがあるのです。「美」だけがあるのです。どうか、あなたの心の中にある「真・善・美のひな形」を、自我意識で汚さないでください。

## 真の自分とは？

どうして、「自分」と思えるのでしょうか？ それは、「自我の自分」があるからではありませんか？ 「自我の自分」がなかったら、「自分」と思えないはずですよ。では、その「自我の自分」は、どうして生まれたのでしょうか？ どこから生まれたのでしょうか？

本来、この宇宙には、たった一つの「神我の自分」しか存在しません。でも、たった一つの「神我の自分」では、客観的に認められないので「神我の自分」の存在はないのです。それでは、「神我の自分」は困るのですね。「神我の自分」を株分けし「自我の自分」を創ったのです。ですから、株分けした時点で、「神我の自分」と「自我の自分」の二つの「自分」ができたのです。

「自我の自分」は、肉体の自分が認識できます。妻や子や友達も認識できます。地球や宇宙も認識できます。でも、まだ、「神我の自分」が認識できていません。それは、「自我の自分」が、「自分」のことを肉體人間だと思いついてるからです。この段階は、「自我の自分」が表面に出すぎて、「神我の自分」が潜在している状態なのです。つまり、「自我の自分」と「神我の自分」が分かれていない状態なのです。それでは、「神我の自分」を認めてやることはできないのです。

あなたは、今、「自分」のことを「人間」だと思っていますか？ 「神」だと思っていますか？ 「人間」だと思っているなら、「自我人間」です。神だと思っているなら、「神我人間」です。でも、落胆しないでください。原子核が大きくなれば、「神我の自分」を「自分」だと思えるようになるのですから……。

### たった一つの私（真我）

本来、この宇宙には、たった一つの「真我の私」しか存在しません。でも、一つの「真我の私」だけでは、「真我の私」は、存在できないのです。もう一つの「自我の私」が、「真我の私」を認めることによって、はじめて、「真我の私」が存在できるのです。「自我の私」の意識と「真我の私」の意識は、同じ意識ですが、「真我の意識」だけでは、客観視できないため、止むを得ず意識を二つに分けたのです。「真我意識」が「自」らを「分」けたので、「自分」と言う言葉ができたのです。

表だけでは、表の存在はありません。表が存在するためには、必ず、裏がなければなりません。雑巾にも、手にも、必ず、裏と表があるように、表だけの雑巾もなければ、表だけの手もないのです。また、裏だけの雑巾もなければ、裏だけの手もないのです。一つが二つに分かれて、雑巾も、手も、存在できるので

す。「真我の私」だけでは、「真我の私」は、存在できないのです。「自我の私」が「真我の私」を認めて、はじめて、「真我の私」が存在できるのです。この神の苦衷を察してやってください。

## 永遠に生き通す意識

あなたは、永遠に自分を知ることできません。「私は自分のことを良く知っていますよ！」と、言う人がおりますが、それは、肉体の自分を知っているのであって、本当の自分を知っているわけではないのです。でも、知らないのは、あなただけではありません。宇宙人も、覚者も、天使も、この宇宙に存在する誰もが、自分を知らないのです。しかし、知らなくて良いのです。知った途端、自分が消えてしまうからです。自分を知ったと言うことは、自分が有限であることを知ったわけですから、自分を殺したことになるのです。それは、自分の意識の幕引きですから死です。意識のある間は生きています。意識が無くなったら死なのです。「私たちが、未だかつて、死んだことが無いのは、意識が途絶えたことが無いからです。」

自分を知ってはなりません。いや、知ろうとしても、知れないのです。だから、私たちは、安心して、希望を持って、真理の旅を続けることができるのです。今まで、意識の途絶えたことがないように、これから



も、意識の途絶えることはありません。私たちの意識は、永遠に生き通すのです。それが、私たちなのです。

## 永遠に解らない意識

意識には、誕生も死もありません。永遠の昔より存在していたし、今も存在しているし、未来永劫存在し続けているのが意識なのです。初めなき始めより存在し、終わりなき終わりまで存在し続ける、不可思議な存在が意識なのです。探っても、探っても、探りようのない存在が、意識なのです。探りようがないのは、意識に生死がないからです。生死がなければ、生歴が無いので、素性が分からないのです。素性が分からないければ、知る手がかりが無いので、何も分からないのです。

- 意識の源が解らない？
- 何処から生まれたのかも解らない？
- 何処から来たのかも解らない？
- どんな力で存在させられているのかも解らない？

○ なぜ、存在させられているのかも解らない？

私たちは、その解らない意識を持っているのです。と言うことは、私たちも、解らないと言うことです。そうです。私たちは、永遠に自分を知ることができないのです。分かっている事と言えば、意識を持っている事と、意識が無くならない事だけです。何と、心もとないことでしょう。でも、それで良いのです。もし、分かったら、自分が消えてしまうからです。

### 意識を知ったらなぜ消えるのか？

私の意識が、どこから来たのか？ どこから生まれたのか？ どんな存在かは、永遠に解りません。と言うことは、「私の意識」は、永遠に解らないと言うことです。でも、解らなくて良いのです。もし、解ったら、私も、宇宙も、一瞬にして消えてしまうからです。なぜ、消えるのでしょうか？

意識を知った状態は、

○ 最後を知った状態です。

○ 終わりを知った状態です。

○ 無限を知った状態です。

○ 永遠を知った状態です。

しかし、無限を知り得るでしょうか？ 永遠を知り得るでしょうか？ 知り得るなら、無限でも、永遠でも、無くなってしまいます。有限は、「終りがあり、死がある」と言う意味ですから、意識を知った途端に、自分が死んでしまうのです。つまり、消えて無くなってしまふのです。

無限も、永遠も、知りようがないのですから、自分の意識も、知りようがないのです。あなたは、無限の自分を、有限の自分に、引きずり下ろしたいのですか？ 引きずり下ろしたくないですね。だから、自分の意識を知らなくて良いのです。

神を永遠に知ることができないように、自分の意識も永遠に知ることができないのです。

「解けない謎は、解けないままにしておきましょう！」

## 自分の意識が変われば人生（世界・宇宙）が変わる

私たちが、日々、見て感じている世界は、原子核（魂）の量によって、違ってくる世界ですから、同じ世界を見ているようで、人それぞれ、違う世界を見ているのです。でも、自我人間には、その違いが解りません。それは、同じ土俵の中で相撲を取っているからです。しかし、原子核（魂）が増え、理解力が高まれば、違いが解ってくるのです。それは、土俵の外から見るとなるからです。

原子核の量が増えれば、見方が変わるのには、「現実感が薄れてくるからです。」現実感が薄れれば、自分の意識に変化が起きるのです。例えば、「見方や感じ方」、或いは、「受け取り方や納得の仕方」が変わってくるのです。そうになると、今まで、憎んでいた人が、なぜか、憎めなくなります。今まで、厳しいと思っていた環境が、なぜか、厳しく思えなくなります。それどころか反対に、愛おしい人にさえ思え、穏やかな環境にさえ思えるようになるのです。この意識の変化は、原子核が増えれば、誰にでも起こる不思議な現象です。学びの友の中に、自分を変えたいと焦っている人がおりますが、焦らないでください！ 地道に原子核を増やせば、自然と自分の意識状態が変わり、環境も変わってくるのですから……。今、あなたが、やるべきことは、ただ、自分の原子核を増やすことです。

## 意識は宇宙・宇宙は意識

宇宙は、永遠に知ることができません。それは、宇宙が無限だからです。無限を知ろうなど、とんでもありません。では、諦めるしかないのでしょうか？ いいえ、その子を通してなら知ることが出来ます。その子とは、人類のことです。では、人類を知れば、なぜ、宇宙を知ることが出来るのでしょうか？ それは、人類は、意識を持っているからです。

意識は、宇宙なのです。宇宙は、意識なのです。だから、意識を持っている人類を知れば、宇宙を知ることが出来るのです。では、自分の意識を知りましょう！ しかし、自分の意識も知ることができないのです。なぜなら、自分の意識の源が分からないからです。源が分からなくては、知りようがないのです。でも、知れなくて良いのです。なぜなら、「自分の意識を知ることができないと解ったことが、宇宙を知ったことになるからです。」

自分の意識を知ることが、永遠にできません。と言うことは、宇宙も、永遠に知ることができないと言うことです。この宇宙は、解らない尽くめなのです。それは、自分の意識が永遠に解らないからです

## 何かを知るには起点が必要

「知る事」について考えてみましょう。

「知っているは、知る事ができません。知らないから、知る事ができるのです。知った事は、二度と知る事ができないのです。」

なぜなら、一秒前に知った事は、一秒後には陳腐化しているからです。それは、自分の意識が、時々刻々と進化しているからです。つまり、起点になる自分の意識が、時々刻々と進化しているからです。

あなたは、今、宇宙のどこにいるか知っていますか？ 地球のどこにいるかは、知ることができません。それは、無限大の宇宙の中に起点がないからです。無限大の宇宙の中で、何かを知るには、起点になる何かが必要なのです。その起点になる何かは、銀河系宇宙であり、太陽系宇宙であり、地球であり、鉱物であり、植物であり、動物であり、人類であり、「知った諸々の事」なのです。「知った諸々の事」と相対させる事により、何かを知る事ができるのです。だから、宇宙には、様々な起点となる知るべき物が置かれています。

## 神意識は素材！

何かがあるからには、何かを生み出す素材がなくてはなりません。素材無しに、何かが生まれることはないのです。では、その素材とは、何でしょうか？ それは、神意識です。神意識は、素材なのです。しかも、素材でありながら、創造の意思を持ち、創造の力を持っているのです。ですから、何かを創ろうと思ったら、そく、そのモノになることができます。その神意識と同じ意識を、私たちは、持っているのです。だから、私たちは、何でも創ることができるのです。創り方は、神と同じです。つまり、そのモノを創ろうと言う想いを持って良いだけです。想いが、モノ作りの原理です。私たちは、その想いを持っているのです。

このように、私たちは、偉大な想念を持っているわけですが、その想念の大元は、神意識なのです。つまり、神意識が、「魂を」生み、「心を」生み、「想念を」生み出しているのです。

神Ⅱ意識です。意識Ⅱ素材です。素材Ⅱ神です。  
意識Ⅱ魂です。意識Ⅱ心です。意識Ⅱ想念です。

私たちの意識は、神であり、魂であり、心であり、想念であり、素材なのです。私たちが、神なのは、神と同じ意識を持っているからです。

## 真実は意識！

---

真実とは、何でしょうか？

真実は、見ることも、聴くことも、肌で感じることもできません。でも、真実は、私たちの中に厳然として存在しています。「意識として」・・・言うことは、私たちは、真実そのものだと言うことです。ならば、私たちは、どのように、生きるべきでしょうか？ 当然、真実に生きるべきです。

真実に生きるとは、肉体を自分として生きるのではなく、意識を自分として生きることです。

つまり、

「今、想っているのは、意識である！」

「今、言葉を話しているのは、意識である！」

「今、行動しているのは、意識である！」

と思いつながら生きることです。

真実は、意思を持っています。計画性を持っています。創造の力を持っています。目には見えないけれど、現実を操っている能動的な存在が真実なのです。肉体は、真実から力を貰わなくては生きられません。真



実（意識）は、自分の力で生きているのです。

それは、

「エネルギー」だからです。

「光」だからです。

「力」だからです。

その真実（意識）のことを、神と呼んだり、仏と呼んだり、生命と呼んだり、しているのです。

## 人は時間なり！

---

「時は、金なり！」と言われますが、「時は、人なり！」なのです。なぜなら、人の意識が、「時」を生み出しているからです。

こう言うことです。

意識は、絶対無くなることはありません。その絶対無くならない意識を持っている人だけが、「時」を感じることができるのです。「時」が存在しているのでは無く、「時」を感じる人の意識が存在するから、「時」

が存在するのです。「時」が、永遠に続くのも、永遠に無くならない人の意識が存在するからです。と言うことは、「人の意識が時を創り」、「人の意識が表現宇宙を創っている」ことになるでしょう。「時と宇宙」と「間と宙」は、切り離せないのです。人の意識が「時」を創り、人の意識が「宇宙」までも創っているのです。

復習しましょう。

時間の「時」とは、意識のことです。時間の「間」とは、人のこと・肉体のこと・物質のこと・表現宇宙のこと・です。人は、時間であり、宇宙なのです。人の中には、常に「時間と宇宙」があるのです。だから、人は、小宇宙と呼ばれているのです。

「人は神なり!」、「人は宇宙なり!」と言えるのは、人は、「時間」そのものだからです。

### 意識はなぜ無くならないか?

私が、まだ、真理を知らなかった時代、「自分の意識があるから、悩んだり、苦しんだりするのだから、自分の意識が無くなれば、どれほど幸せか!」と思いました。でも、絶対無くならない、「自分の意識」を

知ったのです。自分の意識は、「エネルギー」だったのです。エネルギーは、「エネルギー不滅の法則」によつて、絶対無くなることはないのです。もし、エネルギーが無くなるなら、その時点で、宇宙は、消滅してしまうのです。宇宙は、絶対消滅することはないのですから、私たちの意識も、無くなることがないのです。

確かに、気絶という状態があります。私の幼いころの体験ですが、野球のバットが私の顔に当たり、一瞬、意識を失ってしまったことがありました。でも、これは、一時、エネルギーが途絶えただけで、意識が失われたわけではないのです。では、意識（エネルギー）は、なぜ、無くならないのでしょうか？ この謎は、永遠に解らないでしょう。宇宙には、解らないことが沢山ありますが、意識（エネルギー）が、無くならない謎も、その一つなのです。

### なぜ意識は飽きるのか？

なぜ、意識は、飽きるようになってきているのでしょうか？ それは、意識が、永遠不滅だからです。永遠不滅なモノは、みな、飽きがるのです。誤解されては困りますので言い添えますが、不完全な意識だから飽

きるのではなく、完全な意識だから飽きるのです。もし、飽きなかったら、満足して、そこに留まってしまおうでしょう。それでは、向上心が湧かないので、進化の道が閉ざされてしまうのです。神様が人類に飽きる意識を持たせたのは、進化成長の道を、どこまでも歩んでも歩んでも歩きたいからです。

地球に「努力」という文字や言葉があるのは、進化成長に必要な文字や言葉だからです。文字や言葉は、創造の力であり、源なのです。それは、意から生まれた力だからです。私たちは、意と言葉と体を使って進化してゆかねばならないのです。そのためには、努力は必要なのです。

現状に満足している人は、努力しません。それでは、その段階に留まってしまい成長できないのです。人間が進化成長できるのは、飽きる意識を持っているからです。どうか、人類に飽きる意識を持たせた、神の意図をご理解ください。

### 誰が人間にしたのか？

人間は、自分のことを知っているつもりですが、本当の自分を知っている人は皆無です。「私は自分を知っていますよ！」と言う人は、肉体の自分を知っているのであって、本当の自分を知っているわけではない

のです。

私たちは、肉体では無いのです。なぜなら、肉体は、必ず、消えて無くなるからです。消えて無くなる肉体が、自分であるはずがありません。本当の自分は、永遠不滅の意識なのです。生命なのです。魂なのです。これを知らず死んでは、死んでも死にきれないでしょう。

では、自分を知りましょう。

「なぜ、あなたは、人間なのですか？」と訊くと、「どうしてそんな質問するのですか？」、と多くの人が首を傾げます。人間であることが当たり前になっていて、そんな疑問さえ浮かばないのが、今の人間なのです。でも、よく考えてみてください。あなたは、いつから、人間になったのですか？ 気が付いたら人間だったではありませんか？ あなたは、「人間になりたい！」と、誰かに頼んで人間になったのですか？ 頼んでもいないのに、人間だったのではありませんか？ こんな押し付けがましいことがありませんか？ では、誰が、あなたを人間にしたのでしょうか？ また、どうして、人間になったのでしょうか？ 何も人間でなくても、猫でも、犬でも、鳥でも、蝶でも、花でも、木でも、石でも、良かったはずなのに、なぜか、人間だった？ ……。

自分の意識を「私！ 私！ 私！ 私！ ……」と、追いかけてみてください。意識の源が掴めますか？ い

くら追いかけても、掴めないのではありませんか？　では、その掴めない意識を持っている自分は、何なのでしょうか？　神ではないでしょうか？　なぜなら、神しか意識を持っていないからです。

人間にならねばならなかった理由は、人間の意識は、「神の意識」だからです。人間がいなかったら、神もいないのです。神がいなかったら、人間もいないのです。「誰が人間にしてくれと頼んだのか？」と文句を言ったところで、「自分が人間にしたのですから、誰にも文句は言えないのです。」あなたがいなかったら、自分もいないけれども、宇宙も、神も、存在しないのです。

今、あなたは、人間になった覚えがないと文句を言っていますが、神の自分に目覚めたら、人間であったことに感謝できるでしょう。

## 自我の意識と真我の意識の関係

あなたは、自分を直に見たことがありますか？　見たことがないはずですよ。自分を直に見た人は、未だかつて一人もいないのです。それは、太陽の中には、太陽が見られないように、自分の中には、自分が見られないからです。一つの中には、一つが解らないのです。自分の中には、自分が解らないの

です。本当の自分を見るためには、自分を二つに分けて外から見ると見えないのです。つまり、相対させ、はじめて、自分が見られるのです。だから、神は、私たちに、「自我意識」を持たせたのです。

「真我意識がなくては、自我意識がありません。また、自我意識がなくては、真我意識もありません。」真我意識と自我意識は、二つで一つなのです。二つの意識は、相身互いの関係にあるのです。でも、二つの意識が独立しているわけではありません。意識は、宇宙に一つしか無いのです。意識は、一本の糸なのです。ただ、糸の上に意識を持ってゆけば真我意識になり、糸の下に持ってゆけば自我意識になるだけです。

繰り返します。

自我意識の自分が真我意識の自分を認め、真我意識の自分を存在させているのです。また、真我意識の自分が自我意識の自分を創り、自我意識を存在させているのです。このように、自我意識と真我意識が互いに支え合って存在しているのです。私たちの中に、二人の自分がいることを忘れないでください。

## 自我意識の自分に勝つ方法？

私たちの中には、自我意識の自分と真我意識の自分の二人の自分があるわけですが、殆どの人は、自我意

識の自分に主導権を握られています。ですから、今、地球では、事件、事故、災難が、後を絶たないわけです。では、どうすれば、真我意識の自分に主導権を握らすことができるでしょうか？ それは、常に良い想いを持ち続けることです。

良い想いを持っている時は、自我の自分は奥に引っ込んでゆきますので、自我に主導権が握られることはありません。その状態を続けるためには、良い想いを持ち続けることですが、それは、神を思い続けたら良いのです。

私たちは、常に、心の中で自我の自分と真我の自分が戦っているのです。悪いことをして良心が痛むようになった人は、自我の自分に勝った人です。悪いことをして平気な人は、自我の自分に負けている人です。学びの友の皆さんは、もう、自我の自分に負けなと思います。まだ、負けているなら、原子核を増やし、一日も早く、自我の自分に勝てるようになってください。

原子核が増えれば、自我意識の自分と真我意識の自分が融合します。その者は、もう、自我の自分に負けることはありません。その人は、神人と呼ばれるに相応しい人でしょう。



## 意識の謎を解きほぐす

意識の謎は、どんなに、探っても、探っても、探り切れない奥深さがあります。ですから、少しずつ、解きほぐしてゆくしかないのです。解きほぐし方は、神を想い、原子核を増やすことです。原子核が増えれば、増えた分、意識の謎が解きほぐされてくるのです。

仏という言葉がありますが、この言葉には、二つの意味があります。

一つは、「仏は、人である」と言う意味です。その仏は、神のことですから、人は、神であると言う意味にもなるのです。

もう一つは、「仏とは、意識の謎が解けて（ほどけて）くる」と言う意味です。宇宙の謎が解ければ、意識の謎も解けて（ほどけて）くるのです。

この大宇宙には、意識の糸が縦横に絡み合って張り巡らされているのです。その糸を解きほぐすには、時間をかけ、少しずつ、少しずつ、解きほぐすしかないのです。求道の旅を永遠に続けなければならない理由は、意識の謎を解きほぐすには、永遠の時が必要だからです。でも、どんなに時をかけても、意識の謎を解きほぐすことは、永遠にできないのです。でも、それで良いのです。解きほぐせない意識の謎を探つてゆく

旅が、楽しいのですから・・・。

（「仏」の左辺の「イ」は人と言う意味で、右辺の「ム」は宇宙を示している。仏と言う文字は、人は宇宙である事を示しているのである。宙は仏であるから、人は仏であると言うことです。）

## 第4節 魂

宇宙には、神が放射した意識の核が無数に浮遊しております。でも、その意識核は希薄なため、自分がないのか記憶を失っているのです。そこで、意識核は、記憶を蘇らせるために本能的に集まってくるわけですが、その一定量集まった意識核の塊を魂と呼んでいるのです。

この節では、魂とは、どのようなものか？ 探ってみることにしましょう。

### 魂とは？

神は、相対宇宙（表現宇宙）を創るに当たり、自分の意識を「意識核」として放射しました。その意識核

の集合体が、いわゆる、個々の魂（原子核・生命核）と言われるモノです。この相対宇宙には、そのような魂が無限に存在するのです。その魂は、様々な形の中に入って体験を深めドンドンと成長してゆくわけですが、どんなに成長しても、一つの寛大な魂から離れることはありません。

つまり、

「一つの寛大な魂の中に個々の魂が存在し、個々の魂の中に一つの寛大な魂が存在するのです。」  
ですから、この宇宙には、無限数の個々の魂が存在すると同時に、寛大な魂が一つ存在することになるわけです。

個別の魂は、形の中に入ることによって、個別の心を生み出します。その個別の心は、さらに、想念を生み出します。そして、その想念が引き寄せた環境で体験を深め成長してゆくのです。このように、神の意識から生まれた魂は、心を生み出し、想念を生み出し、想念が引き寄せた環境で体験を積みドンドンと成長してゆくのです。

## 魂の集積の仕組み

前述したように、神は、自分の意識核を無限に放出して、表現宇宙を創造しました。しかし、放出した意識核は、いずれ、回収しなくてはなりません。でも、神、自らが回収するとなると、大変な手間が掛かります。そこで、手間を省くために、神は、自動的に集まる「親和力」と言う仕組みを意識核の中に組み込んだのです。こうすれば、放っておいても、神の中に意識核が戻ってゆきます。神は、実にうまい仕組みを創られたものと感心します。

この仕組みは、地球上において、色々なところで応用されており、例えば、土の中の養分は、草や、木や、稲や、野菜が集めてくれます。台所の小さなゴミは、ゴキブリが食べて集めてくれます。部屋の中のダニは、蜘蛛が食べて集めてくれます。「食物連鎖・生態ピラミット」も、この仕組みが応用されています。科学者は、この仕組みを「エントロピーの法則」と言っておりますが、瞑想によって、原子核を集めるのも、この仕組みを応用したもののなのです。

## 魂の進化の歴史

---

魂の進化は、次のような手順で行われています。

第一段階・神の意識核が放射されます。

←

第二段階・神の意識核が集積され、鉱物の魂へと進化を遂げます。

←

第三段階・更に意識核が集積され、鉱物の魂から植物の魂へと進化を遂げます。

←

第四段階・更に意識核が集積され、植物の魂から動物の魂へと進化を遂げます。

←

第五段階・更に意識核が集積され、動物の魂から人類の魂へと進化を遂げます。

鉱物の魂は、数十億年の時をかけ、植物に進化します。その植物の魂は、更に十数億年の時をかけ、動物に進化します。動物に進化した魂は、更に数億年の時をかけ、人類に進化します。人類に進化すると自我を持つわけですが、これが、「自我の境界線を越えた」と言い、宇宙における大きな節目の一つです。自我を持った人類は、更に、第二の節目である、自覚の境界線を目指して、魂を大きくしてゆきます。第二の節目である、自覚の境界線を越えた人を「神人」と言いますが、これが、求道者の大きな目標です。この第二の節目を超えるまでの期間は、わずか、数百万年です。第一の節目達成までに数十億年の時を要したことを考えれば、第二の節目達成までの期間が、いかに早いか分かって頂けると思います。

第一の節目・・・鉱物↓植物↓動物↓自我を持つ人類へと進化・・・約数十億年の年月を要する。

第二の節目・・・人類↓神人へと進化・・・約数百万年の年月を要する。

このように、人類に進化した以降の魂は、想像を絶するスピードで進化を遂げてゆくのです。でも、これも、まだ、序の口です。自覚の境界線を越えた後の進化の道程は、途方もなく長いのです。長いどころか、どんなに進んでも終着点のない進化の道程なのです。なぜなら、宇宙は、無限だからです。

## 体験が魂を大きくする

「体験は宝！」と言われるのは、体験だけが魂を大きくしてくれるからです。鉱物や、植物や、動物が、進化するに従い人間の身近に寄ってくるのは、体験したためです。例えば、鉱物は、建築用材として、機械用材として、食用材として、薬用材として使われます。植物は、環境用材として、観賞用材として、薬用材として、食用材として使われます。動物は、畜力として、食材として、ペットとして使われます。彼らは、美しく装ったり、香ばしい匂いを放ったり、色々と便利な性質を備えたりしますが、それは、「人間に使われるよう誘っている」のです。人間の波動を浴びれば、急速に魂が進化することを本能的に知っているからです。彼らには、自我がありませんが、ちゃんとした知恵を持っているのです。

このように、鉱物も、植物も、動物も、みな、体験を通して進化成長してきたのです。私たちも、気の遠くなる年月、体験して魂を大きくしてきたのです。

どうか、体験を嫌がらないでください。多く体験すればするほど、魂は大きくなるのですから・・・。

## 悟りのピラミット

---

人類は、誰でも、いつか、必ず、自分の本性を見抜かなければなりません。つまり、自分が、「意識であった！ 生命であった！ 神であった！ 魂であった！」ことを、心の底で見抜かなばならないのです。この心の底で見抜いた状態を「悟り」と言われているわけですが、私は、「自覚の境界線を越えた」と言っております。この自覚の境界線を越えるためには、悟りのピラミット図に書かれてあるようなプロセスを経なければならぬのです。

魂の進化には、悟りのピラミットに示されているような・・

- 一、基礎作りの時代
- 二、種を育てる時代
- 三、目覚めの時代
- 四、体験の時代・・
- 五、気付いて自覚する時代

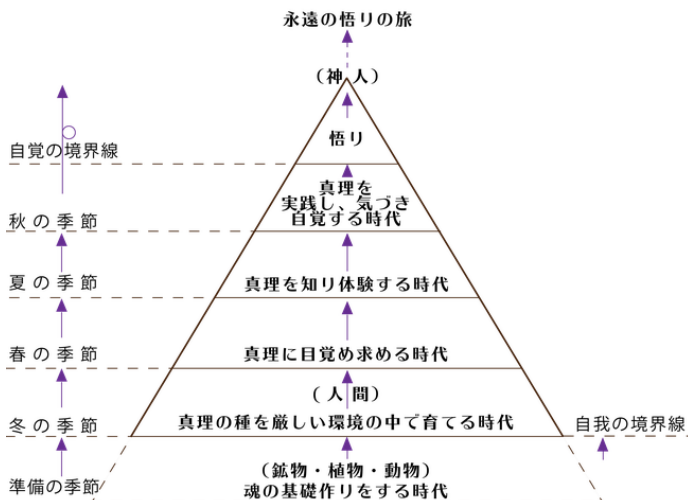


六、自覚の境界線を越える時代の六段階のプロセスがあるのです。言い方を変えれば、

- 一、準備の季節
- 二、冬の季節
- 三、春の季節
- 四、夏の季節
- 五、秋の季節
- 六、自覚の季節

の六段階のプロセスがあるのです。それはそれは、何十億年もの時をかけた気の遠くなる厳しい体験の旅です。学びの友の皆さんは、今日まで、その厳しい体験の旅をしてきたのです。その魂の苦勞は、いかほどだったでしょうか？ 魂の苦勞に報いるためにも、

### 悟りのピラミッド図



これからも、真理を学び、魂を大きくしてゆきましょう。

もし、学びの気持ちが萎えたら、この悟りのピラミット図を見て、気持ちを奮い立たせてください。きっと、「シャキッ!」とするはずです。

## 何が進化するのか？

「進化」と言えば、ダーウインの進化論を思い出す人がいると思いますが、あの進化論は間違っています。はっきり言って、形は絶対進化しません。進化しているように見える形の変化は、「順応化・適応化・対応化」なのです。砂漠地帯に住んでいる人のまつ毛が長く伸びるのも、空気の悪い所に住んでいる人の鼻毛が長く伸びるのも、運動すると筋肉がつくのも、順応化・適応化・対応化なのです。

「進化」とは、「進」んで「化」けると書きますが、「進」むとは、動くと言う意味ですから、「動」いて「化」けるのが進化の意味なのです。では、何が「動」いて、何が「化」けるのでしょうか？ それは、意識核が「魂」に化けるのです。神が作られた形は、完全ですから、進化しません。進化するのは、形の中に宿っている魂の方です。神が放射した意識核は、宇宙に無限数浮遊しているわけですが、その核を、私た

ちは、集めねばならないのです。その集める作業が、社会体験であり、瞑想なのです。

社会体験は、体を動かさなければできません。瞑想も、想念を動かさなくてはできません。宇宙の仕組みは、動けば、魂が大きくなるように出来ているのです。このように、魂が大きくなることを「進化」したと言うのです。

## 魂の進化の節目

---

進化の節目には、次のような節目があります。

- 第一、神の意識核が放射され時空（表現宇宙）が生まれた時点の節目・
- 第二、意識核が集まり鉱物（星）として姿を取った時点の節目・
- 第三、鉱物（星）の上に植物が誕生した時点の節目・
- 第四、動物として姿を取った時点の節目・
- 第五、人類として自我を持った時点の節目・
- 第六、自覚の境界線を超え、神人になった時点の節目・

このように、魂の進化には、六つの節目があるわけですが、私たちが、当面、目指さなければならぬ節目は、六番目の節目です。鉱物や、植物や、動物となった段階では、自我は持っていません。しかし、人類になった段階では、自我は持っています。この自我を持った段階を、「自我の境界線を超えた」と言い、進化の大きな節目の一つです。今の地球人類は、この節目を超えた段階にいるわけですが、更に、意識核を集め、「自覚の境界線を超え、神人」にならねばならないのです。この本を読んでいる皆さんは、その超える寸前にきている魂です。

魂の進化の節目は、自覚の境界線を超えた後も控えておりますが、それは、神が無限ゆえに、無限に控えている節目です。無限宇宙には、無限の節目があることを知ってください。

## 魂の目覚めの行程

動物から人間に進化したばかりの幼い魂は、真理に顔を向けようとしません。この季節を冬（暗黒）の時代と言い、真理に対して眠っている状態です。でも、いつまでも眠っているわけではありません。やがて、目覚めの春がやってきます。暗闇の中で眠っていた魂が、春の陽射しを受けて目を覚めますのです。目覚めた

魂は、宇宙に目を向けるようになります。神秘的なモノに興味を持つようになります。哲学を学ぶようになります。宗教に入るようになります。これが、求道の幕開けです。

夏の時代は、真理を深く知る季節です。知った知識を基に、社会体験を積みみます。瞑想をします。思索をします。社会体験も、瞑想も、思索も、原子核を大きくしますから、魂がドンドンと成長します。

やがて、実りの秋がやってきます。社会体験をし、瞑想をし、思索をすると、色々な気付きが起きます。気づきが起されば、理解力が高まります。理解力が高まれば、自覚が強まります。自覚を強めること！・これが、秋の収穫です。自覚を深めたその先に、「自覚の境界線」が待っているのです。

目覚めの行程は、このように、「冬の季節・春の季節・夏の季節・秋の季節・」を経て、自覚の境界線に近づくのです。「目覚めの春から」そく「目覚めの秋に」行くわけにはゆかないのは、途中の体験が必要だからです。

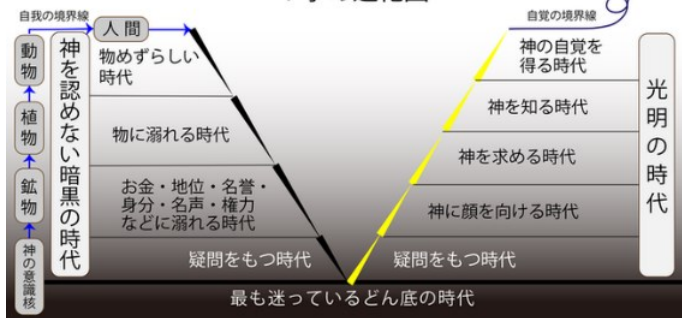
## 魂のV字の進化

V字の進化図を見てください。

V字の左側に位置する魂は、神を認めない幼い魂です。彼らは、物珍しいので、どうしても、「物の虜」になるのです。しかし、どんなに物を得ても、心は満足しません。そこで、満足させてくれそうな、「権力や、地位や、名譽」などを追い求めるようになるのです。でも、それを得ても、心は一向に満足しません。そんな魂も、時間の中で進化しているので、やがて、「心を満たしてくれるモノが、他にあるのではないか？」と疑問を持つようになります。ここが、暗黒の時代から光明の時代に入るターニングポイントです。

光明の時代に入った魂は、「目に見えない何かが人生に関わっているのではないだろうか？ もしかしたら、神って存在するのではないか？」と、疑問を持つようになります。これが、神を求める時代の幕開けです。宗教遍歴が始まります。あの宗教・この宗教・色々な宗教を渡り歩きます。でも、ホンモノの真理に出会えるのは、僅かな人たちだけです。皆さんのように、ホンモノの真理と出会えた人は、幸運です。奇跡に等しい

V字の進化図



と言って良いかも知れません。でも、幸運でも、奇跡でもありません。過去世で努力していた成果です。努力していたから巡り会えたのです。

学びの友の皆さんは、V字の右側の最上位に位置する魂です。その皆さんが目指すモノは、神の実感です。神の自覚です。

## 魂を成熟させる目的

---

求道者の目的は、ただ一つ。神の自覚を得ることです。そのためには、魂を成熟させなくてはなりません。魂が成熟すれば・・・

- 知恵が増します。
- 判断力が増します。
- 先見の明が利くようになります。
- 視野が広がり、遠くのモノが見通せるようになります。
- 宇宙の法則が理解できるようになります。

- 自分の本性が解るようになります。
  - 大きな心が現せるようになります。
  - 思いやりが深くなります。
  - 人を、物を、自然を、心から愛せるようになります。
- そうなると、宇宙の心（神の心）に添った生き方ができるようになりますので、自然と真理の得やすい環境が整います。環境が整えば、瞑想がしやすくなりますから、原子核を大きく増やすことができます。原子核が大きくなれば、理解力が増しますので、様々な気付きや発見が生まれます。その気付きや発見の積み重ねが、自覚の境界線を超えさせてくれるのです。
- どうか、神の自覚を得ることを、唯一の目的とし、真理を求め続けてください。

## 魂の見分け方

地球には、動物から人類に進化したばかりの魂や、自覚の境界線を超える寸前まで進化した魂など、様々な段階の魂が混在しております。私たちは、その魂たちと同じ空間で生きていますので、どうしても、トラ



ブルに巻き込まれることが多くなるのです。幼い魂は、トラブって学ぶわけですから、それで良いのですが、皆さんのような熟した魂は、もう、トラブル必要はありません。どうか、学んでいる皆さんは、魂の段階を意識して生きてください。

幼い魂か？ 熟した魂か？ 見分けるコツを教えましょう！

○ 最も幼い魂は、「怠けて何もしない人たちです。」彼らは、体を動かしたくないのです。浮浪者たちが、その部類に入るのでしよう。

○ 次に未熟な魂は、「物を多く持ちたがる人たちです。」物を沢山集めている人、宝石や骨董品や絵画などを集めたがる人がそうです。

○ 次に未熟な魂は、「お金や地位や名誉や権力に執着する人たちです。」  
もう一つ、面白い見分け方があります。

○ 熟した魂は、「静か」です。

○ 幼い魂は、「騒ぎ」ます。幼い魂は、チョットした問題でも、大げさに騒ぎ立てるのです。

○ また、幼い魂は、何か問題が起きたら、「人のせい」にします。それも、「声高に」……。

世の中には、声の大きい人がおりますが、その人は、幼い魂の持ち主だと思ってください。熟した魂は、

寡黙です。何が起きてあまり騒ぎません。また、起きたことを人のせいにはしません。この世が騒がしいのは、幼い魂が多いからです。このような魂は、V字の左側に位置する魂だと思って間違ひありません。

## 魂のレベルを意識して生きる

魂のレベルを意識して生きることは、とても大切です。なぜなら、自分の心（宇宙）を汚さないですむからです。前述したように、この地球には、早く生まれた魂もあれば、遅く生まれた魂もあるのです。でも、今の地球人類は、そのことを全く認めようとしません。今の社会を見てください。毎日のように争い事が起きています。これは、「みな、同じ人間だと思って生きているからです。」 同じ人間と思えば、どうしても、トラブルを起こすのです。当然、相手を許すこともできません。でも、魂のレベルを認め合って生きたら、トラブルを起こすこともなければ、許すこともできるのです。

どうでしょう！ 大人が幼い子と張り合うと思いますか？ 大人が幼い子と争い合うと思いますか？ 幼い子に何かされても、許してやれるはずですが、でも、地球人類は、魂のレベルを認めないので、どうしても、トラブルを起こすのです。これは、仕方のないことかも知れませんが、せめて、学びの友の皆さんだけ

でも、「魂のレベルを意識して生きてください。」そうすれば、自分の心（宇宙）を汚さないうすみます。学びの友の皆さんは、それができる魂です。

## 目覚めのためのショック療法

---

眠っているとは、生きているとは言えません。一番大切なことは、目覚めることです。目覚めなくては、真理を求めようともしないからです。私たちが肉体を持って生まれてきた目的は、あくまでも、「本当の自分に目覚める」ためです。

神は、眠っている人を起こすために、四つのショック療法を用意されました。

それは、

「生きる苦しみ」

「老いる苦しみ」

「病む苦しみ」

「死ぬ苦しみ」

の四つの療法です。生きる苦しみは、この厳しい社会で誰もが体験していることですが、それを目覚めの薬にする人は殆どいません。神は、それを見越して、「老いる苦しみ・病む苦しみ・死ぬ苦しみ」の三つのショック療法を用意したのです。特に、死は、強烈なショックを与え深い疑問をもたせます。

○ 人は死んだら、お終いなのだろうか？

○ 人は死んだら、どうなるのだろうか？

○ 肉体ある限りの人生なのだろうか？

死のショック療法もさることながら、病む苦しみは、目覚めには、効果的なショック療法です。人は、どうして、病気になるのか？ この疑問は、年を取り、体が衰えれば衰えるほど膨み、また、膨らめば膨らむほど、目覚めも早まるのです。

神が用意した、「生きる苦しみ」、「老いる苦しみ」、「病む苦しみ」、「死ぬ苦しみ」の四苦は、神様からの愛の贈り物だと思ってください。そのように、良く受け取れば、業を深めることはありません。

## 真の目明き人とは？

目明き人には、第一段階の目明き人と第二段階の目明き人がおります。

第一段階の目明き人とは、

「物の外形を、五感を通して見ている人のことです。」

私たちは、通常、目で見て見えていると思っておりますが、それでは、本当に見えているとは言えないのです。理解ができて、はじめて、見えていると言えるのです。理解できないものは（納得できないものは）、ただ、網膜に写っているだけで、実際には、見えていないのです。だから、赤ちゃんは、なめたり、しゃぶったり、触ったり、匂いを嗅いだり、叩いたりして、理解しようとしているのです。今、私たちが納得して見ている物も、すべて、体験して、理解した物ばかりです。ですから、一度も見たことのない物は、見ても、実際に見ているとは言えないのです。このように、第一段階の目明き人とは、五感で体験し、理解を深めた人のことを言うのです。

第二段階の目明き人とは、

「物の本質を、理解力を通して観ている人のことです。」

なぜ、物の本質を観ることが大切かと言いますと、形は、消えて無くなる幻ですが、本質は、永遠に無くならない真実だからです。形（幻）を目で見ている人は、第一段階の目明き人で、真実を理解力で観ている人は、第二段階の目明き人なのです。今、人類社会に争い事が多いのは、第一段階の目明き人の方が圧倒的に多いからです。第一段階の目明き人では、平和な社会は作れないのです。

幻の形を見ている状態は、「見る」なのです。真実の本質を見ている状態は、「観る」なのです。地球に真の平和をもたらすためには、「見る」人から、「観る」人に変わらねばならないのです。本質を心底で理解できるようにになると、自分を、本質として観られ、本質として生きられるようになるので、争い事の起こさない人になるのです。

今日の教育の一番の問題点は、「原因（本質）」を教えないで、「結果（形・物）」ばかり教えている点です。そんな知識をいくら頭に詰め込んでも、正しい行動につながるのではありません。教えるべきことは、真の目明き人になる「原因・真実・真理」です。

良く心眼を使いなさいと言いますが、これは、理解眼のことを言っているのです。つまり、物の本質が理

解できるようになると、見えないモノが観えるようになってくるのです。お釈迦様が言っていた「正見」とは、「肉眼で物を見るのではなく、理解力で物の本質を観なさい！」と言う意味だったので。

## 魂の望みとは？

魂の望みは・・・

- 一、闇から光へ
- 二、複雑・雑多から簡素・簡潔・単純へ
- 三、重・厚・長・大から軽・薄・短・小へ
- 四、波動の粗いモノから精妙なモノへ
- 五、摩擦の多いモノから摩擦の少ない滑らかなモノへ
- 六、角張ったモノから丸いモノへ
- 七、低いところから高いところへ
- 八、古いモノから新しいモノへ

九、騒がしいモノから静かなモノへ

十、興奮の感動から静かな感動へ

十一、刺激の多いモノから少ないモノへ

十二、偽りから真へ

十三、悪から善へ

十四、醜いモノから美しいモノへ

では、どうして魂は、それを望むのでしょうか？

神は、姿形がありませんので、五感にかかりません。また、神は、総合されたものですから、何の性質もありません。しかし、神は、全能です。万能です。完全です。途轍もない能力を持っています。無限の発露性と可能性と創造性を秘めています。私たちは、その神から出てきた魂ですから、同じ能力を秘めているのです。その能力は、魂の成長に比例して出てくるのです。

魂が一から一四を望むのは、そこに向かえば、神に近づくことを知っているからです。自我人間が望んでいるモノは、魂の望みと逆行するものなのです。それでは、神に近づくどころか、遠ざかってしまうのです。どうか、魂が望んでいる方向へ進んでください。そうすれば、ドンドン魂が大きくなります。



魂を大きくすることが、求道者の旅の目的です。神が望んでいるのは、唯一魂を大きくすることなのです。

## 無限の核を集める作業

---

ここで復習しましょう。

神は、この表現宇宙を創るに当たり、自分の意識核を無限に放出しました。無限に放出した意識核は、いつか、必ず、元の核に戻さねばなりません。でも、それを、神、自らが行うとなれば、大変な労力と時間が必要になります。そこで、神は、労力と時間を省くために、一つひとつの意識核の中に、自動的に集まる仕組みを組み込んだのです。人類が、今、原子核を集めているのは、その仕組みの働きによるものです。しかし、人類が、どんなに一生懸命集めても、無限の核を集めることは、永久にできません。当然です。無限の意識核は、集められないからです。人類が、どんなに核を集めても集め切れないのは、無限宇宙の中に、核が無限に存在するからです。でも、その集め切れない無限の核を、人類は集めて行かねばならないのです。苦しうに見えますが、楽しいことなのです。なぜなら、「集めた分のご褒美が頂けるからです。集めた分

のご褒美とは、「幸せ」のことです。」

確かに、意識核を集める旅は、終着駅のない永遠の旅です。でも、自覚の境界線を超えた魂は、それを承知で永遠の旅を続けているのです。それは、無限に存在する核が、宇宙を永遠に存続させていることを知っているからです。私たちが、「永遠に尽きない、永遠に色褪せない」幸せが頂けるのも、宇宙が無限であり、意識核が無限だからです。宇宙とは・魂とは・そういう存在なのです。

## 第5節 心

心は、大きくもなり、小さくもなります。軽くもなり、重くもなります。清くもなり、汚くもなります。正に心は、恐ろしくもあり、頼もしくもある生き物です。その心を、私たちは、持っているのです。持っているだけでなく、自由意思で自由に使えるのです。だから、使い次第で、いくらでも幸せになれるのです。でも、今の地球人類は、使い方が下手なため、苦しい人生を送っているのです。

心は、人生の行方を決めるのです。この節では、その心について追求してみたいと思います。

## 人間独自の心

---

人間は、五感を持っています。五感がなければ、肉体を安全に保つことができないからです。でも、その五感が、人間独自の心を作ってしまうのです。人間独自の心は、「自我の心・肉我の心」そのものなのです。ですから、自分の肉体の都合の良い生き方をしたがるのです。

つまり、

- 自分の肉体に都合の良い思いを持たせませす。
- 自分の肉体に都合の良い言葉を話させませす。
- 自分の肉体に都合の良い行為をさせませす。

自分の肉体に都合の良い事は、他人にとって都合の悪い事です。ですから、どうしても、トラブルが多くなるのです。今の地球人類は、全員が全員、自分の肉体に都合の良い生き方をしているのです。

でも、人間は、「真我の心（神の心）」も持っているのです。この心は、神の心ですから、真我の心で生きたら、トラブルの少ない社会になるのです。

## 人間心とは？

本来、この宇宙には、寛大な「神我の心」が唯一存在するだけです。でも、「肉体の自分」を自分だと誤解することによって、「人間心」を作ってしまうのです。これは、次のような例えで示せるでしょう。

ここに、沢山の蛇口の付いた酒樽があるとします。その酒樽の中には、同じ酒が入っているのですが、不思議なことに、一つひとつの蛇口から出てくる酒の味は、みな、違うのです。これは、一つひとつの蛇口が、「自分は酒樽でなく蛇口だ！」と思っているからです。蛇口が自分だと思えば、どうしても、蛇口に個性が生まれるのです。人間も、肉体を自分だと思えば、人間の個性を持った人間心を作ってしまうのです。

心は、昔から「器」に例えられますが、人間心には、次の四つの機能があります。

「器」の字の、

左上の「口」は、「欲望の機能」を示しています。

右上の「口」は、「感情の機能」を示しています。

左下の「口」は、「理性の機能」を示しています。

右下の「口」は、「知性の機能」を示しています。

欲望の機能と感情の機能は自我に属し、理性の機能と知性の機能は神我に属します。人間心は、上半分の自我と下半分の神我が牽制し合って存在しているのです。例えば、欲望が膨らみ過ぎると、理性の機能が欲望を制御します。感情が膨らみ過ぎると、知性の機能が感情を制御します。制御することによって、バランスの取れた真ん丸な心が維持できるわけです。しかし、余りにも欲望と感情が膨らみ過ぎると、理性と知性が制御し切れなくなり、ハート型の心になってしまふのです。ですから、ハート型の人間心は、調和の取れた心とは言えないのです。痴漢したり、喧嘩したりするのは、理性と知性が、欲望と感情に負けたためです。

このように、人間心は、自我の心と神我の心が牽制し合いながら存在しているのです。でも、人間心の大元になっているのは、神の意識です。神の意識が核を生み出し、その核の集まったものが、「魂」となり、その魂が、「人間心」を生み出し、その人間心が、更に、「想念」を生み出しているのです。でも、「魂」も、「人間心」も、「想念」も、出処は同じ神意識ですから、同じモノと考えて良いのです。

## 人生は心の使い方次第！

人生は、心の使い方次第で、どうにでもなります。心を良く使えば、良い人生になります。悪く使えば、

悪い人生になります。「私は不幸だ！」と嘆いている人は、心の使い方が下手だからです。と言うことは、自分の責任だと言うことです。

今日までの自分の人生は、すべて自分の心が作ってきたのです。あの苦しみも、あの悲しみも、あの喜びも、あの幸せも、すべて自分の心が作ってきたのです。だから、私は言うのです。

明るく、明るく、朗らかに・・・

何事も良く受け取り・・・

神を想い、光を想い、日々、生きましよう！と・・・

人生は、心、次第です。良い人生にしたかったら、どうか、心の使い方を学んでください。それは、何処へ行く必要ありません。お金もかかりません。あなたの家の中で、社会の中で、普段の生活をしながら学べるのです。

## 涙の色

涙を流しているからと言って、同じ涙だと思っではなりません。涙にも種類があります。嬉しい涙は、

波動が高いので目を腫らしません。悲しい涙は、波動が低いので目を腫らします。涙そのものには変わりはありませんが、「嬉しい涙には、嬉しい心色が、悲しい涙には、悲しい心色が、涙の中に溶け込んでいるのです。」

こんな実験結果があります。

怒り心を持って育てた植物は、すぐに枯れてしまい、愛情心を持って育てた植物は、長持ちしたと言います。この実験から分かるように、心色によって植物に与える影響がまるで違ってくるのです。私が教育者に、怒りのムチで打つのではなく、「叱りのムチ」で打ってほしいと願うのは、「叱りのムチ」の中には、「子供たちのため！」と言う「愛の想い」が籠もっているからです。叱りのムチは、「愛のムチ」なのです。怒りのムチは、「憎しみのムチ」なのです。ですから、叱りのムチと怒りのムチでは、子供たちに与える影響がまるで違ってくるのです。

本当に、生徒たちを愛するなら、「愛のムチ（叱りの心）で打ってください！」。

本当に、我が子を愛するのなら、「愛のムチ（叱りの心）で打ってください！」。

怒りのムチは、捨ててください。

## 原因は心にある

心が関係しない、病気や、戦争や、事件や、事故や、自然災害など、ありません。すべて、心が関係して起きている災厄です。でも、人類は、まだ、その事に気づいていないのです。

これまで世界中で、医療や、軍備や、災害防止に、どれくらいの予算が注ぎ込まれてきたことでしょうか？ おそらく、天文学的数字に上るでしょう。人類は、その膨大な予算を、どうして、心の研究に注ぎ込もうとしないのでしょうか？ 心を整えたら、そんな予算など、いらなくなるという言葉の・・・です。

どうでしょう。

薬や医療機器を開発したら、病気は、無くなるのでしょうか？

道路を整備したら、交通事故は、無くなるのでしょうか？

警察官を増やしたら、犯罪は、無くなるのでしょうか？

軍備を増強したら、戦争は、無くなるのでしょうか？

気象衛星を打ち上げたら、竜巻や台風は、無くなるのでしょうか？

そうではないはずです。どんなに結果対処しても、原因である心を放置しては、根本的解決にはなら



ないのです。このように言うと、「人の心を簡単に変えられるなら、とつくにやっていますよ！」と言う政治家がおります。でも、これまで、やったことがあるでしょうか？ やりもしないで、なぜ、できないと決めつけるのでしょうか？ 未だかつて、心の研究に国費が使われたことは無いのですよ！

結果対処に国費を使うのは、ドブに、お金を捨てるようなものです。お金も使うなら、生きたお金の使い方をしてほしい！ つまり、原因対処に、お金を使いましょう！ 確かに、人の心を変えるのは難しいかも知れませんが、でも、政治家が心に目を向けるようになったら、間違いなく、社会は変わります。どうか、原因に・・心に・・予算をつぎ込んでください。きっと、地球は変わるでしょう。

## 心の強い人

- 心の強い人とは・・
- 勇気ある魂の持ち主のことです。
- 意志の強い魂の持ち主のことです。
- どんな困難にも挫けない強い魂の持ち主のことです。

○ 自力によって困難を克服し、自力によって魂を大きくする人のことです。

心の強い人の特徴は、意志の強さと想念力の強さです。意志の強さや、想念力の強さは、魂の熟成度を示しており、それだけ、多く転生を重ねてきた証です。でも、それは、単に、魂が、早く生まれたか、遅く生まれたかの違いで、自慢することではありません。体験豊富な魂が、体験未熟な魂より、優秀なのは、当たり前だからです。

- 心の強い人は、不思議な事に興味を持ちます。
- 心の強い人は、自然や宇宙に興味を持ちます。
- 心の強い人は、死に対して疑問を持ちます。
- 心の強い人は、人生の不思議さに対して疑問を持ちます。
- 心の強い人は、常に、高みを目指して努力します。
- 心の強い人は、今の今を大切に生きます。
- 心の強い人は、機転が利き、判断力が優れています。
- 心の強い人は、いざというとき、凄い力を発揮します。
- 心の強い人は、ポジティブな生き方をします。

○ 心の強い人は、何でも肯定的に受け取ります。

○ 心の強い人は、行動力が旺盛です。積極的です。腰軽です。

このように、心の強い人は、明るくエネルギーシユなのです。エネルギーシユなのは、それだけ、魂が大きいからです。誰も魂を大きくしてくれません。大きくするのは自分自身です。

どうか、原子核（魂）を大きくしてください。それは、常に、神を想うこと（瞑想すること）で、できるのです。

## 何でも良く受け取る

どうか、厭なことから逃げないでください。どんなに逃げても、自分から逃げられないからです。自分の宇宙の中の事ですから、逃げようにも、逃げる場所がないのです。例えば、今生、逃げおおせたとしても、来生、また、同じ課題が追いかけてきます。ならば、今生、克服しておいた方が、気楽ではないでしょうか？

サタンの話をする人がおりますが、サタンなど、どこにもおりません。あなたの弱い心（自我の自分）が、サタンなのです。サタンとは、「自分の心に巢食っている弱い自分のことです。」でも、あなたの中には、

強い自分（真我・神我の自分）もいるのです。どちらの自分を支配させるかは、あなたが、どう思うかなのです。つまり、良く思えば、真我（天使）が支配し、悪く思えば、自我（サタン）が支配するのです。

あなたを苦しめた、隣人も、友達も、親兄弟も、あなたを成長させるために悪役を買ってくれた恩人です。そのように思えば、感謝こそすれ、憎むことはなくなるでしょう。苦しい人生にするか、楽しい人生にするかは、良く思うか、悪く思うかなのです。

人頼りでは、課題は克服できません。課題を克服するのは、あなた自身です。さあ、課題を一つでも多く克服して帰りましょう。そうすれば、明るい未来が待っています。どうか、弱い自分を強い自分に変えてください。

明るく、明るく、朗らかに・・・

どんなことも良く受け取り・・・

神を想い、光を想い、日々、生きてください。

どうしても気が沈んだ時は、次の言葉を口ずさんでください。

○ 有り難う！ 有り難い！ の感謝の心

○ 嬉しい！ 楽しい！ の喜びの心

- 成せばなるぞ！ の希望の心
  - やってやるぞ！ の闘士の心
  - すごい！ 素晴らしい！ の感動の心
  - 前進！ 万進！ のひるまぬ心
  - わはは！ あはは！ の笑いの心
- きつと、気持ちが明るくなるでしょう。
- 本当のあなたは、人間ではありません。肉体ではありません。誰の誰へではありません。神なる、あなたです。光なる、あなたです。意識なる、あなたです。どうか、良いことを想ってください。良い想いの一番は、神を想うことです。光を想うことです。

### 真心を込めてやる！

どんな困難な問題も、真心を込めてやれば、必ず、解決します。神は、そのように宇宙を創られたのです。真心は、誰もが持っている神の心です。ですから、真心を込めてやれば、相手に伝わらないはずがないので

す。家庭内の問題も、隣人との問題も、仕事上での問題も、真心を込めて当たれば、必ず、解決します。勿論、真理の学びにおいても同じです。

○ 今、やるべきことを、真心を込めてやることです。

○ 真心を込めて瞑想することです。

○ 真心を込めて思索することです。

必ず、真理の扉（天の岩戸）は開かれます。それには、強い意志がいられます。強い決意がいられます。努力と忍耐がいられます。偉大なことを成し遂げるには、努力と忍耐と強い意志は、必須条件です。楽しんで得たものは、ホンモノではありません。苦難から得たものが、ホンモノなのです。

人生の目的は、魂（原子核）を大きくすることです。どうか、強い気持ちを持って原子核を集めてください。あなたは、間違いなく変わります。

## 心を強くする方法 パート1

今のあなたの一番の敵は、あなたの心の中に巣食っているネガティブな想いです。それは、ニセモノの自

分が作ったニセモノの想いで、本当の自分の想いではありません。そんな、ニセモノの想いに負けて、自分の心を汚してはなりません。ニセモノに負けないためには、自分の心を強くすることです。

長い苦難の人生において、挫折そうになった時もあつたでしょう。心が折れそうになった時もあつたでしょう。でも、その苦難は、心を強くするために必要だつたのです。ですから、苦難は、神様から与えられた愛の贈り物だと思ってください。そのように思えば、苦難な人生が輝いて見えるようになります。もう、鬱など、どこかに吹き飛んでしまいます。

- 心を強くするためには、嫌がらず社会体験をすること・・
- 億劫がらず体を動かすこと・・
- 神を想う(瞑想する) ことです。

必ず、原子核が増えます。原子核が増えれば、弱い自分は、去って行きます。弱い自分が去れば、気持ちが晴れやかになります。行動が積極的になります。憎んでいた相手を、許すことができるようになります。いいえ、感謝さえできるようなでしょう。

## 心を強くする方法 パート2

サタン（自我・肉我）の常套手段は、気持ちをもえさせること、落ち込ませること、不安にさせること、心配させることです。これに打ち勝つには、心を強くする以外ありません。心を強くするには、原子核を増やすことです。原子核が増えれば、サタンに負けない強い心が築かれます。

原子核を増やすために、難行苦行はいりません。

小さなこと・・・

簡単なこと・・・

今、やれること・・・

手短にやれること・・・

今、思ったこと・・・を、やれば良いだけです。

例えば・・・

○ 寒い朝、勇気を持って寝床から出ることです。

○ 冷たい水で顔を洗うことです。



- 寒風の中、散歩やジョギングをすることです。
  - トイレの掃除や風呂場の掃除をすることです。
  - 窓ガラスを拭いたり庭の手入れをしたりすることです。
- 探せば、身近にいくらでもあります。

他にも・・

- 面倒な事を面倒がらないですることです。
- いちいち、しゃがんですることです。
- いちいち、踏み台を持ってきてすることです。
- いちいち、測ってすることです。
- いちいち、物をどけてすることです。
- いちいち、出向いてすることです。
- 何度も、何度も、繰り返し返してやることです。

腰軽にやれば、原子核は、いくらでも増えます。「そんな小さな事！」と、思うかも知れませんが、総理大臣の仕事をするのと同じくらい原子核を増やすことができます。

## 心を強くする方法 パート3

病気は、心の弱い人がなりやすいのです。心の弱い人は、神経質です。何でも気にします。クヨクヨ考えます。すぐに心配します。良いことでも悪く受け取ります。余計なことを考え妄念を作ります。このような人は、宇宙エネルギーを閉ざすので病気になりやすいのです。

心の強い人は、鷹揚です。余りに気にしません。クヨクヨ考えません。余り心配しません。何でも良く受け取ります。このような人は、宇宙エネルギーが入るので病気になりづらいのです。病気になりたくなかったら、どうか、心を強くしてください。特に、精神を病んでいる人は、心を強くしてもらいたいと思います。心を強くする手短な方法は、社会体験です。

社会体験で強調したいのは・・・

- 厭なことがやってきても、逃げないでやること・・・
- コマ目にやること・・・
- 腰軽にやること・・・
- 小さな小さな事も、小さな事と思わずやること・・・です。

間違はなく、心を強くすることができます。

## 肉体も地球も人の心を写し出す鏡である！

肉体も、地球も、人の心を写し出す鏡です。人の心が美しければ、肉体にも、地球にも、美しい絵が写し出されます。人の心が醜ければ、肉体にも、地球にも、醜い絵が写し出されます。今、地球には、多くの病人や自然災害などが写し出されておりますが、これは、人の心の醜さが写し出された結果なのです。

病気の原因も、自然災害の原因も、目に見えません。それでは、原因を正す事ができないので、神は、目に見えないよう、肉体に病気として、環境に災害として、写すようにしたのです。目に見えない原因とは、心（想念）です。人の心の醜さが、病気や自然災害として写し出されているのです。神は、見えない、心（想念）を、見える、病気や災害として現し、人の心の醜さに気づいてもらおうとしているのです。これは、神の慈悲と言って良いでしょう。

環境の汚れも同じです。今、地球環境は、悪化の一途を辿っていますが、目に見えない人の心の汚れが、地球環境の汚れという形で写し出されているのです。人の心の汚れた社会では、病気も、ゴミも、争いも、

沢山、生まれるのです。病気の多さ、ゴミの多さ、争いの多さは、その社会の幼さを示すバロメーターになっているのです。

## 心から悔改めたら罪は許される

どんな凶悪な犯罪者も、「私はもう二度と悪いことをしません！ 私は良心に生きます！」と、堅く心に誓った瞬間、罪は許されるのです。なぜなら、人間の心から神の心に戻ったからです。良心は神の心です。神の心に生きるようになった瞬間、罪人は存在しなくなるのです。今まで悪いことをしていたのは、実在しない自我の自分だったのです。実在しない自我の自分に罪はありませんから、罰してはならないのです。

よく、汚れた心と言いますが、汚れた心ありません。ただ、心にゴミが付着しているだけです。改心し、ゴミを落とせば、そく、真心に戻るので、迷いのことなのです。迷いは、実在するものではなく、ありませんから、迷いを取れば、そく、真心に戻るので、迷いを取る作業が、反省・懺悔なのです。

私が死刑に反対するのは、改心した瞬間、罪人はいなくなるからです。いない罪人を殺すなど、大きな罪です。人が罪を作っているのではなく、迷いが罪を作っているのですから、憎むべき相手は、人ではなく、

迷いです。だから、「罪を憎んで人を憎まず」と言う諺があるのです。どうか、迷いを取っ払ってください。それは、真理を知ることによって取っ払えるのです。「無知こそ最大の罪である！」と言われるのは、真理を知らなければ迷って罪を犯してしまうからです。

この宇宙に、一人の罪人もいないことを知ってください。ただ、真理を知らない幼い魂がいるだけです。幼い魂に罪はありませんから、許してあげることです。

## 以心伝心

---

この宇宙には、寛大な心が一つあるだけです。私たちの心は、その寛大な心と一つですから、思った瞬間に、宇宙に伝播するのです。以心伝心が間違いないのは、宇宙に一つの心しか無いからです。

ただし、今の地球は、波動が粗いので、想いが相手に伝わるには、相当の時間がかかります。ですから、この地球では、言葉と行為が想いを伝える主な手段となっています。地球人の波動が精妙になれば、「想い」が主となり、「言葉や行為」は、段々と少なくなってゆくでしょう。ただし、言葉や行為が少なくなっても、想いに込められる真心だけは変わりません。真心を込めて言い、真心を込めてやれば、確実に相手に

伝わります。いくら「言っても、やっても」相手に伝わらないのは、真心が込められていないか、不純な動機でやっているからです。例え、伝わっても、「何か下心があるのではないか？」と、疑惑を持たれてしまうでしょう。どうか、純粋な動機を持ち、真心を込めて「言い、やって」ください。

真理も同じです。

恩師である、知花先生は、「心を尽くし、魂を尽くし、精神を尽くし、神を求めなさい！」と、おっしゃっておられました。神は、純なお方ですから、純な心で真剣に神を求めれば、神は、必ず、応えてくれるのです。

子供が真剣に親を思っているのに、無視する親がいると思いませんか？　どうか、純な心で真剣に真理を求めてください。神は、決して悪いようにはいたしません。

## 良心は知っている

あなたが、どんなに誤魔化そうと思っても誤魔化せるものではありません。なぜなら、本当のあなた（真我・良心・神）が、知らないはずがないからです。誤魔化した分、良心が苦しむだけです。

誤魔化して自我が喜ぶのと、誤魔化して良心が苦しむのと、相殺したら、どちらが残ると思いますか？  
一般人は、喜びの方が残るかも知れませんが、あなたのような熟した魂は、苦しみの方が残るはずです。苦しみたくなかったら、良心に忠実に生きましょう。それが、学んでいる人の賢い生き方です。

私たちは、一時は、自分を誤魔化せても、永遠に誤魔化すことはできないのです。なぜなら、自我の心と良心は、永遠に離れられないからです。自我の心は良心なしに存在できないし、良心は自我の心なしに存在できないのです。

## 第6節 想念

想念ほど、頼もしいモノはありません。また、想念ほど、恐ろしいモノはありません。なぜなら、想念は、良いことも、悪いことも、何でも実現させるからです。想念は、諸刃の剣のようなモノなのです。私たちは、これまで、その想念で「人生」と「命生」を築いてきたのです。そして、これからも築いてゆくのです。

この節では、その想念について学ぶことにしましょう。

## 想念を味方にしよう！

私たちは、すでに救われているのです。なぜなら・・想念を持っているからです。想念は、何でも実現させるのです。それだけに、想念の正しい使い方が求められるのです。

想念を正しく使えば・・

- 肉体環境が整います。
- 家庭環境が整います。
- 経済環境が整います。

環境が整えば、瞑想しやすくなりますので、原子核（魂）を大きくすることができます。人生の目的は、原子核を大きくし、自覚の境界線を超えることです。想念を持たされた時点で、私たちは、人生の目的を果たしたも同然なのです。ただし、問題点があります。それは、想念を良く使えない難しさがあることです。私たちは、五感を持っているため、どうしても、想念を悪用してしまうのです。

想念は、「諸刃の剣」のようなもの、或いは、「矛と盾」のようなものなのです。良く使えば、身を守ることができ、悪く使えば、身を傷つけてしまうのです。今、人類は、苦しんでおりますが、それは、



想念を悪用しているからです。

想念を「矛」と「盾」として正しく使いましょう。正しく使えば、強い味方になってくれます。反対に、悪く使えば、強力な敵にしてしまいます。どうか、想念を味方にしてください。

## 邪魔をするサタン！

前述したように、想念は、使い次第で、敵にも味方にもなるのです。でも、それは、自分がするので。私たちの中には、二人の自分がいるのです。一人は、自我の自分です。もう一人は、真我（神我）の自分です。自我の自分は、お金や、物や、地位や、権力の誘惑に弱いので、この世のことに想念を使いたがるのです。真我の自分は、それを嗜めるのですが、自我の自分は、耳を貸しません。これを、私は、サタンの誘惑に負けたと言っています。サタンの誘惑に負けると、真理に顔を向ける時間が少なくなります。それが高じると、私の動画を見るのが恐ろしくなり、ついには、真理から離れて行くのです。一旦、サタンに取り憑かれたら、元に戻すのが大変です。痛い目に遭うまで、元に戻らない求道者もおります。そのまま一生を終える求道者もおります。

このサタンの誘惑に勝つためには、「強い勇気がいります。」「強い心がいります。」強い心を作るためには、原子核を増やすことです。そのためには、社会体験と瞑想をすることです。手短には、コマ目に体を動かすことです。コマ目に体を動かせば、目に見えて心が強くなります。サタンは、体を動かすことを嫌うのです。どうか、コマ目に体を動かしてください。サタンは、逃げてゆくでしょう。

## 想念の出と入り！

よく、苦しみを人のせいにする人がいますが、人から与えられた苦しみなど、一つもありません。自分が悪い想いを持つから、苦しいことが起きたのです。原因は、自分の想いです。結果（影）が先に起きることは無いのです。もし、起きるなら、先に結果があることになり、この宇宙の秩序は、無茶苦茶になってしまいます。

「出発」と言う言葉はあっても、「発出」と言う言葉はないのです。「出入」と言う言葉はあっても、「入出」と言う言葉はないのです。先に「出」すから「入」るのです。出さなければ、入ってこれないのです。「凹」が生まれたから「凸」が入ってきたのです。それも、同質の凹凸が入り入りするのです。「エネルギー

均衡の法則」は、出した「凹」と同じ質の「凸」が入ってくるようになっていくのです。つまり、悪しき想念（凹）を出せば、悪しきモノ（凸）が入り、良き想念（凹）を出せば、良きモノ（凸）が入ってくるのです。これは、エネルギー均衡の法則が働いている宇宙において当然のことなのです。

苦しみを人のせいにしなさい。自分の苦しみは、自分の想念が生み出した結果であることを知ってください。

### 想念がカルマ（癖）を作る

カルマを「悪！」と決めつける人がおりますが、カルマには、悪いカルマと良いカルマがあるのです。「良い想い」を持てば、良いカルマが作られます。「悪い想い」を持てば、悪いカルマが作られます。カルマとは、「想い癖」のことなのです。ですから、良いカルマを作りたいと思ったら、いつも、良いことを想うことです。しかし、人間は、どうしても、ネガティブな想いを持ちがちです。これは、過去世において、沢山、苦しい目に遭ってきたからです。

この悪癖を直す一番の方法は、「神を想う」ことです。私たちは、同時に、二つのことが想えないのです。

つまり、神を想っている時は、悪いことが想えないし、悪いことを想っている時は、神が思えないのです。この想念の仕組を利用することです。どうか、神を想ってください。そうすれば、悪い想いが持てなくなり  
ます。

幼い魂は、想念を悪く使って、苦しみを作っています。賢い魂は、想念を良く使って、幸せになっています。これは、誰の責任でもありません。想念を使った人の責任です。どうか、神を想ってください。神を想っている時は、原子核を増やし、悪いカルマを作らないという、二重の益が得られるのですから……。

**思ったら何でも作られる！**

「思ったら何でも作られる！」この意味の深さを知ってください。どうして、事故災難に遭うのでしょうか？ どうして、病気になるのでしょうか？ 誰かが、何かが、与えたのでしょうか？ いいえ、すべて自分の想いが与えたのです。私たちの想念は、想った通りのモノを作るのです。そんな偉大な想念を持っているのに、人類は、まだ、そのことに気づいていないのです。

「想念は創造の力」なのです。想念を良く使えば、良い人生が作られます。悪く使えば、悪い人生が作ら

れます。これまで、あなたの人生には、苦しいことや楽しいことなど、沢山、あったと思いますが、みな、あなたの想念が作ったのです。人に作られた、苦しみなどありません。人に作られた、人生などありません。学校に入ったのも自分の想念です。会社に入ったのも自分の想念です。自動車を手に入れたのも自分の想念です。結婚したのも自分の想念です。すべて想念が作った、想念の作品なのです。あなたは、モノ作りの天才なのです。その才能を悪用しないでください。苦しい人生にしたくなかったら、どうか、想念を良く使ってください。それは、自分の自由意思でできるのですから・・・。

## 想念は打ち出の小槌！

世の人々は、「これをください！ あれをください！」と、神様にオネダリしますが、私たちは、すでに、神様から想念と言う偉大な宝物が与えられているのですよ！ それ以上、何がいると言うのですか？

想念は、何でも生み出す「打出の小槌」のようなものです。ですから、良く使えば、幸せになれるはずなのです。しかし、残念なことに、その小槌を悪いことに使っている人が多いのです。

私たちは、今日まで、自分の想念で人生を作ってきたのです。これからも、自分の想念で人生を作ってゆ

くのです。いいえ、「人生」だけではありません。「命生」も自分の想念によって創ってゆくのです。

「他人が、誰かが、作るものではありません。」

「偶然が、作るのでもありません。」

「一瞬一瞬の自分の想念が、創るのです。」

このように「人生も、命生も」、今の自分の一瞬一瞬の想念が作っているのです。想念が作った、一瞬一瞬の人生の点が、命生の核に引き継がれて線になり、魂が成長してゆくのです。すべて、「想念」が、やっていることなのです。

## 想念を利用する

急に体調が悪くなった人は、ネガティブな波動に、やられています。つまり、サタンに、やられているのです。その時は、真理を求める気持ちも弱くなっているはずです。しかし、その事に、なかなか、気づかないのです。どうか、気付いてください。気付いたら、「サタンよ、見破ったぞ！ サタンよ、退け！ サタンよ、出てゆけ！ 出てゆけ！ 出てゆけ！」と、何度も心の中で叫んでください。もし、どこかに痛みがあ

つたら、「想わない！ 想わない！ 想わない！」と、思ってください。痛みが和らぐはずですよ。

想いが実現させることは疑いのないことですが、地球は、波動が粗いため、実現するまでに相当の時間がかかるのです。でも、身近にある肉体は、時間のズレが少ないため、そく、実現するのです。例えば、ビツクリすれば、心臓がドキッとします。心配すれば、胃が痛みます。金切り音を聞けば、肌がザワッとします。このように、悪い想いも、良い想いも、すぐに、肉体上に現れるのです。だから、「想わない！ 想わない！ 想わない！」と、思ったら、そく、痛みが和らぐのです。

病気は、想念の学びに必要な教材なのです。想念の使い方が、いかに大切か！ 「病気や事故を通して」学んでください！

## 想念の使い方 勉強

学びの友の皆さんが、まだ、病気や事故、災難を恐れるのは、完全に、神が信じられないからです。つまり、完全に、原因と結果の法則が信じられないからです。「法則を守っていたら、悪いことは、絶対起きない！」と、心の半分ぐらいでも思えたら、もう、恐れることはなくなります。覚者の心が穏やかなのは、法

則を心の底で信じているからです。つまり、神を心から信じているからです。法則が信じられたら、悪い想念を出さなくなりますから、原因と結果の法則によって、悪しきことは、起きなくなるのです。

誰もが、自分の欠点を修正するため、計画を立てて生まれてきたのです。特に、皆さんのような熟した魂は、綿密な計画を立てて生まれてきます。その計画が完遂されるまで死ぬことはありませんので、今、病気になっているからと言って心配しないでください。ただし、怠けて学ばなかったら、計画変更も、ありますから注意してください。

計画を完遂するためには、常に、良い想念を持ちましょう！（瞑想しましょう！）常に、良い想念を持つようになったら、あなたに、病気・事故・災難など、一切、寄ってきません。悪い原因を作らないのですから、当然です。

良い想念の一番は、神を想うことです。常に、神を想ってください。何も考えないで、ただ、神だけを想ってください。そうすれば、あなたの人生計画が完遂されること疑いありません。



## 業の消滅・罪の消滅

世の中には、過去世の業を無くそうと、霊能者のところに足を運んでいる人がおりますが、どうして、過去世の業を無くす必要があるのでしょうか？ 過去生の記憶があるなら仕方ありませんが、記憶が無いのですから責任を持つ必要はないのです。過去生で作った業は、過去生の人の責任です。あなたは、今生、作った業だけ責任持つてください。

過去世の業は、痛みや苦しみで消えて行っているのですから、放っておいたら良いのです。あなたが、すべきことは、新たな業を作らないようにすることです。そのためには、悪いことを想わないよう努力することです。私が「神を想いなさい！」と口を酸っぱくして言うのは、神を想っている時は、悪いことが想えないからです。悪いことを想わなければ、新たな業を作らなければかりか、原子核まで増やせるのです。つまり、過去世の業を消し・新たな業を作らない・なお、原子核を増やせる・と言う一挙三得の果実を得ることができるとです。

繰り返し言います。

過去生の業は、放っておいてください。今、あなたが、やるべきことは、「神を想う瞑想」をすることです。

す。それで万事解決するのです。

## 想念で想念を牛耳る！

私たちは、常に、ネガティブな想いで、自分の心を汚しています。これほど、罪深いことはありません。なぜなら、神の心を汚しているからです。「自分の心と神の心は同じなのです。」そうは言っても、次から次へと悪いことを想ってしまいます。ですから、自分の心を汚さないわけにはゆきません。

では、自分の心を汚さない良い方法はないのでしょうか？ 一つだけあります。それは、「想念で想念を牛耳る方法」です。そのためには、「二つで一つ」という宇宙の仕組みを、深く知る必要があります。

手には、表と裏がありますが、表だけの手もなければ、裏だけの手もありません。表と裏が揃って、手があるのです。この宇宙は、何でも二つで出来ているのです。陰と陽が結合して、宇宙が生まれたのです。人と神とが結合して、神人が生まれたのです。二つで一つなのです。一方通行は、無いのです。想念も、そのように出来ているのです。

例えば、良くない想念を持ったとしましょう。でも、良くない想念の反対側には、良い想念が、必ず、控

えているのです。だから、悪い思いを持ったら、すぐに、こう思ってください。

「私は、今、悪い思いを持ったが、今、良い思いも持ったのだと・・・。」

悪いことが起きた時も、同じように思ってください。

「今、悪いことが起きたが、反対側に、良いことも起きています・・・。」

このように、ポジティブな想念で、ネガティブな想念を打ち消したら、自分の心を汚さなですむのです。

「想念で、想念を牛耳るとは、良い想念で、悪い想念を変えてしまうと言う意味です。」

このコツを覚えたら、あなたの心に、一切、汚れが付かなくなります。

どうか、やってみてください。何の技術も要りません。何処へ行く必要もありません。お金もかかりません。ただ、自分の心の中でやれば良いだけです。これは、私の体験から言えることです。だから、間違いありません。

**皆さんにお願いしたいこと！**

皆さんに、お願いしたいのは、「想念の偉大さを知って欲しい！」と言うお願いです。想念ほど、恐ろし

く、頼もしく、また、素晴らしいモノはないのです。神は、その想念を、私たちに持たせてくれたのです。神は、おっしゃってられます。

「想念を使えば、成せないことは、何も無いのですよ！」

「幸せは、想念次第ですよ！」と・・・。

私も同じことを言います。

「どうか想念の偉大さを知ってください！」

このことは、今後、何度も言いますが、何度言っても、言い過ぎると言うことはありません。どうか、想念の偉大さを、心の奥底に刻み込んでください。

念を押します。

- 想念をどう使うかです。
- 何に使うかです。
- どれだけ多く使うかです。
- どれだけ強く使うかです。
- どれだけ上手に使うかです。

難しいことはありません。ただ、神を想い続けるだけで良いのです。マントラを思い続けるだけで良いです。

繰り返します。

「私の願い・・・それは、想念を良く使って欲しいと言うお願いです。」

一番良い想いは、神を想うことです。

**想った通りのモノで、それ以上でも以下でもない！**

私の恩師である、知花先生は、いつも、こう言っておられました。「想った通りのモノで・・・それ以上でも以下でもないですよ！」と・・・。人間だと想ったら、迷いとなり、神だと想ったら、悟りとなるのです。悟りと迷いは、表裏一体なのです。それは、想いによって目覚められるからです。想いは、目覚めの力なのです。

何かを得ることが、大切なではありません。「何を想うか」が、大切なのです。

○ あなたの想いが「宇宙」を創るのです。

○ あなたの想いが「神」を創るのです。  
○ あなたの想いが「あなた」を創るのです。  
○ あなたの想いが「幸・不幸」を創るのです。  
すべて、自分の想いの作品です。

さあ！私は・・

- 神である！
- 宇宙である！
- 生命である！
- 意識である！
- 光である！
- エネルギーである！

と、想ってください。想った通り、モノが生まれます。

## 運命は想念が決められている

「運命は、決められている！」と言う人がおります。

「運命は、決められていない！」と言う人がおります。

果たして運命って、決められているのでしょうか？ 決められていないのでしょうか？

「決められているようで、決められていない！ 決められていないようで、決められている！」と、答えるしかないでしょう。

このような言い方をするのは、宇宙は、無限だからです。無限宇宙に、「こうだ！ ああだ！」と、決められたものなどないのです。もし、決められたものが有るなら、無限宇宙の中に、有限宇宙が有る、奇妙な宇宙になってしまいます。そんな奇妙な宇宙はありませんから、運命は、決められていないと言えるのです。でも、神の計画は、すべての魂を自覚の境界線を超えさせることにあるわけですから、運命は、決められていると言って良いのです。このように考えてください。

山の頂上（自覚の境界線）に通じる道は、沢山あるのです。どの道を選び、どのように歩むかは、自由です。自我人間は考えます。「どの道を選んだら、楽に、早く登れるだろうか？」と・・・でも、自我人

間には、分かりませんから、手探り状態で道を進むしかありません。と言うことは、運命は、決まっていな  
いことになります。でも、右往左往しながらでも、いつか、必ず、頂上（自覚の境界線を超える）に着く  
ですから、運命は、決まっているとも言えるのです。

運命とは、「命」を「運」ぶと書きますが、その「命を運ぶ」のは、自分の想念です。あなたが、「どう  
想うかなのです。」「何を想うかなのです。」「すべて、あなたの想いが実現させるのです。ですから、運  
命鑑定も、おみくじも、必要ありません。神は、「難しいことをしなさい!」と言っています。」「想念を  
正しく使いなさい!」と言っているだけです。想念を正しく使えば、間違いなく、「命」は、ゆくべき所に、  
「運」ばれてゆくのです。

## 何でも有りの宇宙

「何でも有りの宇宙であることは確かです。」「それは、想念によって、何でも生み出すことができるから  
です。だからと言って、無秩序な「何でも有り」ではないのです。法則内における「何でも有り」なのです。  
でなかったら、自由な意思を持つ人類は、想念を使って、宇宙に好き勝手な絵を描き「真・善・美」を乱し



てしまうからです。

この宇宙には、しつかりとした「真・善・美」の秩序があるのです。その秩序の中心から離れば、必ず、苦しみがやってきます。ですから、「真・善・美」の秩序の中における「何でも有り」で、無秩序な「何でも有り」ではないのです。

確かに、私たちの目には、「偽と不善と醜」が実在しているように見えます。でも、その「偽と不善と醜」は、人類の迷いが生み出したもので、実際に有るものではないのです。もし、実際に有るなら、この宇宙は、真つ暗闇になってしまいます。幸いなことに、人類の迷いの想念が生み出した幻ですから、迷いが消えれば、「偽と不善と醜」は、無くなってしまふのです。

今、地球人類は、悪想念を使って様々な苦しみを作っていますが、これは、二つの実証実験をしているようなものなのです。

一つは「原因と結果の法則の実証実験」、もう一つは「何でも有りの実証実験」です。

「原因と結果の法則」の実証実験とは・・・、

戦争も、事件も、事故も、災難も、病気も、すべて人類の悪想念（原因）が生み出した結果であるという実験です。人類は、自らの想念で苦しい原因を作り、苦しい結果を我が身で体験しているのです。

「何でも有り」の実証実験とは・・・、

今人類は、想念でビルを築き、想念で車を作り、想念で人工衛星を飛ばしていますが、これは、想念の偉大な力を目に見える形にした実証実験なのです。目に見えない実証実験としては、個人的には、自分の想念で人生を作っています。世界的には、人類の集合想念で地球環境を汚しています。このように、人類の想念で、良いことも、悪いことも、作っているのです。もし、人類が、正しい想念を使うようになったら、この地球に理想世界を創ることも夢ではないでしょう。それどころか、太陽系に、銀河系に、理想の宇宙を創ることも夢ではないでしょう。だから、想念を持つ人類が存在する限り、何でも有りの宇宙になるのです。

### 三つの功德

---

イエス様やお釈迦様や知花先生は、クドイほど「神を想いなさい！ 仏を想いなさい！」と言われました。それは、言うだけの理由があるからです。では、どんな理由があるのでしょうか？ それは、「神・仏を想えば」、三つの功德があるからです。

一、神を想えば、原子核が増えると言う功德です。思いそのものが、創造の力だからです。

二、神を想っている時は、この世のことが思えないので、苦しい業を創らないと言う功德です。

三、神を想っている時は、過去のことをクヨクヨ思えないので、過去の悪業を消してしまうと言う功德です。

私たちの想念は、同時に二つのことが思えないように出来ているのです。だから、私たちは、立ち直ることができているのです。もし、同時に二つのことが思えるなら、永遠に悪業を消すことができなんでしょう。良いことを想っていたら、悪いことが想えない想念だから、私たちは、立ち直ることが出来るのです。

表現宇宙の白板に書かれた絵や文字は、刻々と消えてゆくのです。ですから、消す必要はないのです。でも、私たちは、苦しいので、また、同じ絵や文字を書いてしまうのです。これでは、いつまでたっても、苦しみは消えないのです。どうか、同時に二つのことを想えない想念を、上手に利用してください。それは、神を想えば良いだけです。どうか、この仕組を有効に利用してください。

## 幸せな人とは？

想わなかったら、何も生まれないのです。想念は、創造の力なのです。利口な人は、その想念を良いこと

に使って幸せになっています。愚かな人は、悪いことに使って不幸せになっています。

「この宇宙に、幸せな人と不幸せな人がいるのは、単に、想念を正しく使っているか、正しく使っていないだけなのです。」

私たちは、幸せを誤解して受け取っているのです。幸せは、外側のモノ（お金・物・地位・名誉・権力）で得られるものではないのです。なぜなら、外側のモノは消えて無くなる幻だからです。消えて無くなるモノを得ても、それは、幻ですから幸せになれるはずがないのです。永遠に無くならない想念（意識）だけが、幸せをくれるのです。「自我を持たされた時点で救われていますよ！」と、私が言うのは、何でも創れる想念を持たされているからです。どうか、想念の働きを良く知り、想念を正しく使える人になってください。幸せな人とは、想念を上手に使えるようになった人のことなのです。

**本当に有るモノと本当に無いモノ！**

「想ったら、必ず、創られます。」なぜなら、私たちの思いそのものが、「創造の原理であり、創造の力」だからです。私たちは、想ったモノを、何でも作ってしまうのです。私たちの想いそのものが、モノを作っ

ている本質（素材）そのものだからです。思っている当人が本質ですから、想えば、そく、そのモノになってしまうのです。ですから、想念は、恐ろしくもあり、素晴らしくもあるのです。

私たちの想念は、何でも作るわけですが、作られたモノは、いつか、必ず、消えてしまいます。なぜ、消えてしまうかと言えば、作られたモノは、本当に無いからです。では、作ったモノが本当に無いなら、創った想念も、本当に無いのではないかと思うかも知れませんが、創った想念は、本当に有るのです。このように考えてください。

作られたモノは、影です。創った想念は、光です。影は、本当に無いけれど、光は、本当に有るのです。作られたモノは無いけれど、創った本質は有るのです。

「本当に有るものから、本当に有るものは、絶対、生まれない」のです。

「本当に有るもの（想念）から、本当に無いモノが、生まれる」のです。

私たちの想念は、もともと有ったものですから、想念は創れません。本当に無いモノだけが作れるのです。また、本当に有るものは、無くすこともできないのです。本当に有るものは、創れないし、無くせないのです。本当に無いものは、作れるし、無くせるのです。また、本当に有るものは、途中で生まれもしなければ、途中で消えもしない永遠性の存在なのです。本当に無いモノは、途中で生まれるし、途中で消える有限性の

存在なのです。

## 想念の学び

---

ネガティブな想いを持てば、苦しい人生がやってきます。

ポジティブな想いを持てば、楽しい人生がやってきます。

病気や、事故災難などの不幸は、すべて、ネガティブな想いが呼び寄せたものです。想念ほど、恐ろしく、また、頼もしいものはないのです。神は、その想念を、すべての人類に平等に与えました。ですから、本当は、私たちは、幸せになれるはずなのです。しかし、今、地球人類は、「想念を・思いたい放題」の使い方をして苦しんでいます。我が身に及ぼす想念の影響を少しも考えず、乱用しているのです。想ったことは、必ず、実現するのです。それも、寸分も狂わず実現するのです。この地球は、波動が粗いので、想ったことが、すぐに、目に見える形で現れることはありませんが、想ったことは、宇宙空間に青写真として残り、いつか、必ず、現実の世界に降りてきて、実現させるのです。これが、想念の働きの凄さなのです。

私たちが、生まれてくるのは、想念の学びをするためです。私たちは、今日まで、何万転生も、想念の学

びをしてきたのです。これからも、学んでゆかねばならない課題なのです。どうか、肝に銘じてください。「いつか、必ず、克服しなければならぬ重要課題であることを・・・」

## 何でも実現させる想念の力

「想念は実現の母」と言われるように、想念は、何でも成し得る偉大な力を秘めています。それは、あなたが、自分の想念で人生を作ってきたことが証明しています。そんな確かな証拠があると言うのに、どうして、想念の力を疑うのですか？ 見えないから・・・肌で感じられないから・・・見えずとも、肌で感じなくても、間違いなく、自分の想念で自分の人生を作ってきたのです。

あの苦しいことも、そうでした。あの楽しいことも、そうでした。でも、あなたは、そうは思っていないかった。「誰かが、何かが、自分の人生を作ったと思っていた。でも、今日、その過ちを知ったのです。」さあ、今日からは、想念を正しく使いましょ。決して悪いことを想ってはなりません。思うなら、良いことを想いましょ。一番良い思ひは、神を想うこと（自分のマントラを想うこと）です。神の想ひは、良き思ひの最たるものです。

想念の偉大さを知った、あなたに、もう、怖いものはありません。怖いものがあるとすれば、「想い」を持って、あなた自身です。

## 光にするも闇にするも想念次第

光と闇と、幸せと不幸の関係は、実に、単純です。明るい（光）想念を持てば、幸せになり、暗い（闇）想念を持てば、不幸せになるだけです。それは、光は、「真・善・美」そのもの、闇は、「偽・不善・醜」そのものだからです。つまり、光は良いこと尽くめ、闇は悪いこと尽くめなのです。

この宇宙に、闇や不幸せなど無いのです。光の無い状態を「闇と呼び、不幸と呼んでいる」だけです。その証しに、明かりを持ってきたら、闇は、即座に退散します。幸せを持てきたら、即座に、不幸せは、退散するのです。

「幸せのない状態が、不幸せなのです。」

完全な神が創られた宇宙に、闇や不幸が有るわけがありません。闇や不幸せを創っているのは、あくまでも、迷った人の悪想念です。悪いことを思うから、闇がきて、不幸せになるだけです。



人生は、想念次第なのです。

「どう想うか？」

「何を想うか？」

「どれだけ多く想うか？」

「どれだけ強く想うか？」 だけです。

幸せになりたかったら、明るい想念を、「多く」、「強く」持ってください。

## 光は幸せを呼ぶ！

スポーツ競技で、良くこう言うことが起こります。選手の気持ち、明るくなれば、良い展開になり、暗くなれば、悪い展開になると言ったことが・・・これは、想いが、光を、呼んだり、退けたりし、その光の量が試合を支配するからです。例えば、ボール競技においては、選手の気持ちが明るくなれば、自分たちの都合の良い方へボールが転がりますし、選手の気持ちが暗くなれば、自分たちの都合の悪い方へボールが転がります。人生も同じです。暗い想いを持てば、悪いことが起こり、明るい想いを持てば、良いことが起

きるのです。これは、光が人生を支配するからです。

光は・・

意識を持ち

意志を持ち

知恵を持ち

意図を持ち

計画性を持つているのです。

それは、光そのものが、神だからです。神は、光そのものなのです。神は、明るい思いが好きなのです。だから、明るい思いを持つ人には、福がやってくるのです。

どうか、良い人生にしたかったら、明るい思いを持ってください。それは、誰の力も借りる必要はありません。何処へ行く必要もありません。お金もかかりません。ただ、自分の想いを明るくすれば良いだけです。

## 第7節 瞑想

瞑想は、難しいものではありません。ただ、想えば良いだけです。想うことが瞑想なのです。難しいことがあるとすれば、想い続けられるかどうかだけです。この節では、人類が、これまで、行ってきた、瞑想の誤りを正し、瞑想を原点に戻したいと思います。

### 瞑想は科学である

---

人生の目的は、魂を大きくすること、そして、自覚の境界線を超えることです。そのためには、どうしても、瞑想が必要なのです。

瞑想は、科学なのです。なぜなら、「原因と結果の法則」を利用しているからです。「原因と結果の法則」を利用するのは、誰でもない、自分です。そこには、自分が入っています。自分の力で成し遂げるのが科学なのです。神が、自分の想念を使って、宇宙を創ったように、私たちも、自分の想念を使って、瞑想すれば、目的を果たすことができるのです。その証に、あなたは、自分の想念を使って、人生を作ってきたではありません。

ませんか？ 学校に入ったのもそう・・会社に就職したのもそう・・結婚したのもそう・・すべて自分の想念を使って実現させたのです。そんな実績があるのですから、瞑想すれば、間違いなく、実現するのです。これは、神を、信じる、信じないに関係なく、やれば、誰でもできる、当たり前のことなのです。

殆どの人は、瞑想で、人生を作っていることを知りません。それは、想っていることが瞑想だと知らないからです。瞑想とは、想うことなのです。あなたは、人生を想いで作ってきたのです。

さあ、想念で人生を作ってきたように、想念で瞑想し魂を大きくしましょう。

## 瞑想の必要な理由

今、地球人類は、「人間の夢」を見ている真つ最中です。人間と言う夢を見ている限り、永遠に、人間として生き続けねばなりません。これでは、苦しみから、永遠に、抜け出すことができないのです。この人間の夢から目覚めるためには、覚醒させる瞑想が、どうしても必要なのです。

瞑想は、目覚まし時計のようなものです。神は、一日も早く、目覚めさせたくて、私たちに、瞑想と言う、目覚まし時計を与えてくれたのです。でも、私たちは、ベルが鳴っても、なかなか目覚めようとしないので

す。それは、あまりにも深い眠りに陥っているためです。しかし、どんなに深い眠りに陥っていても、ベルが、うるさく鳴り続けられれば、必ず、目覚める時がきます。つまり、「我神なり！」とうるさいほど想い続けられ目覚めることができるのです。「瞑想は技術より続けることが大切である」と言われるのは、続けなければ、せっかく目覚めかけたのに、また、深い眠りに陥ってしまうからです。

瞑想は、目覚めの切り札です。瞑想は、どんな宇宙においても、どんな階層の世界においても、行われているのです。それは、瞑想、以外、目覚めさせることができないからです。どうか、瞑想の大切さを知ってください。

### 瞑想をするとなぜ原子核が増えるのか？

なぜ、瞑想をすると原子核が増えるのかと言いますと、「想念は実現の力」だからです。私たちの想念は、どんな波動にも、少なからず干渉できるのです。ただ、あまりにも波動が違いすぎると、干渉効果が弱くなるため、実現化されないで終わってしまう場合があります。でも、想えば、時間はかかっても、間違いない、実現します。

神は、私たちに無駄なことをさせません。どんな想いも、蟻の一穴です。思い続けければ、岩をも崩します。だから、想念は、実現の母とか、実現の力とか、言われるのです。人の出した想念も、自分に影響を与えますが、自分の出した想念は、100%自分に影響を与えるのです。事実、私たちは、自分の想念で、病気や、事故や、自然災害までも、作っているではありませんか。その想念を使って、瞑想するのですから、原子核が増えないはずがないのです。

瞑想すると原子核が増えるもう一つの理由は、想念は、「退ける力」や「呼び寄せる力」を持っているからです。想念は、呼子のようなものなのです。その呼子を使えば、宇宙に遍満している、神の意識核が集まってくるのです。それも、弱く想えば少なく、強く想えば多く集まってくるのです。何一つ、難しい技術はありません。ただ、想えば良いだけです。

### やれば必ず変わるのが瞑想である

瞑想は、「原因と結果の法則」を利用した科学です。それは、「想いの力」を使ってやるのです。やるのは、想念を持った自分自身です。そこには、必ず、自分が入っています。だから、瞑想は、科学なのです。

自分抜き科学はありません。自分が自分の想念を使って原因を作り、自分が結果を受け取るのです。原因を作れば、必ず、結果が得られるのが、法則であり、科学だからです。

思ったことを「やった」わけですから、これは、実践です。「やれば」、必ず、結果がついてくるのが、原因と結果の法則ですから、瞑想すれば、必ず、実現するのです。変わらない瞑想は、嘘です。何かが、どこかが、間違っているのです。

もしかしたら、

真剣にやっていないのかも知れません。

想いを分散させているのかも知れません。

時間が短いのかも知れません。

でも、どんなやり方であっても、それなりの原因を作っているわけですから、それなりの結果は得られるのです。その意味では、どんな瞑想も無駄になってないと言うことです。さあ！ やれば、必ず、結果が得られることを信じ、瞑想を続けましょう。良いのです。バタバタ泳ぎで・・・バタバタ泳いでいれば、いつか、必ず、泳げるようになるのですから・・・。

## 魂（原子核）を大きくする方法 パート1

原子核を大きくする方法が、三つあります。

- 一、社会体験です。
- 二、瞑想です。
- 三、思索です。

一つ目の社会体験は、家庭生活の中で、学校生活の中で、会社勤めの中で、すでに、皆さんは、やっておられます。

二つ目の瞑想は、神（マントラ）を想うことです。想うことが瞑想なのです。

三つ目の思索は、疑問を自問自答する作業です。これは、原子核が増えれば、自然と自分から教わります。

この原子核を増やす三つの方法は、すべて自分頼りです。誰も手伝ってくれません。それだけに、熱意と、真剣さと、努力が、必要です。自分は、どれほどの熱意と真剣さを持って真理を求めているか？ どれほど、努力しているか？ 一度、自分に問うてみてください。揺るぎない気持ちで求めれば、必ず、結果は得られ



ます。「やれば成る」は、宇宙の法則「原因と結果の法則」です。法則を信じ、やってください。

## 魂を大きくする方法 パート2

この宇宙には、神の意識核が無限に遍満しております。その意識核を集めるのが、人生の目的です。方法は、三つあります。

一つは、肉体を維持するために必要なやるべきことを、真心を込めてやることです。つまり、家庭でやるべきこと、学校でやるべきこと、社会でやるべきことを、真心を込めてやることです。それも、厭なことが来ても逃げないでやることです。勿論、わざわざ厭なことを貫いて行く必要はありません。来たら、逃げないでやることです。魂は、厭なことをすればするほど、大きくなるようになっていくからです。

二つは、瞑想をすることです。つまり、神（マントラ）を想うことです。難しい技術はいりません。「ただ、自分のマントラを（神・生命・光・大霊・無限など）を想い続けるだけです。」それは、歩いていても、電

車に乗っていても、風呂に入ってもできません。考えない仕事なら、仕事しながらでもできます。家庭の主婦なら、掃除している時も、料理している時もできます。勿論、座って集中してやれたら最高です。

三つは、思索をすることです。この思索は、魂が大きくなるに従い、自分から教わります。それまでは、疑問に思ったことを自分の心に問いかけることだけしておいてください。

一も、二も、三も、難しい理論や技術などいりません。ただ、素直にやること、それも、無欲でやることです。無欲の純度が、高ければ、高いほど、天に繋がります。一番大切なのは、続けることです。

## 瞑想は誤解を解く作業

---

瞑想の「瞑」の右辺の「冥」は、見えないと言う意味です。ですから、見えないモノを「想う」ことが瞑想になります。

私の恩師である知花先生は、「想っている通りのモノで、それ以上でも、以下でもない！」と、おっしゃ

っておりましたが、正にその通りで、見えないモノを想えば、見えないモノが実現し、見える物を想えば、見える物が実現するのです。つまり、人間と想えば、人間になり、神と想えば、神になるのです。なるのではなく、元々人間は、神ですから、神に戻るだけです。何かして、神になるのではなく、今、そのままして、神なのです。それは、私たちの意識そのものが、神意識だからです。ただ、そう思えないから、神に戻れないだけです。それは、気の遠くなる年月、人間と誤解して生きてきたからです。その誤解を解くには、どうしても瞑想が必要なのです。

瞑想とは、誤解を解く作業のことなのです。つまり、人間意識を神意識に戻す作業が瞑想なのです。どうか、瞑想し、神の自覚を深めてください。やれば、必ず、誤解が解けます。

### 瞑想は想いを一つに集める作業

想念を分散させていては、凹レンズで太陽の光を分散させているようなものですから、火が付きません。想念を一箇所に集めれば、凸レンズで太陽の光を集めた状態になるので、火が付くのです。火が付くと言う意味は、原子核が増えると言う意味です。

瞑想は、特別なことのように思いますが、一般人も、毎日、やっているありふれたことなのです。ただし、一般人の瞑想は、「この世のことを想い、この世のことを実現させている」のですから、あまり意味がありません。対して、皆さんの瞑想は、「神を想い、原子核を増やしている」のですから、大いに意味があります。幻を、どんなに実現させても無くなってしまいますが、増やした原子核は、永遠に無くならないのです。このように、一般人の瞑想と学びの友の瞑想は、天と地の開きがあるのです。

何度も言うように、瞑想には、何の秘訣もありません。また、何の技術もありません。ただ、「神を想う」だけです。ただし、想うことは単純でも、想い続けることが難しいのです。なぜなら、思い続けるには、根気がいるからです。根気の「根」は「源」という意味で、根気の「気」は「エネルギー」という意味ですが、エネルギーの源につながるためには、集中力が必要なので大変なのです。でも、原因を作れば、結果が得られる（原子核が増える）ようになっていくのですから、瞑想の仕組みは、実に、うまくできているのです。

### なぜマントラが必要か？

マントラとは、何でしょうか？ マントラとは、神の側面を含み持った言葉のことです。例えば、「命・

光・エネルギー・愛・無限・永遠・一・〇・善・本質」なども、神の側面を持った言葉です。神の側面は、無限にありますから、マントラは、無限にあることになりませう。マントラは、神の自覚を深めるための誘導語なのです。誘導語ですから、できるだけ、神の深みを持ったマントラを選んでください。できたら、あなたの得意とするマントラを一つ作ってください。

断っておきますが、マントラが原子核を増やしてくれるわけではありません。マントラの中に込められた思いの深みが、原子核を増やしてくれるのです。よく、マントラを「真言」として使う宗教がありますが、マントラそのものには、何の力も、神秘も、ありません。真言と言う文字に騙されなくてください。

マントラは、誘導語ですから、呼び水のようなものなのです。井戸の底にある水（神）を、呼び水を入れて引き上げようと言うわけです。ですから、マントラの中に、どれほど神の深みを持たせられるかが勝負です。その意味では、「神の深みを持った抽象語ならどんな言葉でもマントラになるのです。」すべてを神だと思えるようになった人は、「これ」でも、「それ」でも、「あれ」でも、マントラとして使えるのです。「私」が神だと想えるようになった人は、「私」をマントラとして使って良いのです。

## 抽象的な言葉はマントラになる

瞑想で一番大切なのは、波動を高めることです。高めるためには、誘導語として、どうしても、波動の高い言葉・・つまり、マントラが必要なのです。波動の高い言葉は、抽象的な言葉です。抽象的な言葉は、具体性がないため、意識が拡大しやすいので波動が高まるのです。霊も・・生命も・・法則も・・愛も・・本質も・・一も・・〇も・・光も・・エネルギーも・・波動の高い抽象的な言葉です。他にも抽象的な言葉は沢山ありますが、すべて、マントラとして使えます。ただし、マントラの中に神の側面を含め持たせなくては意味がありません。

例えば、「本質」をマントラとして使ったとしましょう。その場合、「吾は本質なり！」のマントラの中に神の側面が入っていないてはならないのです。それも、強く入っていれば、入っているほど、神の自覚が高まるのです。本質は、具体性の無い抽象的な言葉ですが、どんなモノも、本質で出来ていと言う理解力を持ち、その本質は、神であると思えば、神の自覚が高まるのです。人間も、神の本質で出来ておりますから、人間と言う名前も、マントラとして使えます。でも、人間と言う名は、私たちの意識の中に、すでに、肉体（物質）としての概念が出来上がっていますから、マントラとして使うには、弱いのです。しかし、心

の底で「人間は神である！」と思えるようになった人なら、人間の名も、マントラとして使えるのです。思いの中身が大切なのです。ですから、どんなモノも、神の化身だと、心の底で思えるようになったら、もう、マントラはいりません。無言の想いが、マントラになるからです。つまり、「吾・・・なり！」で良くなるのです。

なぜ、抽象的言葉がマントラとして使えるか、理由が分かったと思います。どうか、瞑想に、意識の拡大しやすい抽象的な言葉を使ってください。

マントラを想うことは、

歩いていても出来ます。

料理をしながらでも出来ます。

電車に乗っていても出来ます。

車を運転していても出来ます。

風呂に入っても出来ます。

マントラを想えば、心が落ち着きます。心が穏やかになります。気持ちが明るくなります。どうか、あなたの得意とする、マントラを想い続けてください。必ず、変化が起きます。

## 瞑想の効果

瞑想は、ご利益を得るためにやるものではありません。原子核を増やすためにやるのです。でも、何も手応えがなくては、力が入らないでしょうから、瞑想の効果について述べたいと思います。

- 原子核（魂）が増えます。
- 心身に変性変容が起きます。
- 人を、社会を、自然を、地球を、宇宙を、浄化できます。
- 悪業が消えます。
- 環境が良くなります。（瞑想しやすい環境になる）
- 欲望や感情に振り回されなくなります。
- 知恵が増し理解力が高まります。
- 視野が広がるので先見の明が利くようになります。
- 判断力が増します。
- 行動力が強まります。



- 緻密になります。
- 温和になります。
- 不動心が築かれます。
- 幸福感に満たされます。

他にも、色々な効果が得られますが、余り、囚われてはなりません。変化を気にせず、純粋な動機を持って瞑想してください。純粋な動機とは、何も要求しない瞑想です。瞑想したいからするのです。神を思いたいから想うのです。

難しい技術はいりません。ただ、ただ、幼子のように、素直に神を想うことです。神のみを想い、神のみを考え、神のみを意識することです。

### 瞑想は動と静の組み合わせ

私たちは、常に、動く想念を持っています。一見、厄介な想念だと思いかも知れませんが、想念が動くから、瞑想に価値が生まれるのです。想念が動かなかったら、集中できるでしょうが、それでは、原子核が増

えないのです。動く想念を一箇所に集める想いの強さと多さが、原子核を増やすわけですから、想念は動いて良いのです。

瞑想は、「動」と「静」の組み合わせによって成り立っているのです。瞑想している時は、想念は「動」で、体は「静」でなくてはなりません。つまり、想念が一箇所に動いて集まっている状態が、瞑想なのです。想念が一箇所に動いて集まれば、体の方は、静かになります。瞑想する時、「背中の奥の奥に意識を持ってゆきなさい！」と言うのは、意識を体から離せば、体は、「静」になるからです。体が静になれば、想念を一箇所に集中させやすくなるのです。

反対に運動している時は、体は「動」で、想念は「静」でなくてはなりません。想念が動いては、鍛錬し、体に刻み込んだ技が、正しく発揮されないからです。

このように、瞑想は、想念の「動」と肉体の「静」の組み合わせによって成り立っているのです。

## 今の時を大切に！

過去のことを、懐かしがったり、悔やんだり、未来のことを、憂いたり、心配したりしては、今の大

切な時間を無駄にしてしまいます。お金の無駄遣いは、一時の損ですが、時間の無駄遣いは、永遠の損なのです。時間は、宝です。その時間を使うのは、あなたの想いです。あなたの想いだけが、時間を使って創造できるのです。では、何を想い、何を創造するのでしょうか？ それは、実際に有るものを想い、実際に有るものを創造するのです。つまり、神を想い、神を創造するのです。

想うことが瞑想なのです。想っている時は、永遠に無くならない原子核を創造しているのです。その想いは、いつでも、どこでも、自由に使えます。誰に邪魔されることもありません。すべて、あなたの意思次第です。

この世のことを想う時は、躊躇してください。でも、神を想う時は、躊躇しないでください。「今、神を想おう！」と思った時が、瞑想の最良の時なのです。今、神を想えば、雪だるま式に原子核が増えます。思っただけで増えた原子核は、決して減りません。増える一方です。さあ、今の一時を有効に使って、神を想いましょう。それも、多く、強く、集中して想いましょう。

## 想念を使って実現させることが瞑想

私たちの想念は、常に、アチラ、コチラに飛んでいます。その状態は、エネルギーが分散している状態なのです。分散しているエネルギーは、実現力が弱いのです。でも、数多く想えば、実現しやすくなるので、数多く想うことは、大切なのです。私たちは、今日まで、その想念を使って人生を作ってきたのです。その仕組みを、瞑想に利用しようと言うわけです。瞑想は、分散している想いを一つに纏める作業なのです。一つに纏めれば、エネルギーが強くなるので原子核が増えるのです。

私たちは、今日まで、想念を使って欲しい物を手に入れてきたのです。お金も、欲しいと想い手に入れました。車も、欲しいと想い手に入れました。家も、欲しいと想い手に入れました。欲しいと想わないで手に入れたモノは、一つもありません。ならば、神を欲しいと想えば、神だって手に入れられるはずですよ。

想念を「多く使って、実現力を高め」、想念を「強く使って、実現力を高め」みましょう！それが、瞑想のコツです。さあ、神を欲してください。神を想ってください。間違いなく、原子核を増やすことが出来ます。

## 動けば原子核が増える

近年、家に閉じこもっている人が多くなっているようですが、これでは、体も、心も、弱くなってしまう。健康な人は、良く、体を動かします。不健康な人は、あまり、体を動かしません。体を動かせば、想念も動くので、健康になるばかりではなく、原子核も増えるのです。

いつも思うことですが、子供は、どうして、忙しく動くのでしょうか？ アリさんも、どうして、忙しく動くのでしょうか？ 私は、止まっているアリさんを、見たことがあります。子供やアリさんに限らず、どんな生き物も、みな、動いています。彼らは、動けば、原子核が増えることを、本能的に知っているからです。

では、なぜ、体を動かせば、原子核が増えるのでしょうか？

それは、

体を動かせば、想念が動きます。

想念が動けば、エネルギーが動きます。

エネルギーが動けば、原子核が増えるのです。

神の意識核は、エネルギーそのものなのです。

アスリートは、沢山、体を動かしていますので、沢山、原子核を増やしているのです。学びの友の皆さんは、過去世で、沢山、スポーツをやり、原子核を増やしてきた魂なのです。

私たちの体は、少々、乱暴に使っても壊れないように出来ています。これは、「沢山、体を動かし、原子核を増やしなさい！」と言う神様のご配慮なのです。その意味では、家に閉じこもって、何もしない人は、神に逆らっていることになるでしょう。さあ！神様の配慮に報いるためにも、大いに、体を動かし、原子核を増やしましょう！

## 自覚とは？

学びの友の皆さんは、もう少して、自覚の境界線を超えられる所まで来た、優秀な魂です。

自覚の境界線を超えれば、

「私は神である！」

「宇宙である！」

「意識である！」

と、心の底で思えるようになるのです。でも、この意識状態は、当人だけが味わう特別な意識状態ですから、誰にも解ってもらうことはできません。勿論、言葉や文字で伝えることもできません。何せ、「自覚」と言う言葉の意味さえ伝えられないのですから・・・。

「自覚」という文字の意味は、「自」らに「覚」める、つまり、「神の自分」に目覚めると言う意味ですが、これは、言葉上の意味で、目覚めた意識状態は、本人しか解らないのです。食べた味は、食べた本人にしか解らないように、自覚の味も、本人しか解らないのです。ですから、本人だけが頂けらるご褒美です。このご褒美を貰うためには、魂（原子核・生命核）を大きくするしかないのです。それも、自分でやるしかないのです。

原子核が大きくなれば、「私は、神であった!」、  
「魂であった!」、  
「生命であった!」、  
「意識であった!」と、自動的に思えるようになるのです。それまでは、よだれを垂らして待つしかないでしょう。

## 自覚には際限がない！

自覚とは、心の底で、「私は神である！」「宇宙である！」「意識である！」と、想えた状態です。この自覚の味わいは、「これが最後だ！」と言った終わりのある味わいでは無いのです。味わったその先に、新たな味わいが待っているのです。つまり、自覚した先に、更なる、深い自覚が待っているのです。

100 の原子核の量には、100 の自覚の深味が・・・

1000 の原子核の量には、1000 の自覚の深味が・・・

10000 の原子核の量には、10000 の自覚の深味が・・・

今の私の「自覚の深味」は、今の私の原子核の量に応じた深味です。この自覚の深味は、原子核が増えればドンドンと増すのです。それは、神が無限だからです。宇宙が無限だからです。ですから、私たちは、原子核（魂）を大きくする旅を永遠に続けるしかありません。

確かに、厳しい旅ですが、決して、苦しい旅ではありません。いや、むしろ喜び多い旅です。なぜなら、「自覚が深まった分、幸せというご褒美が頂けるからです。」



## 自問自答

自問自答は、一長一短に出来ない難しさがありません。でも、原子核が増えてくれば、自然と出来るようになります。それまでは、疑問が湧いてきた時だけ、自分に問うてみてください。そのコツを、お伝えしましょう。

真実は、外側（表現世界）にあるのではなく、内側（意識の世界・自分の心の中）にあります。ですから、自分の心に疑問を投げかければ、自分の中から答えが返ってきます。

ただし、次のような質問は避けてください。

- 突飛でもない質問をしないことです。
- 興味本位の質問をしないことです。
- 今の自分に本当に必要な質問だけすることです。

そうすれば、一服して、寛いでいる時とか、お風呂に入って、ゆったりとしている時とか、朝、起きかけのポーズとしている時に、ひらめきとして返ってきます。でも、最初はそのひらめきが、自我からきたものか、神我からきたものか、見分けがつかないかも知れません。でも、諦めず、やり続けてください。

段々と見分けが付くようになります。何でもそうですが、体験なしに身に付くことはありません。ぜひ、挑戦してみてください。

## 第8節 宇宙

宇宙は、広大無辺です。果が無いのです。何処まで行っても行っても、果の無いのが宇宙なのです。私たちは、その果の無い宇宙を、永遠の時をかけ、探って行くのです。でも、宇宙船に乗って、遠くに探りに行くのではありません。自分の意識船に乗って、心の中の宇宙を探って行くのです。なぜなら、私たちの心の中に小宇宙があるからです。小宇宙は大宇宙の中にあり、大宇宙は小宇宙の中にあるのです。だから、小宇宙を探れば、大宇宙が解るのです。

### 宇宙数学 パート1

宇宙数学は、私たちに何を教えているのでしょうか？ それは、この宇宙には、1つのものしか無く、そ



## 思索とは？

思索とは、疑問に思ったことを自分の心に問う作業のことです。自分の心の中には、何でもご存知のアカシックレコードがあります。ですから、疑問に思ったことを自分の心に問えば、答えが返ってくるようになっているのです。しかし、そのためには、次の二つの条件を満たしていなければなりません。

一つは、「心が清らかであること・・・」

もう一つは、「質問者にとって本当に必要な質問であるかどうか？」です。

アカシックレコードは、清い波動を持った者にしか同調できないようになっていっているのです。ですから、興味本位の質問や知識欲を満たしたくてする質問では、答えは返ってきません。

この思索は、原子核が多くなれば自然とできるようになります。ですから、思索ができないからと言って焦らないでください。疑問が湧いてきたら自分に問うてください。ただし、答えが、すぐ返ってくるとは限りません。すぐ返ってくる場合もありますが、返ってこないことの方が多いのです。その時は、質問だけしておくことです。必要なら、いつか、必ず、ヒラメキとして返ってきます。

神は、できないことをしなさいと言っています。「今、できることを、精いっぱい、やりなさい！」と

言っているのです。

## 現実と眞実を見分けよう！

この宇宙には、「ホンモノらしき顔をしているニセモノ」と、「ニセモノらしき顔をしているホンモノ」が存在します。つまり、見えるニセモノと見えないホンモノが存在するのです。では、実在するのは、見える物でしょうか？ 見えないモノでしょうか？

この宇宙は、対になっております。二つで一つなのです。二つで一つですが、どちらかが、ホンモノで、どちらかが、ニセモノなのです。ニセモノは、実際に無い「現実」です。ホンモノは、実際に有る「眞実」です。ニセモノの現実とは、見えるのです。ホンモノの眞実は、見えないのです。つまり、「見える・聞こえる・触れる・味わえる・臭えるモノ」は、すべて、幻なのです。なぜなら、五感そのものが、幻だからです。幻の五感で見聞しても、それは、幻に過ぎないのです。もし、五感が永遠に無くならないなら、私は、五感にかかるモノを眞実だと認めましょう。でも、五感にかかるモノは、いつか、必ず、無くなってしまいます。無くなってしまうものが、眞実であろうはずがありません。

「真実（真理）」とは、何でしょうか？ 現実（非真理）とは、何でしょうか？ 「真実とは、永遠に無くなるモノ」、 「現実とは、必ず、無くなってしまうモノ」です。何千億年・何兆億年存在しようと、無くなるモノは、真実ではないのです。無限時間での一兆億年など、一瞬です。ましてや、私たちの住んでいる地球は、どんなに長く存在しても、数百億年程度です。その地球における人類の文明も、せいぜい、数万年維持できれば良い方です。更に、今の地球人類の寿命は、どんなに維持できても、百数十年程度です。その百数十年程度の命を守ろうとして、競い、闘い、奪い、戦争までしているのが、地球人類なのです。それは、真実と現実の見分けができていないからです。

この表現宇宙も、幻です。地球も、幻です。幽界も、幻です。夢も、幻です。幻覚も、幻です。詐欺師の言葉も、幻です。柳を幽霊と見間違ったのも、幻です。蜃気楼も、幻です。 UFO も、幻です。物質化現象も、幻です。この現象の世界（幻の世界）で起きていることは、すべて、幻なのです。

私たちは・・

「何度、幻の世界に生まれ」「何度、幻の世界に生き」「何度、幻の世界に帰って行ったことでしょうか？」

あなたは、こんな幻の輪廻を、いつまで繰り返すつもりですか？

幻の中で味わう幸せなど、一時です。必ず、色褪せ、失ってしまいます。あなたは、そんな、一時的幸せ

で満足できますか？ 永遠の私たちは、永遠の幸せでなくては、満足できないはず。その永遠の幸せは、真実を知れば、得られるのです。どうか、真実を知ってください。そうすれば、幻の輪廻から抜け出し、「永遠に尽きない！ 永遠に色褪せない！」幸せを手に入れることができるのですから……。

私たちは、永遠に無くならない「意識」です。その意識は、「永遠に尽きない！ 永遠に色褪せない！」幸せを欲しているのです。どうか、真実と現実を見分ける目を持ってください。

## 自分の宇宙しか無い！

宇宙は、誰の宇宙でもありません。自分の宇宙です。なぜなら、自分の意識が自分の宇宙を創造しているからです。自分の意識がなかったら、妻も、子も、友達も、地球も、宇宙も、何も無いのです。

こう言うことです。

今、あなたが存在しているのは、紛れもない事実ですね。実際に、今、あなたが存在しているのですから、否定のしようがありません。と言うことは、今、あなたは「1」であると言うことです。今、あなたが存在している状態は、今、あなたは「1」であると言う状態なのです。その「1」は、絶対無くなりようのない

「1」なのです。絶対に無くなりようのない「1」とは、何ですか？ それは、宇宙ではありませんか？ なぜなら、宇宙は、絶対、無くならないからです。と言うことは、あなたは、宇宙である、と言うことです。私が誰の宇宙でもないと言うのは、あなたは、「1だからです」。

この意味を知るのは、容易なことではありません。いいえ、永遠に知ることはできないでしょう。でも、これは、絶対、間違いない、真理なのです。今、解らなくても結構です。ただ、「宇宙とは・・・」「自分とは・・・」「そう言う存在である！」と言うことだけ知っておいてください。原子核が増えれば、いずれ、解る時がきます。

## 相手は全部自分が創っている

どうして自分がいるのですか？ どうして相手がいるのですか？ それは、自分の意識があるからではありませんか？ 自分の意識がなかったら、自分もいないし、相手もいないはずですよ。自分の抜きの自分もいないし、自分抜きの相手もいないのです。自分抜きでは、何も始まらないのです。ならば、自分がすべてのモノを創っていることになりませんか？ つまり、あなたも、家族も、社会も、地球も、宇宙も、自分が創



っていることになりませんか？

「いや、自分がいなくても、相手はいますよ！」と、あなたは、反論するかも知れません。でも、自分がいなかったら、相手がいるかいらないか、どうして分かるのですか？ 自分がいなくなった瞬間、相手がいなくなっているのかも知れないですよ！ 第一、自分がいなくては、そのことさえ認められないのですから……。

「自分抜きでは、何もあり得ないのです。」すべて、自分が創っているのです。これは、間違いない真理なのです。と言うことは、「自分は創造主である」と言うことです。何かが存在するかしないかを証明できるのは、自分しかいないのです。なぜなら、自分しか認めてやれる者がいないからです。だから、宇宙が存在した時には、自分がいたし、自分がいた時には、宇宙が有ったのです。自分がいなくなったら、宇宙を認めてやれる者がいないのですから、宇宙が存在できるわけがないのです。自分は、宇宙を認めてやれる、唯一の存在者なのです。ならば、自分は何ですか？ 神ではありませんか？ そうです。自分は、神なのです。だから、「自分」と言う字は、「神が（自）らを（分）けた」と書くのです。

相手が勝手に来たと思っってはなりません。自分が相手を創り、自分が連れてきたのです。外側の物が先に有ると思っってはなりません。自分の意識が先に有り、後で外側の物が創られたのです。

## 絶対者である自分

今、自分は存在しています。これは、紛れもない事実です。と言うことは、自分は、「絶対者である」と言うことです。絶対とは、「1」と言う意味ですから、今、「一・自分」が存在していること自体が、自分が絶対者である証になるのです。しかし、自分が自分を認めても意味がないので、自分を認めてくれる相手（人類・物）を創って、自分を認めてもらおうとしているのです。

絶対とは、「1」と言う意味です。相対とは、「多」と言う意味です。それは、相対界には、沢山の物があるからです。でも、その沢山ある物も、本当は、「一・絶対」なのです。なぜなら、沢山の物の中に同じ「一・絶対」が宿っているからです。どうか、物の中に「一・絶対」を観てください。「一・絶対」なる自分が、観えるでしょう。私たちの目には、沢山の物があるように見えますが、物の中に宿っている、絶対者（一・自分）を観れば、「1」なる自分しかいないのです。

「1」なる絶対者（自分）が「多」なる物を生み出し、その多なる物の中に絶対者（一の自分）がいるのです。つまり、絶対者（一の自分）は、「一人無限役・自作自演の一人芝居・」をしているのです。だから、この宇宙は、「自己完結型宇宙」と言われるのです。それは、自分「一・絶対者」しかいないからで

す。

## 本源宇宙（絶対宇宙）と表現宇宙（相対宇宙）の関係

本源宇宙は、絶対宇宙、あるいは、意識宇宙とも言われ、波の無い真つ平らな宇宙です。まっ平らな宇宙ですから、そこには、何も無いのです。ただ、「私」と言う意識だけがあるだけです。その本源宇宙は、無限の可能性と、無限の発展性と、無限の創造性を秘めております。その意味では、「何も無い宇宙でありながら、何でも有る宇宙」と言えるでしょう。

確かに、本源宇宙は、無限の可能性を秘めた宇宙ですが、生命体の全く存在しない宇宙ですから、有っても無きに等しい宇宙なのです。なぜなら、生命体が存在しなければ、何一つ、ドラマが生まれませんからです。ドラマの生まない宇宙は、存在意味がないのです。そこで、神は、表現宇宙を創り、そこに、人類を送り込んだのです。私たち人類は、ドラマを演じるために遣わされた役者なのです。

本源宇宙は、背後で、人形を操る黒子のような存在です。対して、表現宇宙は、黒子に操られている人形のような存在です。操る黒子がいなくても、操られる人形がいなくても、人形芝居は成り立ちません。です

から、人形と黒子は、どちらが上で、どちらが下だと言えない対等の関係にあるのです。

「このように、本源宇宙と表現宇宙は、相身互いの関係・切っても、切れない関係にあるのです。」

### 本源宇宙（神）に自我があるのか？

本源宇宙（神）に、自我があるのでしょいか？ 無いのでしょいか？ これは、実に、興味深い問題です。では、探ってみましょい。

どうして、神は、表現宇宙を創造されたのでしょいか？ それは、真の幸せが欲しいためです。この真の幸せが欲しいと言う「希望・願望・あこがれ」は、自我の思いではありませんか？ 自我が無くては、願望も、あこがれも、生まれなからです。また、自我が無くては、「表現宇宙を創造したい思いも浮かびませんし、表現宇宙を創造することもできません。」更に、自我が無くては、「幸せも味わえないのです。」このように、何もかも、自我あつての話なのです。

私は、本源宇宙（神）に、自我があるかどうか解りません。なぜなら、本源宇宙（神）に、戻ったことがないからです。でも、直感的に、本源宇宙（神）に、自我があると思えるのです。そう思えるのは、私自身

が主観宇宙の主だからです。自己完結型宇宙の主だからです。

この宇宙は、生きモノたちで満ち溢れているのです。その生きモノたちは、みな、幸せを欲しているのです。ですから、その生きモノたちを生み出した、本源宇宙（神）に、自我があるのは、当たり前なのです。ただし、人間のような自我ではありません。「主観の主（絶対宇宙の主）だけが知る自我です。」

### 表現宇宙（相対宇宙・物質宇宙）とは？

表現宇宙のことを、別の名で、相対宇宙、あるいは、物質宇宙とも言っております。表現された宇宙ですから、見え、聞こえ、臭え、味わえ、感じられる宇宙です。でも、五感で感じられる宇宙は、いつか、必ず、消えて無くなります。だから、表現宇宙は、無常の宇宙とも言われているのです。

表現宇宙は・・

- 凹凸が有る宇宙です。
- 波風が有る宇宙です。
- 摩擦が有る宇宙です。

- 沢山の物が有る宇宙です。
- 分数と幻数が有る宇宙です。
- 無限の原子番号が有る宇宙です。
- 埋められない宇宙です。
- 不完全な宇宙です。
- 不確定な宇宙です。

表現宇宙には、自我を持った進化途中の人類が、無数に存在します。ですから、表現宇宙には、自我人間を制御する様々な法則があります。

主な法則に、「原因と結果の法則」と「陰陽の法則」があります。この法則を、私は、「十字の法則」とも言っております。その他にも、「循環の法則」「エネルギー均衡の法則」「エネルギー不滅の法則」「同類共鳴の法則」などありますが、すべて、宇宙の秩序を保つ上で必要な法則です。人類は、この法則に制御されながら、進化の階段を登って行くのです。

表現宇宙は、常ならぬ世界でありますが、としても、大切な世界です。表現世界がなくては、絶対世界が無いからです。だから、表現物（人）と表現者（神）は、対等なのです。つまり、絶対宇宙と相対宇宙は、

対等なのです。

## 宇宙は一つの本質で創られている

宇宙は、たった一つの本質によって創られています。その一つの本質とは、「意識」、すなわち、「神」のことです。神は、「本質」であり、「意識」なのです。その本質（意識）が、宇宙に素晴らしい絵を描いているのです。

宇宙に存在する、あらゆるモノは、神の本質から生まれた子供たちです。クオークも、陽子も、中性子も、電子も、分子も、ソマチットも、細胞も、菌も、虫も、鉱物も、植物も、動物も、人間も、神の本質から生まれた子供たちです。子どもたちですから、どんなモノを探っても、神の本質（意識）に辿り着くのです。

今、人類は、巨大な加速器を作ったり、宇宙に探査機を飛ばしたりして、宇宙の謎を解き明かそうとしていますが、そんな手間をかけなくても、意識を探れば、解明できるのです。

宇宙は、「縦の糸」と「横の糸」で編まれているのです。縦の糸とは、意識です。横の糸とは、物質です。

表現宇宙は、縦の糸と横の糸の組み合わせによって出来ているのです。ですから、縦の糸を探れば横の糸が解明でき、横の糸を探れば縦の糸が解明できるのです。ただし、今の科学者のやり方では、いくら探っても、時間の浪費、お金の浪費です。なぜなら、瞑想を取り入れていないからです。縦の糸を探るには、瞑想して、原子核を増やし、理解力を高めねばならないのです。理解力が、高まれば、高まった分、宇宙の謎に迫ることがができるのです。

横の糸を探っている、今の科学者は、白い服は着ていますが、真の科学者ではありません。でも、瞑想している、皆さんは、白い服は着ていませんが、真の科学者です。

## 大宇宙と小宇宙

---

この表現宇宙には、大宇宙と小宇宙が存在します。なぜ、神は、大宇宙と小宇宙を創られたのでしょうか？それは、自分の存在を認めてもらう人類が必要だったからです。こう言うことです。

初めも無い、終わりも無いのが、「大宇宙」です。

「大宇宙は、アルファ(α)にして、オメガ(ε)なのです。」



大宇宙には、誕生が無いので、死も無いのです。

でも、これでは、宇宙の成り立ちが説明できませんので、神は、初めが有り、終わりの有る、小宇宙を創り、そこに、人類を誕生させたのです。人類は、自我を持っているため、宇宙（神）の存在を認めてやる事ができるのです。何か矛盾しているように思えますが、このように考えてください。

大海は、一つしかありませんが、その大海の中で、無数の渦が、現れては消えています。その渦に当たるのが、「小宇宙」なのです。人類の魂は、そこから、生まれたのです。

渦（小宇宙の生成消滅）は、新鮮さを吹き込む原動力です。渦が、誕生消滅を繰り返すことによって、大宇宙は、永遠の命を得ているのです。いわゆる、脈動運動と言われる循環の働きです。小宇宙の一脈動運動は、数百億年から数千億年かけて行われ、大宇宙に、新鮮で、トリッキーなドラマを生み出しているのです。その一躍を担っているのが、私たちの悟りなのです。

## 宇宙の必然性

宇宙が永続できるのは、完全な意識が宇宙を差配しているからです。意識が完全でなければ、今、宇宙は

存在していないのです。宇宙が存在している証は、意識が完全だからです。では、意識は、なぜ、完全なのでしょうか？ 「それは、意識が必然を生み、必然が完全を生み出しているからです。」

人は、偶然を信じていますが、この宇宙に、偶然があったら、宇宙は、一瞬たりとも存在できません。必然しか無いから、宇宙は、永続できているのです。この表現宇宙は、必然（意識）によって、存在させられ、必然（意識）によって、進化の道を歩まされているのです。ですから、何か起きたら、どうして起きたのか、疑問を持つてください。疑問を追求すれば、起きたことが、みな、進化成長に結びついていることが解ります。

偶然を信じている人は、成長が遅いのです。必然を信じている人は、成長が早いのです。なぜなら、偶然を信じている人は、疑問を持ちませんが、必然を信じている人は、疑問を持つからです。また、偶然を信じていては、いつも、不安な気持ちで生きなければなりません。でも、必然を信じていれば、安心して生きられるのです。私たちが、曲がりなりにも、安心して生きられるのは、必然の中で生かされているからです。意識が生み出した必然の中には、必ず、進化成長につながる意味が隠されていることを知ってください。

## 宇宙の創成と神の意図

絶対宇宙（本源宇宙）には、唯一の意識（宇宙意識）が存在します。この意識を、私は、神と呼んでおります。でも、神という名に囚われてはなりません。神と呼ぶのが恐れ多いなら、「生命」でも、「無限」でも、「創造主」でも、「宇宙意識」でも、「宇宙」でも、「私」でも良いのです。要するに、意識と意志を持ち、しっかりとした目的意識を持って、宇宙を差配しているのが神なのです。ここで神という名を使わせてもらうのは、人類が古来より、あこがれ、畏怖し、崇め、すがってきた対象物が、神の名だからです。その神には、三つの悩みがありました。

○ 一つ目の悩みは・・

「私は、偉大な能力を持っている。でも、その能力は、私の思いの中にあるだけで、実現化されていないのだ！ これで良いのか？」

そうですね。どんなに偉大な能力を持っていても、表現しなければ、意味がないのです。どんなに素晴らしい絵の構想を持っていても、描いて見せなければ、意味がないのです。

○ 二つ目の悩みは・・

「自分だけが、自分の存在を知って、一体、何になるのだろうか？ 自分しか存在しない宇宙に、一体、どんな意味があるのだろうか？ いや、自分しかないなければ、自分の存在は、無いのではないだろうか？ 誰かに認められて、はじめて存在意義が出てくるのではないだろうか？」

そうです。一しか無ければ、一は無いのです。自分しかないければ、自分は無いのです。なぜなら、自分が自分を見る（知る）ことなどできないからです。あなたは、自分を直に見たことがありますか？ 鏡に写して見たかも知れませんか。あるいは、写真に撮って見たかも知れませんか。でも、それは、間接的に見たのであって、直に見たわけではないのです。未だかつて、直接、自分を見た人は、一人もいないのです。ましてや、神は見えない存在ですから、神の自分を見ることなど、できるわけがないのです。このように、絶対の中においては、絶対は分からないのです。一の中には、一は分からないのです。自分の中には、自分が分からないのです。

○ 三つ目の悩みは・・

「今、私は、幸せいっぱいである。でも、この幸せは、一体、いつまで続くのだろうか？ 昔は、今以上に幸せだったのに、今は、それほど幸せとは思えない。どうも、幸せに慣れ、幸せの味が薄れてきたようだ。このままだと、今の幸せも、失ってしまうのではないだろうか？」

そうです。意識の一番の弱点（強点かもしれません）は、飽きてしまうことです。皆さんも、体験があると思いますが、どんなに面白い映画も、何度も見れば飽きてしまうものです。どんなに楽しい遊園地の乗り物も、何度も乗れば飽きてしまうものです。幸せも、同じ幸せの中には飽きてしまうものなのです。これは、永遠の意識を持つ者にとって大問題です。

このように、神には、三つの悩みがあったのです。神は、考えました。どうしたら、三つの悩みを解決することができるか？ と・・・。

「もう一つの自分（相対宇宙）を創ろう！ そうすれば、三つの悩みは、すべて解決するはずだ！」

神は、このような理由から、もう一つの自分（私・人間）を創ることにしたのです。すなわち、相対宇宙（表現宇宙・物質宇宙）を創ることにしたのです。

## 表現宇宙（相対宇宙）の創造劇

神は、自らの意識を放射して、表現宇宙を創りました。このことを、科学者たちは、「ビッグバン！」と言い、ギリシャ神話では、「パンドラの箱が開いた」と言っています。

放射した神の意識は、光であり、エネルギーであり、本質であり、神ご自身です。その神の意識は、波動を下げた色光となりました。さらに波動を下げた意識核となりました。意識核には、質量があるため、意識核が放射された時点で、時空が生まれます。時空の誕生・これが、表現宇宙の誕生です。さらに、意識核は、波動を下げて原子となりました。

「神が、物を創造する場合、神自らが、その物になるしかない！」と言われるのは、原子そのものが、物の本質であり、神だからです。神は理念の主であり、本質そのものなのです。ですから、物を創造する場合、神自らが、その物になることができます。その意味では、この表現宇宙（相対宇宙）は、神ご自身で構成されていることになるでしょう。つまり、表現宇宙そのものが、神ご自身であり、そこに創られた様々な物も、神ご自身であると言うことです。このように神は、自らを素材として用い、表現宇宙を創造されたのです。

太陽は、「三身（位）一体の構造」になっています。私たちが見ている原始太陽の背後に、靈太陽（幽界の太陽）があり、更にその奥に、本源の太陽があります。原子太陽が、今日まで輝き続けて来られたのは、本源の太陽から、靈太陽へ、そして、原始太陽へと、エネルギーが注がれてきたからです。ただし、本源の太陽のエネルギーは、あまりにも波動が精妙なため、間に調整してくれる靈太陽がなくては使えません。ですから、本源の太陽↓靈太陽↓原始太陽と言う順番で置かれています。靈太陽が途中で波動調整してきていたから、原始太陽は今日まで、輝き続けてこられたのです。もし、科学者が言うように、水素の核融合反応だけで輝いているなら、とっくに太陽は、燃え尽きていたでしょう。

神は、一様ですから、本源の太陽も一つしかありません。でも、表現宇宙には、無数の原始太陽と無数の靈太陽があります。どうしてあるのかと言いますと、「元数1」から「無限の幻数と無限の分数」が生まれたように、「本源の太陽」から「無限の靈太陽と無限の原始太陽」が生まれたからです。それは、宇宙のあらゆる創造物の中に、神の意識核が素材（元素・原子）となってあるからです。当然、私たちの中にもあります。だから、瞑想が進み、原子核が増えると、靈太陽が見えるようになってくるのです。ただし、本源

の太陽は、誰も見ることはできません。また、霊太陽も、自覚の境界線の寸前まで来た人にしか見えません。それも、自覚の境界線の外からは見えても、自覚の境界線の中に入れば、見えなくなります。自覚の境界線の中に入れば、霊太陽そのものが自分になるわけですから、見えなくなるのは、当然だからです。このように、宇宙には、三位一体となって輝いている三つの太陽があるのです。

**「私は何も見えません！」と言える人になろう！**

この宇宙には、たった一つのモノしか存在しません。理由は、主観視しかできないからです。主観視しかできないなら、一つのモノしか存在しないのは当然でしょう。と言うことは、この宇宙には、「自分しか存在しない」ことになります。なぜなら、「今、現に自分が存在している事実」があるからです。自分の他に、何かが存在するなら、二つのものが存在するので、一つのものしか存在しないと言う真理は嘘になります。自分しか存在しないのですから、一つのものしか存在しないという真理は間違いないのです。そう言えるのは、自分しか存在しないからです。自分しか存在しないなら、相手がいらないわけですから、何も見えないのは当然でしょう。また、自分が自分を見ることができないわけですから、何も見えないのも当然でしょう。



あなたは、いぶかっていますか、あなたは、自分を直に見たことがありますか？ 一度も見たことがないはずですよ。

このように、何も見ることができないのが、この宇宙の実体なのです。だから、私は言うのです。「私は、何も見えません！」と言えるようになった人は、本当の自分を知った人だと……。どうか、「私は、何も見えません！」と言える人になってください。

### 見える物は見えないモノから生まれた！

私たちは、見える物が本当に有ると思っていますが、見える物は、本当は無いのです。なぜなら、見える物は、必ず、消えて無くなるからです。本当に有る物なら、絶対に無くなることはありません。本当に無い物だから、消えて無くなるのです。

この宇宙の実体は、「見えないモノが、ホンモノ」で、「見える物は、みな、ニセモノ」なのです。なぜなら、見えないモノが、見える物を生み出しているからです。つまり、見えない原因が、見える結果を生み出しているからです。私たちの肉体は、結果体です。結果体である肉体は、この世を見聞するために必要な

乗り物ですから、必要なくなれば、消えて無くなるのです。Aさんも、Bさんも、消えて無くなりました。あの有名人も、この有名人も、消えて無くなりました。それを私たちは、毎日見えています。でもそのことを誰も深く考えようとしません。

あなたは、「見える物が見える物を生んだ」のを見たことがありますか？ 見える物は、見えないモノから生まれたのです。つまり、物質は、見えない原子から生まれたのです。赤ちゃんは、見えない精子と卵子から生まれたのです。どんな物も見えない世界から出てきて、見えない世界へ帰るのです。どうか、何がホンモノで、何がニセモノか、識別してください。

## 宇宙数学 パート2

この宇宙には、唯一、宇宙数学があるだけです。どのような数学かと言いますと、「1」を、どんなに、いじくり回しても、「1」は、「1」にしかならないと言う数学です。つまり、「何を  $+$  ても、 $-$  ても、 $\times$  ても、 $\div$  ても、「1」にしかならない！」と言う数学です。この宇宙数学の意味は、「1」しか無い！「1」以外何も無い！すべては「1」である！その「1」は、神である！と言う1なのです。

この宇宙数学が心の底で理解できたら、どんなモノも神であり、自分であると言う自覚に至るのです。

「1」は、すべての大元なのです。だから、私は、「元数1」と言っているのです。すべてのモノの中には、「1」があるのです。でも、その「1」は、見えないのです。それでは、「1」の存在がありませんので、「1」は、自分の身を分け、分数（原子番号・自分・人）を創ったのです。ですから、すべてのモノの中には、分数が存在するのです。どんなに分数をいじくり回しても、（十でも、一でも、×でも、

÷でも）「1」のままであり続けるのは、すべての分数の中に「1」が存在するからです。客観的に見たら沢山の分数が有りますが、主観的に見たら「1」しか無いのです。どんなに分けても「1」は、「1」だから、「1」から離れることは絶対できないのです。分かりやすく言えば、「1」の中には、もう一つの「1」があるのです。「1」は、「1」だけでは存在できないのです。認識される「1」と認識する「1」が存在して、はじめて、「1」が存在できるのです。人間と神も同じです。認識する人間が存在して、はじめて、認識される神が存在できるのです。

被認識者（神）と認識者（人）は、一対で存在するのです。被認識者と認識者は、切り離せないのです。だから本当は、主観視しかできないのです。客観視できるのは、認識者（人）と被認識者（神）が独立して存在する場合ですが、1しかない宇宙で独立などありませんので、主観視しかできないのです。つまり、神

の立場でしか観られないのです。今、人間が客観的に見ているのは、幻覚（想像している）を見ているのです。

この宇宙には、一様の被認識者（神）しか存在しません。しかし、それでは、被認識者（神）の存在はあり得ないので、神は認識者（人）を創り、その認識者（人）に認知してもらうことで、自分の存在を確かなものにしているのです。だから、「分数と元数1は、同格」なのです。つまり、「人間と神は、同格」なのです。

## 宇宙は良いこと尽くめ

宇宙は、良いこと尽くめです。それは、神の意識によって、すべてのモノが創造されているからです。神の意識は、光であり、エネルギーであり、大調和であり、大愛であり、絶対善であり、絶対正義ですから、そこには、一点の悪もないのです。すべて善しです。すべて良しです。すべて好です。その神意識によって、「魂も、心も、想念も」創られたのですから、本来私たちに、悪などないはずなのです。しかし、人間社会には、沢山の悪があります。それは、自分を肉体だと誤解した人間が、悪想念を使って悪を作っているから

です。

作った悪想念は、宇宙空間に漂い、いつか必ず、悪想念を放った人の所に帰ってきます。痛みや苦しみとして・・・黙って帰ったのでは、悪想念を放ったことに気付かないので、神は気付かせるために、痛みや苦しみを用意したのです。ですから、痛み苦しみは、良いことなのです。

「宇宙が良いこと尽くめなのは、どんな、苦しみも、痛みも、成長につながっているからです。痛み、苦しみは、成長剤のようなものなのです。」

神は、私たちを、成長へ 成長へ、進化へ 進化へ、と引っ張ってくれているのです。どうか、苦しみや痛みを、悪と受け取らないでください。成長に必要な善だと受け取ってください。そのように受け取ったら、悪は善に変わります。

「宇宙が良いこと尽くめなのは、悪は善ならしめるための悪だからです。」

## 二つの見方

モノの見方には、二つの見方があります。一つは、ネガティブな見方です。もう一つは、ポジティブな見

方です。ネガティブな見方は、「原因と結果の法則（客観的）」側から見た見方です。ポジティブな見方は、「計画（主観的）」側から見た見方です。どちら側から見ても同じ結果になりますが、ポジティブな見方をした方が得でしょう。なぜなら、自分の宇宙を汚さないですむからです。一般人は、ネガティブな見方をし業の上塗りをしていますますが、それは、悪を善と見なすことができないからです。

学んでいる皆さんは、ポジティブな見方をしましょう。この宇宙に、悪や不完全など無いのですから・・・あるのは、善のみ、完全のみです。このことを心の底で知れば、ポジティブな見方ができるようになります。そのためには、原子核を大きくしましょう。大きくすれば、自然とポジティブな見方ができるようになります。

原子核を大きくする方法は、社会体験と瞑想です。

### 理解力によって変わる世界観

人それぞれ世界観を持っています。でも、その世界観は、その人の理解力が生み出したその人独自の世界観です。この宇宙に、普遍的な世界観があるわけではないのです。なぜなら、人それぞれ理解力が違うから

です。

「Aさんの世界観は、Aさんの理解力が生み出したAさんだけの世界観です。」

「Bさんの世界観は、Bさんの理解力が生み出したBさんだけの世界観です。」

人それぞれ理解力が違うわけですから、共通の世界観などあるわけがないのです。同じ景色を見ていても、一階で見ている人と、五階で見ている人と、十階で見ている人の景色は、みな、違うのです。だから、自分の世界観を人に押し付けてはならないのです。その人には、満足できる世界観も、他の人には、満足できない世界観かも知れないからです。

このように、理解力によって世界観が変わってしまうのは、外側に共通の世界が無いからです。世界は、内側に・・その人の意識の中に・・理解力としてあるのです。しかも、その理解力は、刻々と進化成長しているのです。だから、昨日、満足していた世界観が、今日は、陳腐化してしまうのです。

私たちは、時々刻々、進化の階段を昇っているのです。ですから、一秒前の世界観と一秒後の世界観が違うのは当然のことなのです。

このように世界観は、理解力によって、刻々と変わって行くのです。

## 本当に有るものとは？

絶対の中に居ては、絶対は解らないのです。だから、神は、絶対宇宙を分け、相対宇宙を創られたのです。つまり、神を分け、人類を創られたのです。神だけでは、神が解らないのです。人類を相対させ、神を解ろうと言うわけです。

- 「相対世界と絶対世界」の違いを心の底で知り、本当に有る「中間世界」を知るので。
- 「二セモノとホンモノ」の違いを心の底で知り、本当に有る「モノ」を知るので。
- 「不完全と完全」の違いを心の底で知り、本当に有る「完全」を知るので。
- 「悪と善」の違いを心の底で知り、本当に有る「善と正義」を知るので。
- 「不調和と調和」の違いを心の底で知り、本当に有る「愛と調和」を知るので。
- 「物質と本質」の違いを心の底で知り、本当に有る「霊と意識」を知るので。
- 「有限と無限」の違いを心の底で知り、本当に有る「無限」を知るので。
- 「間と時」の違いを心の底で知り、本当に有る「時間」を知るので。
- 「人と神」との違いを心の底で知り、本当に有る「神人」を知るので。



本当に有るのは、「神人」です。「神人」とは、神と人間を心の底で知った「人」のことです。つまり、自覚の境界線を超えた「人」のことです。

## 真実は見えない！

「見えないモノは真実で、見える物は非真実です。」このことは、何度いっても、言い過ぎることはありません。では、ここで、復習してみましょう。

見える物を生み出しているのは、見えない真実です。見えない真実が、見える宇宙を生み出しているのです。真実がなくては、何もあり得ないのです。でも、見えない真実では、存在意味がないので、神は、見える相対宇宙を創造し、そこから見えない真実を認識しようと考えたのです。しかし人類は、見える物に惑わされ、見えない真実を見失ってしまいました。今、人類が苦しみに喘いでいるのは、真実を見失ったからです。

どんな美しいものを見ても、どんな素晴らしい音楽を聴いても、どんな美味しい食べ物を味わっても、どんな香ばしい匂いを嗅いでも、どんな気持ちの良い感触を味わっても、みな、幻です。そんな幻で、幸せに

なれるわけがないのです。幻からは、幻の幸せしか得られないのです。真の幸せは、五感を超越した真実の世界にあるのです。

巷の霊能者の口車に乗ってはなりません。どんな神秘的なモノを見せられても、どんな物質化現象を見せられても、どんな幽界の話が聞かされても、幻です。例え、あなた自身が、幽界人の話を聞き、幽界人を見たとしても、幻です。幻だから見え、幻だから聴こえ、幻だから感じるのです。それは、肉体そのものが見だからです。

見える物に興味を持っている間は、真実を発見することはできません。つまり、自覚の境界線を超えることはできません。どうか、「私は、何も見えません！ 何も聴こえません！ 何も感じません！」と、言う人になってください。

## 完全の意味

この宇宙に、完全しか存在しないという真理は、動かしようのない事実です。もし、不完全が存在するならば、神は、完全でなくなってしまうからです。と言うことは、完全な神によって創られた、「私も」、「あ

なたも」、「どんな物も」、完全であると言うことです。この宇宙は、「完全でなければ、存在できないのです。」完全イコール存在なのです。存在イコール完全なのです。完全だから存在していられるのです。

「でも、本当に完全しかないなら、どうして、地球上に不完全なモノがあるのでしょうか？」と、あなたは、言うかもしれません。いいえ、どんなに不完全に見えても、それは、完全なのです。あなたが思っている不完全は、完全たらしめるための不完全ですから、それは、完全なのです。

では、なぜ、完全しか無いのでしょうか？ ・ ・ ・それは、神の想いの中に、不完全は無いからです。

「どんなに不完全に見えても、不完全を辿ってゆくと、みな、完全につながっているのです。」  
だから、今、不完全に見えている人間も完全なのです。

完全に向かう途中の姿を見て、不完全と言わないでください。どんな絵も、描いている途中は不完全なのです。でも、完成した暁には、素晴らしい絵になるのです。いずれ人間界の絵も、完全な絵になる時が来るのです。

## 実在と非実在の違いを知る

実在とは、実際に有るという意味です。真実という意味です。永遠に無くならないという意味です。非実在とは、実際に無いという意味です。幻という意味です。消えて無くなるという意味です。ですから、消えて無くなる、「地球」は、「人類」は、「万象万物」は、幻です。

人間が、悩んだり、心配したり、恐怖したりしているのは、五感のトリックに引っかかり、幻を本当だと思っているからです。五感で感じる、痛み、苦しみは、進化成長に必要な薬のようなものです。痛い苦しみがなくては、真剣に生きようと思わないからです。真剣に生きなければ、成長できないのです。だから神は、私たちに五感を持たせたのです。でも、この痛み苦しみは、あくまでもトリックに引っかかっている状態で、真実ではないのです。一般人は、トリックに引っかかっても仕方ありませんが、学びの友の皆さんは、そろそろ、トリックを見破らねばなりません。見破るためには、見える物と見えないモノの識別をしっかりとすることです。

「つまり、何がホンモノで、何がニセモノか、ハッキリと見定めることです。そして、見える物はニセモノで、見えないモノがホンモノであることを、心の底に落とすことです。」

心の半分くらいまで落とせたら、もう、見える物のために、命を削る生き方はしなくなるでしょう。

## 原因と結果の法則

この宇宙には、秩序を束ねる法則が幾つかあります。その一つに「原因と結果の法則」があります。良い原因を作れば、良い結果が、悪い原因を作れば、悪い結果がやってきます。

つまり・

- 人を殺せば、自分も殺されます。人を傷付ければ、自分も傷付けられます。
- 人を憎めば、自分も憎まれます。人を恨めば、自分も恨まれます。
- 人を愛すれば、自分も愛されます。人に親切にすれば、自分も親切にされます。

この「原因と結果の法則」は、完璧な科学的法則ですから、絶対、狂うことはありません。山に向かって「オーイ！」と叫んでみてください。 「バカヤロー！」とは返ってきません。「オーイ！」と叫んだら、寸分も狂わず「オーイ！」と返ってきます。壁を拳で叩いてみてください。壁から叩き返されます。こんな分り切った法則を、人はどうして守ろうとしないのでしょうか？

私は、何もしていないのに、こんな痛い目にあつたと、世間の人は言いますが、原因を作ったから、痛い目にあつたのです。何もしないで、痛い目にあうことは、絶対ありません。もしあつたら、この宇宙は、一瞬にして消えてしまいます。目に見えないから信じられないのですが、「因果の法則」は、間違いなく働いているのです。どうか、「原因と結果の法則」を信じ、守ってください。

「原因と結果の法則」は、完璧です。どんなに逃げようとしても、逃げおうせるものではありません。ですから、賢い人は、法則に逆らうような生き方はしません。どうか、「原因と結果の法則」を守って生きてください。

## エネルギー均衡の法則

法則の一つに、「エネルギー均衡の法則」があります。この宇宙は、エネルギー均衡の法則によって、秩序立てられているのです。エネルギーは、出した分、入るようになっていくのです。例えば、10 出したら10 返り、100 出したら100 返るのです。エネルギーを先取りしないでください。先取りすれば、いつか、必ず、返さなければならなくなります。痛みとして・苦しみとして・悲しみとして・。。。。ですから、ギ

ヤンブルで儲けようとか、宝くじに当たろうとか、欲を持つてはなりません。

エネルギーが欲しいなら、先に出しましょう。それも、良いエネルギーを出しましょう。そうすれば、出した分、良いエネルギーが返ってきます。それが正しいエネルギーの使い方であり、正しいエネルギーのもらい方です。

「与えよさらば与えられん！」は、間違いのない真理です。与えれば、与えられるのです。奪えば、奪われるのです。愛すれば、愛されるのです。憎めば、憎まれるのです。これは、エネルギー均衡の法則が働いている宇宙においては、常識中の常識です。

「楽あれば苦あり、苦あれば楽あり！」です。横に振れた針は、必ず、中心に戻るので、欲張って得ても、いつか必ず、返さなければならなくなるのが、「エネルギー均衡の法則」です。エネルギーは、必ず、均衡が保つようできているからです。

## 中庸の法則

宇宙の法則の中に「中庸の法則」がありますが、この法則の目的は、偏りを是正することにあります。

お金や物を、多く集めれば、危険を招くのは、お金も、物も、エネルギーの塊だからです。財産家に波風が立つのも、中東で争い事が起きるのも、エネルギーの偏りから生じているのです。エネルギーは、集まれば集まるほど、危険物になるのです。

この宇宙が、今まで無事存続してこられたのは、エネルギーが、均衡に保もたれて来たからです。もし、偏っていたなら、とつくに宇宙は、無くなっていたでしょう。人類は、宇宙を見習わねばなりません。このままエネルギーを偏らせていたら、痛みや苦しみは、ますます激しくなります。今でも、相当、激しい痛みや苦しみが来ているのです。どうか、気づいてください。

肉体を維持するのに、沢山のお金や物は必要ないのです。どんなに、お金を儲けても、物を集めても、死ねば、みな、置いて帰らねばならないのですから・・・。

釈迦が説いた中道の意味を、よく噛み締め、偏りのない生活をしたいものです。それには、真理を知ることです。真理を知れば、中庸の大切さが分かります。



## 中庸の大切さ！

偏りは、苦しみを生み出します。それも、偏れば偏るほど、苦しみも多くなります。「何事も、そこそくに・・・。」これが、神が望んでいる中庸です。

- 甘やかし過ぎてても、良くありません。厳し過ぎてても、良くありません。
- 食べ過ぎてても、良くありません。食べな過ぎてても、良くありません。
- 運動し過ぎてても、良くありません。運動しなくても、良くありません。
- 眠り過ぎてても、良くありません。眠らなくても、良くありません。
- 持ち過ぎてても、良くありません。持たな過ぎてても、良くありません。

中庸に生きてください。ただし、この中庸は、「原子核の量における中庸ですから、人それぞれ違います。」ですから、人の中庸を、自分の測りにしないでください。人には、人の中庸があり、あなたには、あなたの中庸があるのですから・・・。

幼い魂の中庸は、自分の肉体的苦しみを通して、中庸の大切さを学びます。

中熟した魂は、自分の肉体的苦しみと、家族の苦しみを通して、中庸の大切さを学びます。

魂が熟してくると、自分の肉体的苦しみは、減りますが、精神的苦しみが、多くなります。

神は、魂の熟成度に比例した、中庸の学び方をさせてくれているのです。

今、自分は、魂の熟成度に応じた中庸を守って生きているか見極めてください。

## 誰の責任か？

人間社会には、沢山の苦しみや悲しみがありますが、なぜあるのか、誰も深く考えようとしません。それは、自分で招いた、苦しみや悲しみだと思っていないからです。苦しみが、誰からか、何からか、与えられることはないのです。なぜなら、自分が原因者だからです。自分が受けた苦しみは、自分が原因を作ったのです。原因と結果は一つなのです。苦しい結果を味わったと言うことは、その前に、自分が苦しい原因を作っていたからです。結果だけがやってくることは無いのです。

苦しんでいる状態は結果です。この結果は、原因なしにやってきたのでしょうか？ あなたが苦しんでいると言うことは、あなたが苦しみを作った当事者（原因者）だからです。すべて、自分が与えた苦しみです。自分が与えた苦しみなら、自分で取り除くしかありません。では、どうしたら取り除けるのでしょうか？

「それは、良い想いを持ち、良い言葉を使い、善い行いをする事です。」  
つまり、「身・口・意」を正しく使うことです。

今、苦しんでいる人は、誰の苦しみか？ 誰が作った苦しみか？ 誰の責任か？ よく考えてみてくだ  
さい。

## 偶然と必然

なぜ、私たちは、無常の世で泣笑して生きなければならぬのでしょうか？ 皆さんには、愚問かもしれ  
ませんが、確信を深めるために再度考えてみましょう。

殆の人は、偶然に生まれ、偶然に事故に遭い、偶然に病気になり、偶然に死ぬとっています。もしそう  
なら、どうして、倫理や道徳を守る必要があるのでしょうか？ どうして、哲学や宗教を学ぶ必要があるでし  
ょうか？ どうして、努力する必要があるのでしょうか？ 良いことをしても偶然、悪いことをしても偶然、  
努力しても偶然、怠けても偶然なら、いい加減な生き方をしたら良いではありませんか？

偶然とは、「無秩序」と言う意味です。必然とは、「秩序がある」と言う意味です。無秩序とは、「無法

則！」と言う意味です。秩序があるとは、「法則がある！」と言う意味です。法則があるから、宇宙は、今日まで、無事存続してこられたのです。もし法則がなければ、とうに宇宙は、消滅していたでしょう。今、私たちが笑っていられるのは、法則に生かされているからです。もし、無法則に生かされているなら、一時も笑ってられないでしょう。

私たちが、この世で泣き笑いして生きているのは、必然の中で生かされていることを知るためです。つまり、法則を守れば喜び多い人生が、法則を犯せば苦しみ多い人生が、やって来ることを知るためです。

## 二重の裁き!?

世の人々は、生命保険や火災保険などに入ります。また、災害から身を守るために、色々な防御対策をします。なぜ、そのようなことをするのかと言いますと、偶然を信じているからです。一寸先闇が人生ですから、少しでも安心したくて防御対策をするのです。でも、よく考えてみてください。生命保険や火災保険に入ったからと言って、命や家が保証されるわけではないのです。また、防潮堤を高くしたからと言って、地震が起きなくなるわけではないのです。保険で命も家も保証されるなら、どうぞ、保険に入ってください。

防潮堤を高くして地震が起きなくなるなら、どうぞ、防潮堤を高くしてください。でも、そんなことはあり得ないので。事故災難から逃れられると思って防御対策をするのでしょうか、それは、確率論を信じているからです。偶然を認めている人が確率論を信ずるなど、矛盾と言うものです。どちらにしても、何事も偶然に起きるなら、どんな防御をしても無駄です。ただの気休めです。たとえ、身を守るために頑丈な金庫に身を潜めていても、心配でそんな事をするわけですから、内側の病気によって命を縮めるでしょう。外側からも、内側からも、守れないと言うことです。

私たちが住んでいる、この世界は、必然の世界なのです。必然の世界と言うことは、秩序のある（法則のある）世界だと言うことです。

「秩序のある（法則のある）世界ですから、法則を守って生きたら、何一つ防御する必要は無いのです。なぜなら、法則が守ってくれるからです。」

もう、防潮堤を作る必要も、建物を補強する必要も、軍隊を作る必要も、保険に入る必要もありません。法則を守らないから、事故災難に遭い、病気にもなるのです。それは、誰のせいでもありません。すべて自己責任です。

法則を守って生きれば、法則が守り、法則が裁いてくれるのです。今、人類が痛い目に遭っている、事故、

災難、病気は、法則による裁きなのです。今、人間は、二重の裁きを受け、二重の罰を受けているのです。一つは、原因と結果の法則による裁きです。もう一つは、人為法（法律）による裁きです。このような二重の裁きを受けているのは、地球のような若い星だけです。「法則に生きれば、法則が守ってくれる！」地球人類は、このことを一日も早く知るべきです。

## 必然の仕組み

あなたの今日までの人生は、すべて必然によって運ばれてきたのです。あなたは、今日まで、一度だって必然の道から外れたことはなかったのです。つまり、「必然によって、生まれ！」「必然によって、生かされ！」「必然によって、体験させられ！」「必然によって、成長させられ！」てきたのです。そして、いずれ、「必然によって、老い！」「必然によって、病になり！」「必然によって、死ぬ！」のです。

必然とは、「成るべきにして成る！ 当たり前にして成る！」と言う意味で、すべて進化成長に結びついている喜ぶべき必然です。それは・・・必然は、進化の本源から生まれた道理だからです。ですから、あなたが今日まで良かれと思って想ったことも、言ったことも、やったことも、みな、必然で良かったのです。

なぜなら、あなたの原子核の量において、良かれと思ったことを思い、良かれと思ったことを言い、良かれと思つたことを行つたからです。

あなたの人生が、誰かに作られたことがありましたか？ 自分の思い通りの人生を作ってきたのではありませんか？ だから、どんなに悲惨な人生も、みな自己責任です。決して、人を憎んだり、恨んだりしてはなりません。

どんなに、人に諭されても、自分の思い通りにしか生きられないのが人間なのです。なぜなら、原子核の量を急に増やすことができないからです。

「今の思いを高度な想いにするには、原子核を増やすしかありません。原子核が増えれば、増えた分、思いの内容が高度になります。思いの内容が高度になれば、想いも、言葉も、行為も、高度になり、人生は好転するのです。」

良い人生にしたいなら、原子核を増やし、思いの内容を高度にすることです。それは、二つのことをすれば良いのです。つまり、社会体験と瞑想をすれば良いのです。

## 進化成長のための必然

世の人々は、どうして、不安な毎日を過ごしているのでしょうか？ それは、偶然を信じているからではありませんか？ 偶然を信じていては、心穏やかに生きられるわけがありません。いつ、雷に打たれるか？ いつ、頭に看板が落ちてくるか？ 心配しながら生きねばならないからです。

人生に偶然はありません。すべて、必然によって運ばれている人生です。必然によって運ばれているがゆえに、私たちは、安心して生きられるのです。安心して生きられないのは、偶然を信じているからです。でも、どんなに偶然を信じていても、私たちは間違いなく、必然によって、進化成長へと運ばれているのです。なぜなら、「時間」の中に生かされているからです。「時」は、「神の意識」なのです。「間」は、「空間・肉体・物質」なのです。神の意識は、進化へ、成長へ、良い方向へ、真善美へ、と引っ張ってくれているのですから、その神意識を持っている私たちが、進化成長せざるを得ないのは当然なのです。

この宇宙に、必然しかないのは、神そのものが必然から生まれた存在だからです。その必然から生まれた神が、意識（時）と空間（肉体・物質）を生み出したのですから、その中で生かされている私たちが進化成長するのは、当たり前なのです。



何一つ、思い悩むことはありません。自分の思い通りに生きたら良いのです。それが、必然から生まれた者の生き方です。ただし、次の二つのことだけは、やってください。

「一つは、真心を込めて社会体験すること、

もう一つは、真心を込めて瞑想することです。」

この二つのことをやっていたら、進化の階段を踏み外すことはないでしょう。

### 無駄な人生など無い！

ある人は、こう言います。「こんな苦しい人生に、一体、何の意味があるのだろうか？」と・・・とんでもありません。意味のない人生など無いのです。もし、あなたの人生に何の意味もなかったら、こんな悲惨なことはありません。どんな苦しい人生も、悲しい人生も、みな、成長の糧になっています。なぜなら、この宇宙で起きていることは、すべて進化成長に結びついている必然だからです。と言うことは、どんな苦しい人生も、良いことだと言うことです。全能の神が、どうして我が子に無駄なことをさせるでしょうか？ 「無駄な人生など無い！」と、堂々と言えるのは、どんな事も、すべて進化成長に結びついているか

らです。

神は我が子を一日も早く、目覚めさせたいのです。目覚めさせるためには、どうしても、痛み、苦しみが必要なのです。ですから、痛み、苦しみは、神の愛だと思ってください。どうか、神の苦衷を察してやってください。

## 第9節 神

神の別名は、「不明」です。解らないのが神なのです。神は、無限ですから、解りようが無いのです。私たちは、永遠に解らない神を追い求めてゆくのです。

### 神を知る方法？

神を知ることができないのは、感覚にかからない存在だからです。感覚にかからない存在は、外側には知る術がないのです。では、神は永遠に知れないのでしょうか？ いいえ、外側には知るすが無いけれど、

内側には知るすべが有るのです。しかし、それも、完全に知ることはできないのです。うっすらと、知ることができるのです。

神は、「自」らを「分」け、表現宇宙を創造しました。表現宇宙に存在する、鉱物・植物・動物・人類は、みな、神の分身なのです。神の分身ですから、分身を探れば、神の一部分を知ることができるのです。しかし、そのためには、思索できる能力を身につけなくてはなりません。その能力は、原子核を増やし、理解力を高めれば、自然と身につくのです。

宇宙は、神秘のベールで覆われています。でも、そのベールは、理解力を高めれば高めた分、剥がすことができますのです。

一つ理解力を高めれば、一つ神秘のベールが剥がされます。

二つ理解力を高めれば、二つ神秘のベールが剥がされます。

このように、宇宙は、理解力を高めることによって、神秘のベールが剥がされるようになっていくのです。だから、「理解力を高めることは」、とても大切なことなのです。

神を知りたかったら・宇宙を知りたかったら・瞑想して原子核を大きくし、理解力を高めてください。

## 神につながるには？

神につながるためには、神に意識を向けなくてはなりません。それも、純粹な動機で……。神は無欲なお方ですから、欲を持ちながら、神に意識を向けてもつながらないのです。神につながりたかったら、子供のような純真な心で、神に意識を向けてください。

神には、色々な側面があります。

例えば、

- 「光」も、神の一側面です。
- 「生命」も、神の一側面です。
- 「愛」も、神の一側面です。
- 「無限」も、神の一側面です。
- 「永遠」も、神の一側面です。
- 「本質」も、神の一側面です。
- 「1」も、神の一側面です。

○ 「丸」も、神の一側面です。

神と神の側面は同じですから、神の側面を意識しても、神と繋がります。

物質（物質・お金・地位・名誉・権力）は、波動が低いため、物質に意識を向けていては、絶対、神とつながりません。どうか、波動の高い、神の側面を意識を向けてください。それも、幼子のような純な気持ちで、神の側面に意識を向けてください。そうすれば、間違いなく、神につながることができます。

### 神は原因無き原因者である

「神と人間の物語」の曲の中に、「初め無き始め、この宇宙には、唯一の神が存在していました」という下りがあります。この「初め無き始め」という言葉は、神の永遠性と無限性を示しているとても重要な言葉なのです。初めが無いと言うことは、終わりが無いと言うことです。初めが有ると言うことは、終わりが有ると言うことです。

「初め無きものは、永遠であり、無限であり、完全であり、初め有るものは、無常であり、有限であり、不完全なのです。」

結果が有ると言うことは、結果を生み出した原因が、必ず、有るのです。

神が存在しているのは、結果ですから、その神を生み出した原因が、必ず、有るのです。

では、神を生み出した原因は、何でしょうか・・・？

今、神が存在していると言うことは、その神を生んだ、何かの前になくはなりません。

そして、その神を生んだ神も、その前になくはなりません。

そして、その神を生んだ神も、その前に・・・と言うことは、この話は、堂々巡りになります。堂々巡りと言うことは、果てがないと言うことです。果てがないと言うことは、無限であると言うことです。無限には、初めが無いし、終わりが無いのですから、神を生んだ原因を探すことは、永遠にできないのです。

神には、原因が無いのです。それは、無限だからです。永遠だからです。完全だからです。だから、神のことを「原因無き原因者」と言うのです。原因無きものは、永遠に知ることができないのですから、「神」を知ろうと思っても、無駄なのです。でも、それで良いのです。永遠に知ることができない神ゆえに、求めがいがあるのですから・・・もし、神が知れるなら、私はそんな有限な神は、知りたくありません。永遠に知ることができない神だから、夢と希望を持って求道の旅を続けることができます。この幸せに感謝しましょう。

## 神の側面とは？

---

前述したように、神を知ることには出来ません。でも、神の側面なら知ることができるのです。では、神の側面を知りましょう！

- 意識です。
- 意思です。
- 理念です。
- 命です。
- 光です。
- エネルギー（力）です。
- 愛です。
- 無限です。
- 永遠です。
- 本質です。

○ 人類です。

有りて有るもの、全てのすべてです。

このように神の側面は、色々とあるのです。中でも意識は、神の代表的な側面です。神は意識で、意識は神なのです。その意識は、絶対無くならないのです。だから、神も、絶対無くならないのです。その神なる意識で、宇宙が創られたのですから、宇宙は、神の意識そのものと言えるわけです。その神の意識は、無限の可能性と、無限の発展性と、無限の創造性を持っています。神の意識は、無限の能力を秘めているのです。したがって、神の意識の中には、何でも有るのです。しかし、何も無いのです。なぜなら、神は、何も表現されない意識だけの存在だからです。宇宙には、この神意識だけが有るのです。この神意識だけある宇宙を、絶対宇宙と呼んでいるのです。絶対宇宙ですから、時空がありません。時空がないから、何も表現されないのです。何も表現されなくては、神の存在がありませんから、神は、自らの意識核を放射して、時空を生み出し、表現宇宙を創ったのです。

言葉の整理をしておきましょう。神の意識核を「原子核」と言っております。また、この意識核の集まったモノを、「生命核」とも「魂」とも言っております。「魂」とは、神の意識核の「塊」のことなのです。



## 人が神である証

どうして、人は神なのでしょう？ 皆さん、よく考えて見てください。どうして、自分がいるのですか？ どうして、相手がいるのですか？ 自分がいるからではありませんか？ 勿論、自分がいなかったら、自分もいないし、相手もないのは、当然です。相手を認める自分がいなかったら、何も始まらないのですよ！ 一体、自分なしに何があると言うのですか？ 一体、自分なしに何が始まると言うのですか？ 自分抜きでは、何も始まらないのです。と言うことは、自分がすべてのモノを創っていることになりませんか？ つまり、自分が自分を創り、相手も創っていると言うことです。「いや、自分がいなくても相手はいますよ！」と、あなたは、反論するかも知れません。でも、自分がいなかったら、相手がいるかいないかどうして分かるのですか？ 自分がいなくなった瞬間、相手がいなくなっているかも知れないのですよ！

このように、自分抜きでは何もあり得ないのです。親も、子も、友だちも、地球も、宇宙も、全部、自分が創っているのです。と言うことは、自分は、創造主ではありませんか？ 神ではありませんか？

お釈迦様が言われた「天上天下唯我独存(尊)」とは、宇宙(天上天下)には、自分しか存在しない！ 自分だけが独存(尊)している！ と言う意味なのです。

宇宙の存在を証明できるのは、自分しかないのです。自分抜きでは、何も証明できないのです。だから、自分が存在していた時には、神（宇宙）が存在していたし、神（宇宙）が存在していた時には、自分が存在していたのです。自分は、神（宇宙）の存在を認めてやれる唯一の存在者なのです。と言うことは、「自分は神である」と言う証拠です。だから、「自分」と言う字は、「神が（自）らを（分）けた」と書くのです。勝手に相手がいると思っってはなりません。相手は、自分が創った相手なのです。自分が連れてきた相手なのです。それは、自分が意識だからです。自分の意識が、すべてのモノを創造し、すべてのモノを存在させ、すべてのモノを消滅させているのです。何事も、「自分の意識有って」のモノ種であることを知ってください。※下の数式は、この宇宙に「私」しかない事を証明している数式です。これは、頭で解ることではありません。原子核を増やし理解力を高めて解ることです。

$$\text{無限時間} \times \frac{1(\text{私})}{\text{無限時間}} = 1(\text{私})$$

## 誰もが神の火種を持っている

人が神を求めるのは、潜在意識の中に神の火種を持っているからです。ガチガチの唯物論者が、死ぬ間際に、神頼みするようになるのは、彼らにも、神の火種があるからです。「神の火種とは、意識のこと」です。どんな人も、神を否定しきれないのは、みな、意識を持っているからです。

あなたは、自分の意識を捨てられますか？ どんなに捨てようと思っても、捨てられないはずですよ。それは、「あなたの意識が、神の意識」だからです。もし捨てられるなら、誰よりも一番に私が捨てたいですよ。しかし、どんなに捨てたいと思っても、意識だけは捨てられないのです。なぜなら、捨てた途端、宇宙が消えてしまうからです。今まで宇宙が有ったのは、自分の意識が宇宙を認めていたからです。今、宇宙が有るのは、自分の意識が認めているからです。その認めている自分の意識が無くなったら、認められている宇宙が無くなるのは、当然ではありませんか？

宇宙は、永遠に無くならないのです。と言うことは、あなたの意識も、永遠になくならないと言うことです。あなたが神である証拠は、永遠に無くならない意識を持っているからです。だから、私は言うのです。永遠に無くならない意識を持っているあなたは、紛れもない神であると……。これは、誰が何を言おうと、

絶対崩せない真理なのです。

## 生人とは？

「私は神を求めてきましたが、まだ一度も、神が現れたことがありません！」と言う人がいますが、それは、生半可で神を求めてきたからです。気まぐれで神を求め、どうして、神が現れてくれるでしょうか？ 神は、常に、あなたのハートを叩いていたのですよ。でもあなたは、困った時にしか、神を意識しなかった。そんな気まぐれで、どうして神が現れてくれるでしょうか？ 神に逢いたかったら、四六時中、「神を呼ぶこと」、「神を意識すること」、「神を瞑想すること」です。

世の人々は、毎日、何に時間を使っているのでしょうか？ 日々の生活のことや、過ぎ去った過去のことや、まだ来ぬ未来のことに時間を使っているではありませんか？ そんな使い方をして、本当に生きていると言えるでしょうか？ この世の事は、みな、幻なのですよ！ 幻に生きて、一体、何になるのですか？

日々神を求めている人は、日々布石を打っているのです。これは、大きな前進です。この世の事に生きている人は、少ししか前進していません。どうか、時間あるごとに、神を求めてください。神を求めると

は、「神を呼ぶこと」、「神を意識すること」、「神を瞑想すること」です。その人は、本当に生きている「生人」です。

## 本当の故郷とは？

「出てきたところが分からなくては、帰るところが分からないだろう！」と、知花先生がおっしゃるのは、自分の出てきたところが分からなくては、帰るところが分からないからです。

私たちの故郷は、幽界などではありません。神界です。私たちは、幽界と現象界を輪廻する内に、自分が何処から出てきたのか忘れてしまったのです。今の地球人類は、幽界が故郷だと思っていますのです。幽界は、第二の故郷です。「私たちの本当の故郷は、神界です！」 さあ、本当の故郷を思い出しましょう。

神界は、現象界や幽界にあるわけではありません。あなたの意識の中にあるのです。自分が神であるとの心底で自覚したら、意識の中に神界が開けるのです。自覚するためには、原子核を増やして理解力を高めなくてはなりません。それは、社会体験と瞑想によつてできるのです。さあ、社会体験と瞑想をして、原子核を増やし理解力を高めましょう！ 理解力だけが、出てきた故郷に連れ帰ってくれるのですから……。

## 神はすべての素材！

この宇宙には、たった一つの素材があるだけです。たった一つの素材とは、神のことです。素材そのものが、意思を持ち、理念を持ち、力を持ち、創造物になっているのです。言い方を変えれば、素材は建主であり、設計者であり、建築者であり、材料であり、建築物、そのものなのです。神がモノを創造する場合、神がそのモノになるしかないと言われるのは、神しかおられないからです。神の他に何かがあるなら、他の何かに、そのモノになってもらうことができるかも知れませんが、神しかおられないのですから、神がそのモノになるしかないので。

つまり、

「素材自らが発意し、素材自らが設計し、素材自らが材料となり、素材自らが建築し、素材自らが建物になるのです。」

一つの素材しか無いとは、そう言う意味なのです。

素材が、どんなに姿を変えても、素材は、素材のままです。神が、どんなに姿を変えても、神は、神のままです。と言うことは、人類は、神、そのものではありませんか？ この事実は、いかなる者も崩すことが

できないのです。 さあ！「私は、神である！」と、堂々と宣言してください。

### 近づいてこそ知る神の凄さ！

世の中には、少しも、近づいていないのに、神の悪口を言う人がおりますが、これは、余りにも軽薄すぎます。近づいていないのに、どうして、神の偉大さが分かるのでしょうか？ それは、遠くから、チラッと絵を見て、「何だ！ 大した絵じゃない！」と、言っているようなものです。批判もするなら、近づいて良く見てからすべきです。神の偉大さは、神に近づいてみなくては、分からないのです。

神は、偉大なお方です。何一つ欠陥が見つかりません。どこを掴んでみても、どこを叩いてみても、一つの欠点も、一つの狂いも、一つの齟齬も、見つからないのです。それは・それは・見事と言うほかありません。そんな神を、人間の理解力で量ることなどできないのです。

このように言うのは、それだけ・

「神の深遠さと、神の法則の完全さと、神の計らいの凄さを知ったからです。」

それは、もう、ただ、ただ、首を垂れるしかないので。神の深みを知れば、あなたも、同じことを言う

でしょう。

多くの人が神を否定するのは、神を遠くから見ているからです。どうか、神に近づいてください。そして、神を、知って、知って、知り尽くしてください。近づいたら、感嘆の声は上げて、決して、文句は言わないはずですよ。

## 神とキャッチボールしよう！

私が、いつも、「神に意識を向けなさい！ 神と親しくしなさい！」と言うのは、神に意識を向けている時は、神にエネルギーを送っていることになるからです。神にエネルギーを送れば、エネルギー均衡の法則によつて、神から良いエネルギーのお返しがあるのです。これは、「ありがとう！」と叫べば、「ありがとう！」が、「馬鹿野郎！」と叫べば、「馬鹿野郎！」が返ってくる、山彦の原理と同じなのです。

山彦の原理は・・・

「良い原因を作れば、良い結果が、悪い原因を作れば、悪い結果が返ってくることを教えているのです。」  
では、なぜ、神に意識を向ければ、良いエネルギーのお返しがあるのでしょうか？ それは、神の想いは、



良いエネルギーだからです。私たちが神を意識している時には、良いエネルギーを出しているのです。良いエネルギーを出せば、良いエネルギーが返ってくるのは、エネルギー均衡の法則からして当然のことなのです。

エネルギーは、常に均衡を保とうと身構えているのです。その働きを利用しない手はありません。さあ、神に向かって良いボール（良い想い・良いエネルギー）を投げましょう。必ず、神から良いボール（良い想い・良いエネルギー）が投げ返されるでしょう。

## 神の奥深さを知る！

私たちが、転生輪廻を繰り返すのは、相対的体験を通して「神人」になるためです。つまり、陰を知って陽を知り、中性である神人を自覚するためです。一箇所に留まっていたは、真ん中を知ることができないのです。左（陰・女・物・人類）を体験して、右（陽・男・意識・神）を知り、真ん中（中庸・中性・神人）を知るのです。すべて体験です。体験のみが、真ん中を知らしめてくれるのです。ですから、私たちは、この相対宇宙に出てきて色々なことを体験し、真ん中を知ろうとしているのです。

「真ん中」と言う言葉が出てきましたが、「真ん中とは、神人のこと」です。その神人は、本源の神のミニチュアのような存在です。ですから、能力は、本源の神には及ばないのです。でも、進化し、本源の神に近づいてゆく存在なのです。

本源の神は、何の性質もありません。何の表現もありません。何の凹凸も無いのです。（平坦な波動です。）しかし、何も無いから、何でも有るのです。波が無いから、波が有るのです。「何も無いのは、何もかも有る」からです。神は、総合されたモノなのです。総合されたモノは、表現が無くなるのです。七色が集まれば、白光色になるように、総合されたモノは、無色になるのです。これが、「神の奥深さ」なのです。

神人は、まだ、個性を持った存在です。でもその神人も、進化を遂げて、無波動の本源の神に近づいて行くのです。でも、どんなに近づいても、本源の神には戻れません。一旦、本源の神から出てきた神の分身は、永遠に本源の神には戻れないのです。これが、この宇宙の摩訶不思議なところなのです。

宇宙には、知るべきことが無限に存在するのです。知るべきことが無限に存在すると言うことは、宇宙を知ること、永遠にできないと言うことです。宇宙は、神ですから、神は、永遠に知ることができないと言うことです。でも一部分は、知ることができるので、何かつまらないような気がしますが、一部分を知れば、知った分のご褒美が頂けるのですから、それで良いのです。

神の素晴らしさは、天井がないからです。果がないからです。解りようがないからです。どうか、解りようのない、神の一部分を知ってください。知った分、あなたは、神人に近づいてゆけるでしょう。

## 人は神の代弁代行役

神は、姿形がありませんので、何かしようと思っても表現することができません。そこで、神は、自分の想いを具現化する分身（人類）を創造し、地上に遣わしたのです。

「脳」は、神の想いの中継所です。「喉仏」は、神の想いを言葉にする表現器官です。「手」は、神の想いを行為に現す表現道具です。だから、人の想いは、「神の想い」であり、人の言葉は、「神の言葉」であり、人の手は、「神の手」なのです。人が想っているのでも、人が話しているのでも、人がやっているのでもありません。神が想い、神が語り、神がやっているのです。でも、人間は、自分を神だと思っていないのです。だから、波動の低い想いを持ち、波動の低い言葉を語り、波動の低い行いをしているのです。でも、人間の本性は神ですから、間違いない、神が想い、神が話し、神が行っているのです。

「神が想い！ 神が語り！ 神がやっている！」と意識して、想い、話し、やれば、素晴らしい波動の想い

となり、素晴らしい波動の言葉となり、素晴らしい波動の行為となります。良い家庭を作りたかったら、良い仕事をしたかったら、良い人生にしたかったら、「神が想い!」、「神が語り!」、「神がやっている!」  
と思いき生きてください。

## 「自分」の語源?

この宇宙には、たった一様の神しかおられません。そのたった一様の神には、二つの悩みがありました。  
一つの悩みは・・・

神は、無限の発展性と、無限の可能性と、無限の創造性を秘めた偉大な能力を持っておりますが、その神には姿形がありませんので、そのままでは存在していないのと同じなのです。

もう一つの悩みは・・・

今、神が存在していることは、神が認めています。でも、神が神を認めても、存在していることにならないのです。何かに、誰かに、認知されて、はじめて神が存在できるのです。

神は、二つの悩みを解決する方法を考えました。神は、ヒラメキました。自分の分身を創り、その分身に、

神の存在を認めてもらえば、二つの悩みは解決できると……。これが宇宙の創成の始まりです。

神は、神の意識核を無数に分けて放射しました。つまり、神が、「自」らを「分」けたのです。これが、神の分身である人類が、「自分」になった瞬間です。その意識核には、「私」という記憶はあっても、「自分が誰なのか？」という記憶が無いのです。どうして、記憶を奪ったかと言いますと、神の記憶を持った分身が、神を認知しても、認知したことにはならないからです。

さて、記憶を失った意識核は、自分を知りたくて集まってきました。これが、親和力による意識核の濃縮作業です。集まってきた意識核は、まず、塵となり、鉱物となり、星となります。その星の上に、植物が誕生し、動物が誕生し、人類が誕生します。鉱物・植物・動物は、自我がないので、認知者になれませんが、人間は、自我を持っているので、認知者になれます。神は、自分を認知してくれる人類が誕生したことに満足しました。

神が、「自ら」を「分けた」語源の意味が示すように、神は、自分を客観的に認めて欲しくて、人類を創ったわけですから、認知できる、私たちは、間違いなく、神の分身なのです。だから人類は、本能的に自分のことを「自分」と呼ぶのです。しかし、今の地球人類は、その「自分」を、人間と誤解しているのです。それは、神の自覚がないからです。

私たちは、神が、「自」らを「分」けて生まれた分身ですから、どんな形の中に入っても、「自分」は変わらないのです。今、あなたは、Aという名の人間の中に入っていますが、以前には、Bという名の人間の中に入っていた時代があったのです。衣装を変え、カツラを変え、名前を変え、役割を変えても、その形に入っている自分は、何も変わっていないのです。つまり、原子核が増えた分、乗り物が大きくなり、能力が増し、役割が大きくなっただけで、自分は、永遠に変わらないのです。私たちは、いずれ、星になり、大宇宙になるのです。でも、どんなに大きくなっても、自分は、変わらないのです。

このように、自分とは、神が、「自」らを「分」けたのです。ですから、私たちは、間違いなく、神なのです。

## なぜ自分は神なのか？ パート1

あなたは、自分を知っていますか？ 誰も自分のことを知っているつもりですが、自分を知っている者はこの地球上に一人もいないのです。なぜなら、本当の自分は目に見えない存在だからです。では、どうすれば自分を知ることができるのでしょうか？ それには、神と自分との共通点を探すことです。では、探して

みましよう。

神は・・

- 見えも触れもしない存在です。
- 意識を持っている存在です。
- 想念を持っている存在です。
- 創造能力を持っている存在です。
- 無限なる存在です。
- 永遠なる存在です。
- 完全なる存在です。
- 光でありエネルギーなる存在です。
- 自由なる存在です。
- 愛なる存在です。

神の欲しているものは、永遠に尽きない永遠に色褪せない幸せです。

本当の自分は・・

- 見ても触れもしない存在です。
- 意識を持っている存在です。
- 想念を持っている存在です。
- 創造力を持っている存在です。
- 無限なる存在です。
- 永遠なる存在です。
- 光でありエネルギーなる存在です。
- 完全なる存在です。
- 自由なる存在です。
- 愛なる存在です。

本当の自分が欲っているものは、永遠に尽きない永遠に色褪せない幸せです。



どうでしょう！ 同じ共通点を持っているのですから、神でないはずがありません。ただ、未成熟な神の子であると言う点が違うだけです。

## なぜ自分は神なのか？ パート2

なぜ自分は神なのか？ 更に確信を深めましょう！

「神は偉大なお方であり、かつありふれたお方である！」と言われるのは、神はあらゆるモノの中におられ、下僕となって働いているからです。

神は無限なのです。永遠なのです。完全なのです。その神は、どんなモノの中にもおられるのです。と言うことは、私たちの中にも神はおられると言うことです。私たちは神そのもののゆえに、本来の私たちは完全なはずなのです。でも今の人類は、たくさん苦しみを抱えています。不完全にしているのは、神の働きを自我で邪魔しているからです。でもその自我も、神から生まれたのですから自我も神なのです。

「私たちが神である理由は、自我を持っているからです。」

自我を悪と考える人がおりますが、自我がなくては何も認められないのです。認める者がいなかったら、

認められる宇宙も、神も、存在できないのです。自我が認めてはじめて、宇宙も、神も、存在できるのです。それほど自我は、宇宙にとって、神にとって、掛け替えのない存在なのです。

私たちは、自我を持った神なのです。「自我を持っていることが神の証」なのです。ただ私たちは、神だと自覚していない神だけです。

## 神を認知する！

学びの友の中に、まだ「本当の自分（神の自分）」と「ニセモノの自分」について理解できていない人がいるようですので、ここで復習を兼ね説明したいと思います。その前に解りやすくするために、「本当の自分」に「A」と名を付け、「ニセモノの自分」に「a」と名を付けることにしましょう。

絶対宇宙には、たった一つの「A」の自分がいるだけです。その「A」の自分は、自分が全能の神であることを知っています。でも悲しいことに、そのことは「A」の自分しか知らないのです。「A」の自分が「A」の自分を知っていても、自己満足にしか過ぎません。そのことに気づいた「A」の自分は、ニセモノの「a」の自分を創造し、自分を認めてもらおうと考えたのです。

創造された「a」の自分は、「自分がいる！ 妻子がいる！ 友だちがいる！ 宇宙がある！ 神っているのかな？」と考える自我を持ちました。自我を持った「a」の自分は、「A」の自分を認知できるようになったわけですから、目的が達成されたことになりません。でも「a」の自分は、自分のことをまだ「人間」と思っているのです。これでは、「A」の自分を認知してやることはできません。今の地球人類の殆どが、「a」の自分のような状態なのです。でも学んでいる皆さんは、「A」の自分を認知してやれるところまで進化した偉大な魂です。しかし、皆さんもまだ知識段階なのです。知識段階では、認知したことになるのです。「a」の自分が「A」の自分を自覚して、はじめて認知したことになるのです。

自覚するとは、「a」の自分が、「A」の自分そのものになることです。つまり「a」の自分が、「心の底から神である！」と考えるようになることです。でもその意識状態になるためには、原子核を大きくし自覚の境界線を越えねばならないのです。

## 神の自覚

本当の自分は神です。なのに今の地球人類は、人間と誤解して生きています。それは、神の自覚がないか

からです。神の自覚を持ったらそく神です。神になる修行は必要ないのです。ただ、「心の底で自分は神である！」と思えるようになるだけです。それは、意識の薄皮一枚破れば良いだけです。意識の薄皮一枚破れば、そく神の自覚に入れるのです。つまり、人間が卒業できるのです。

あなたは、肉体の「a」さんのままでいたいですか？ 自由な「A」の自分になりたくないのですか？ 神の自覚を持ったら今の自分が失われるのではないかと心配する人がおりますが、神の自覚を持っても今の自分は変わらないのです。ですから心配せず、神の自覚を持ちましょう。それは、次の二つのことをやれば良いだけです。

○ 一つは社会体験です。

○ もう一つは瞑想です。

社会体験はすでに皆さんはやっているわけですから、何も言うことはありません。付け加えるとすれば、厭なことがやってきても逃げないでやることです。瞑想は少々難しいかも知れませんが、やることは単純です。社会体験と瞑想を続ければ、意識核（原子核・魂）がドンドン増えますので、いつか必ず自分は「生命である！ 神である！」という自覚に入れるのです。

神の自覚に入ることが、人生最大の目的なのです。学びの友の皆さんは、今、一生懸命 原子核を集め、神

の自覚に近づくべく歩んでゐる魂なのです。

## 神の恩情

神は、次のような恩情を持っています。

一つは、神に従順な者は、決して神は見放さないと言う恩情です。

二つは、神の法則に従う者には、幸せが与えられると言う恩情です。

三つは、良いことを「想い話し行え」ば、悪いことは起きないと言う恩情です。

四つは、神を想っていれば業を作らず、かつ原子核が増えると言う恩情です。

そして五つは、与えれば与えられると言う恩情です。

愛を与えれば愛が帰ってきます。

物を与えれば物が帰ってきます。

優しくすれば優しくされます。

「ありがとう！」と言えば「ありがとう！」が帰ってきます。

微笑めば微笑みが帰ってきます。

勿論、この反対のことを「想い話し行え」ば、反対のことが帰ってきます。神は温情を持っていますが、非情な部分も持っているのです。非情は強い愛ですから、温情以上の深さなのです。でもそれも、あなたの「身・口・意」次第なのです。

## 神の法則は恩情的である

神が創られた「原因と結果の法則」は、確かに峻厳な法則です。「悪いことをしたら、悪いことをした分苦しみなさい!」、と言う弁解の余地のない法則だからです。でも心から反省し「二度と過ちを犯さない!」と堅く心に誓った瞬間、苦しみが和らぐ温情的法則でもあるのです。このような温情的法則を創られたのは、神の心の中に人間的情があるからです。

神は私たちを苦しめるために、「因果の法則」をお創りになったわけではないのです。過ちに気づいてもらうために、お創りになったのです。ですから過ちに気付いきから反省したら、もう苦しみを与える必要はなくなるのです。

私たちの中には、神がおられるのです。神がおられるのですから、どんなに自分を騙しても騙せるものではないのです。でも悲しいことに人間は、自分を騙して生きています。騙せば騙すほど苦しくなると言うのです。でもその苦しみは、神が与えているわけではありません。自分が、自分に与えているのです。

この世界には、人を裁く法律や人を守る警察がありますが、本当は人を裁く法律も人を守る警察もいらないのです。なぜなら、「因果の法則が人を裁き守ってくれる」からです。その方が間違いないし、公平だからです。どうか、「因果の法則」を守って生きてください。自分で身を守る必要はありません。

**神はこう言います！**

神はこう言います。「今やれることを、今、精いっぱいやってください！」と・・・。今やれば、雪だるま式に原子核が大きくなります。「今の今」が大切です。今やれば自乗になって膨らむからです。

「思った時が最善の時！」です。なぜなら、神なる「自分」がそう思わせたからです。神は何でもご存知です。その神なる自分が、今、良かれと思っただからです。さあ！今、実行しましょう。躊躇すれば、大切な時を逸してしまいます。

過去の時は使えません。未来の時も使えません。「今の時」だけが使えるのです。今の一時を無駄にする者は、永遠の時を無駄にしているのです。なぜなら、今の一時だけが実在しているからです。今・今・今だけが、永遠に実在するのです。今・今・今だけが、永遠に続くのです。今・今・今だけが、あなたを存在させるのです。この意味の深さを知ってください。

## 神様の愛は平等

今人類は、同じ神の子でありながら喧嘩し合っています。何と悲しいことでしょうか。闘争は、どこまでも闘争です。闘争は苦しみと悲しみを生み出すだけです。戦って平和を得たことなど、未だかつて一度も無いのです。これは、神様がどちらにも味方しない証拠なのです。

「喧嘩両成敗」が宇宙の道理です。だから喧嘩している者には、等しく苦しみが与えられるのです。我が子を平等に愛する神様が、ひいきするわけがないからです。あなたの子に、特別「可愛い子がおりますか？みな等しく可愛いものではありませんか？神様だって同じです。」

神様が一番悲しいのは、子供たちが喧嘩している姿を見る時です。神様が一番嬉しいのは、子供たちが仲



良くしている姿を見る時です。どうか、神様を悲しませないでください。神様は、同じ兄弟姉妹同士、仲良くすることを願っているのですから……。

**神しかない！ 私しかない！**

この宇宙には、私しかないのです。なぜなら、すべてが「神」だからです。すべてが神だと言うことは、存在しているすべてのモノは神であると言う証拠なのです。だから私は、堂々と「私は神である！」と言うのです。私がいなかったら神はいないのです。神がいなかったら私はいないのです。なぜなら、私が神を認めることによって神が存在し、神が私を認めることによって私が存在しているからです。認める者がいなかったら認められる者は存在しないし、認められる者がいなかったら認める者は存在しないのです。

この宇宙には、神しかおられないのです。その神は、永遠の昔より存在していたし、今も存在しているし、永遠の未来にも存在し続けるのです。だから私も永遠の昔より存在していたし、今も存在しているし、永遠の未来にも存在し続けるのです。神を認める私がいなかったら、神は存在できないのですから……。

「私は神である！」と堂々と言えるのは、今「私は」実際に存在し神を認めているからです。これ以上、

ハッキリした神の証拠はあるでしょうか？

## 人間は神と同格!?

確かに神は、宇宙に君臨する絶対的存在者です。宇宙の大王です。宇宙一の偉大なお方です。でも人間がいないとは、どんな偉大な神も存在できないのです。何度も言うように、認める人間がいるから認められる神は存在できるのです。右があるから左があるのです。上があるから下があるのです。片方だけでは、何も存在できないのです。つまり、神だけでは神の存在は無いのです。

よく考えてみてください。自分がいるから相手がいるのです。また相手がいるから自分がいるのです。自分だけでは、相手だけでは、何も成立しないのです。例えば、どんなに売り手がいなくても、買い手がいなかったら商売は成立しないのです。話す人がいても、聴く人がいかなかったら会話は成立しないのです。だから私は、皆さんと同じように会場費を払っているのです。

この例えのように、人間と神は同等なのです。いや私は、人間の方が上だと言いたいくらいです。それほど人間は、偉大な存在なのです。

さあ！「神を存在させているのは私だ！」と偉ぶってください。

## そのものとは？

そのものとは何でしょうか？ それは本源本質のことです。言い換えれば、神のことです。神はすべての「本源本質」なのです。

では具体的に、本源本質の神とはどのような存在でしょうか？  
・ ・ ・  
神とは ・ ・ ・

- 無限なる存在
- 永遠不滅なる存在
- 完全無欠なる存在
- 元数1そのもの
- 絶対宇宙そのもの
- 真善美そのもの

- 知恵そのもの
- 光そのもの
- 愛そのもの
- 更に付け加えるなら・・・
- 生命意識そのもの
- 大霊そのもの
- 見えないモノ
- 触ることのできないもの
- 感覚を超越したもの
- 言葉や文字で示せないもの
- 意識を持っているもの
- 意志を持っているもの
- 理念を持っているもの
- 私と想わせているもの

○ 言葉を話させ、文字を書かせている力そのもの

○ 花を咲かせ、心臓を動かし、地球を回転させ、宇宙を運行させている力そのもの・・・

しかし、これでも「本源本質の神」を言い尽くしているとは言えません。神は言葉や文字を超越しているからです。この表現しきれない「神」が、神の実体であり、宇宙の実体であり、本当の自分の実体なのです。

**神は「完全!？」**

なぜ神が完全かと言いますと、神の思いの中には完全しか無いからです。完全な思いしか無いということ、神が創られたすべての創造物は完全であると言うことです。では、なぜ人類社会に不完全があるのでしょうか？

確かに人類社会には、不完全なものが沢山あるように見えます。でもそれは、製作途中だから不完全に見えるだけです。何でもそうですが、創作途中のモノは不完全に見えるのです。今の地球人類は、「進化途中の姿」なのです。でも仕上がった暁には、完成品になるのです。だから、今、醜い姿をしているからと言って、地球人類を卑下してはなりません。完成された暁には、あなたの口から出てくる言葉は、褒め言葉

ばかりになるのですから・・・。

## 神は「絶対完全！」

今地球人類は、進化途中の不完全な姿をしています。原子核を増やして成長してゆけば完成な姿に近づくのです。でもそれは完成な姿に近づくのであって、完全な姿にはなれないのです。なぜなら、完全な姿になつたら終わりだからです。

「完全の中に完全は無い！」のです。「不完全の中に完全がある」のです。完全は、止まりだからです。終わりだからです。進展しないからです。それは死です。ハンドルに遊びがなかったら車の運転ができないように、ガンジガラメでは動きが取れないのです。

どこまでも不完全なものが、「絶対完全」なのです。「絶対完全」の意味は、「永遠に不完全である」と言う意味なのです。なぜ完全になれないのかと言いますと、完全な宇宙からは不完全なドラマが生まれませんからです。不完全なドラマが生まれなくては、永遠に尽きない永遠に色褪せない幸せも生まれません。私たちに必要な幸せは、留まりのない幸せです。つまり、永遠に尽きない永遠に色褪せない幸せです。この

幸せは、不完全な宇宙からでなくては生まれてこないのです。どうか、この意味の深さを知ってください。

## 同化とは神に帰ること

この地球では、異質のモノが「一つに溶け合う」「合体する」「融合する」ことを同化と言っています。これは間違った解釈です。この宇宙には、異質のモノはあり得ないのです。同質のモノ同士だから、一つのもの同士だから、同化できるのです。人間はもともと生命だから、「生命」と同化できるのです。人間はもともと神だから、「神」と同化できるのです。分数二も分数三も分数四も、もともと元数1だから、元数1と同化できるのです。

この宇宙に異質なモノは、何一つ無いのです。みな一つの神から出てきた兄弟姉妹同士です。兄弟姉妹同士ゆえに、愛し合うことができるのです。許し合うことができるのです。分かち合うことができます。一しかない真理を知る大切さは、次のことから分かってもらえると思います。

私はよく「大きいも小さいも無い!」「重い軽いも無い!」と言いますが、それは一しか無い宇宙においては当然のことなのです。なぜなら、比べることができないからです。二つある宇宙なら比べられるの

で大小があるでしょうが、一しか無い宇宙においては大小が生まれるわけがないのです。

もう一つ・・・

意識を一点に集中してみてください。どんなに集中しても、一点の中に収まり切れないはず。意識を無限に拡大してみてください。どんなに拡大しても、拡大し切れないはず。それは、一つの意識しか無いからです。一つしか無い宇宙は、無限なのです。無限においては、何も収まり切れないのです。それは、区切れないからです。分けられないからです。分けられないと言うことは、無限しか無い、一しか無いと言うことです。ゆえに、一なるあなたは無限の存在なのです。無限なるものは神ですから、あなたは神そのものであり、神はあなたそのものなのです。

一つのモノが、一つに同化するのです。人間が神に同化するではありません。「神が神に同化するのです。」このことが理解できたら、あなたは神と一体になれるでしょう。

### **不動心は神を信ずることによって生まれる**

「不動心」とは、心に揺れの無い状態です。その不動心は、神に対する絶対的信頼が生まれた時に創られ



るのです。絶対的信頼とは、神に対する絶対的な確信です。つまり、

○ 神は、決して悪いようにはしない！

○ 神は、すべて良きように計らってくれている！

○ 神が創られた宇宙に悪いことなど何一つ無い！

という神に対する信頼と確信です。

神は完全です。その神が、不完全なモノを創るわけがないし、悪いモノを創るわけがないからです。どんなモノも良いものです。どんなことも良いことです。どんなに悪いように見えていても、すべて「進化成長に結びついている」良いことです。

どうか神を信じてください。信じられれば信じられるほど、心配・不安・恐怖は無くなるでしょう。神を信じても人生です。信じなくても人生です。どうせ同じ人生を歩むなら、神を信じ楽しい人生にしたらどうでしょうか？それが利口な人の生き方です。

## 神人とは？

神人とは、「相対宇宙と絶対宇宙」の中間点に立った人のことを言います。つまり「神の立場も解り人間の立場も解る」ようになった人です。神人には、まだ人間臭い欲望もあり、人間臭い感情もあるので。神人は、本源の神のような峻厳な愛だけで裁かないのです。時には厳しく時には情をかけ、また相手の成長を考え、アメとムチで裁くのが神人なのです。

その神人の原子核は、宇宙大にまで拡大しています。でも、どんなに拡大しても本源の神には戻れません。もし本源の神に戻るなら、元の白紙状態になってしまうからです。そんな意味のない宇宙を、神が創るはずがありません。

私たちは神人になっても、永遠に進化の旅を続けて行かねばならないのです。何か大変な旅のように思うでしょうが、反対に楽しい旅なのです。なぜなら、進化の旅すがら幸せというご褒美が頂けるからです。もし、進化の旅に終りがあるなら幸せにも終りがあることになり、それでは絶望です。永遠に終わらない旅だからこそ、私たちは希望を持って旅を続けてゆけるのです。

「神って人間臭いですね！」と私が言うのは、私と同じ考えを持ち対処してくれるからです。つまり、人

間の欲と情に添った厳しさのご褒美を与えてくれるからです。

## すべての道は神の心に通ずる

「すべての道はローマに通ずる」という諺がありますが、「すべての道は神の心に通ずる」のです。日本には、茶道・花道・書道・柔道・剣道など、様々な極める道がありますが、どの道を極めても神の心に通じるのです。例えば、茶道について考えてみましょう。

茶道は、「わび」と「さび」の心を大切にする学びです。「わび」は「陽の心」を意味し、「さび」は「陰の心」を意味します。頭を下げて茶室に入るのは、頭の低い人になりなさいと言う「陽の心」の学びです。精神統一して茶筌を左回転させるのも、「陽の心」の学びです。茶釜の音を聞いて頃良い温度を知る湯立は、「陰の心」の学びです。また、茶器の形や模様や色合いを通して自然の美しさを知るのも、「陰の心」の学びです。茶道は、外側（陰）の表現と内側（陽）の心を調和させる学びなのです。

花道も基本的には同じ学びです。中心に生ける花は、「陽の心」を現しています。周りに生ける草木は、「陰の心」を現しています。陰は陽を際立たせ、陽は陰を支える役割です。陰陽の調和が整うことで花道が

完成されるのです。自然は陰と陽のバランスの塊ですが、その自然の姿を花器の中にそのまま表現するのが、花道なのです。ちなみに花器は宇宙を現し、剣山は地球を現しています。

剣道も、柔道も、相撲道も、陰陽のバランスを学ぶ道です。スポーツの場合の陰とは、「技と力」のことです。陽とは「心」のことです。スポーツでは「心技一体」が重視されますが、それは技と力と心のバランスが取れて完成されるからです。地球のスポーツは、相対的な勝ち負けを競うゲームですから、相手に勝たなくては意味がないかも知れませんが、本当は勝ち負けなどどうでも良いのです。なぜなら、スポーツの本文は、スポーツを通して神の心を学ぶことだからです。

今の社会には、人間道や社会道という言葉はなくなりましたが、私たちは人を通して社会を通して、陰（物質）にも陽（精神）にも偏らない調和の取れた生き方を学ぶべきなのです。神は人類に、「陰陽」のバランスの取れた生き方を望んでいます。

**神は人類の喜んでいる姿を見たい！**

本源におられる大神様には姿形がありませんので、幸せを味わっていてもその喜びが表現できません。自

己満足の喜びでは、神は満足できないのです。そこで神は、自分の喜びを表現してくれる役役として人類を創ったのです。人類は神の分身ですから、人類の喜びの表現は神の喜びの表現になるわけです。でも今人類は、喜びより苦しみを多く表現しています。これでは当て外れです。しかし神は、人類が幸せの表現ができるまで、じっと我慢して待っています。

あなたは、今、幸せを表現していますか？ それとも、苦しみを表現していますか？ どちらでしょうか？・・・「神は人類の喜んでいる姿を見たいのです。」どうか幸せの表現をして、神を喜ばせてあげてください。神は心待ちにしているのですから・・・

## すべては神の名

名の無いままでは、私は分かりません。でも、名前をつけた途端、私に分かるのです。なぜなら、「付けた名前が私になる」からです。例えば、私に無限という名前を付けたとしましょう。付けた途端、私は無限になってしまうのです。生命と言う名前をつけた途端、私は生命になってしまうのです。神という名前を付けた途端、神になってしまうのです。今、私が人間だと思っているのは、人間という名前が付けられていた

からです。もし虫と言う名が付けられていたなら、私は虫だと思っていたでしょう。ただし虫は、神の分身にそぐわない形ですから、多分、虫という名前は付けられていなかったでしょう。人間と言う名前が付けられたのは、神の分身にふさわしい形だからです。

神が創られたすべてのモノは、神、自らがそのモノになったのですから神の分身です。ですから本当は、すべてのモノに神の名を付けるべきなのです。でもそれでは区別できないので、神は人間に個別の名前を付けさせたのです。名前には、区別する役割の他に、もう一つの役割があります。それは、そのモノの「目的や働きや使命」を表わす役割です。「鉄」の名だけでは、どんな目的を持ちどんな働きをするのか分かりません。鉄を加工したモノに、スプーンとか鍋とかバケツとか名前をつけたら、目的や働きがハッキリします。細かく名前を付ければ付けるほど、目的や働きの具体性が増すのです。ですから人間にも、山田太郎とか鈴木花子とか細かく名前を付け、目的や役割などの具体性を持たせているのです。

では、神は単に具体性を持たせるために人間に名前を付けさせたのでしょうか？ いいえ、神を知らしめるために名前をつけさせたのです。例えば、スプーンは鉄から生まれました。鉄は原子から生まれました。原子はクオークから生まれました。クオークは意識から生まれました。意識は神から生まれました。このように名前を遡ってゆけば、大元の神に辿り着けるのです。これは、人間にも当てはまることです。なぜなら、

すべてのモノは、神の名を付けた神そのものだからです。このように、名前を遡ってゆくと神に辿り着けるのです。

## 神の名前は言葉？

名前は、言葉なのです。「言葉が生まれ名前が生まれた、名前が生まれ言葉が生まれた」どちらでも同じなのです。言葉そのものが名前だからです。神の名前も言葉です。「あ」も「い」も「う」も言葉であり名前です。人類は、名前を色々と組み合わせることで具体性を高め、意思の疎通を図っているのです。

地球人類はたくさん言葉を持っていますが、それは具体性を高めなくては意思の疎通が図れないからです。具体性とは、言葉（名前）や文字や絵のことです。進化した星の人たちはテレパシーで意思の疎通を図っていますが、テレパシーには「想い・言葉（名前）」のすべてが入っていますので、言葉や文字が不要なのです。でも地球人類はテレパシーが使えないので、どうしても言葉や文字などに頼らざるを得ないのです。今人類は、「言葉や文字を使って相手を知り、自分を知り、神を知ろうとしているのです。」私たちは間違ひなく神ですが、自分が神であると心の底で知るためには、まずは言葉（名前）や文字にして具体性を持

たせ、言葉や文字から遡って神を知るしかないのです。具体性が増せば増すほどモノの正体が解り、神が解るのです。

## すべては神の別名

---

どんな名前も神の別名です。「キリスト」も神の別名です。「仏陀」も神の別名です。「太郎」も神の別名です。「花子」も神の別名です。日本人の男性の名に「郎」と言う字が多く使われていますが、「郎」とは男性を意味し、その男性は「陽」を意味し、その陽は更に「神」を意味するのです。ですから「太郎」とは、大きな神と言う意味になります。

日本人の女性の名に、「子」という字が多く使われていますが、「子」とは高貴な人と言う意味です。なぜなら、「子」とは神のことだからです。だから昔は、男女を問わず高貴な人の名に「子」が使われていたのです。また「子」は、「個」でもあるのです。それは、すべてのモノが神の一個の核から生まれたからです。

どんな人も、どんなモノも、「神の一個の核」から生まれた「神の子」です。さあ、すべての人を、すべ



てのモノを、愛しましょう！　みな同じ神を親に持つ兄弟姉妹なのですから・・・。

## 第10節 真理のよろず箱

真理は限定されません。制限されません。「こうである！ ああである！」と言った、確定語が使えないのが真理なのです。それは・・・宇宙が・・・神が・・・本当の私が・・・限定されない無限だからです。

**良く受け取る癖をつけよう！**

私たちは普段、文字や言葉を使って情報のやり取りをしています。自分の想いが相手に正しく伝わっているかどうかの保証はありません。なぜなら、自分の想いを100%言葉や文字に乗せられないからです。だから人間社会では、様々な誤解が生じ沢山のトラブルが起きるのです。これは言葉や文字を使っている今の地球においては仕方のないことですが、トラブルを避けたかったらできるだけ相手の想いを良く受け取ることです。（言葉や文字に込められた想いを、良い意味に解釈して受け取ること・・・）

人間の一番の欠点は、人の言っていることを悪く受け取って妄念を作ることです。妄念を作れば、憎しみや怒りが鬱積します。これは精神的にも肉体的にも良くありません。相手は自分が思っているほど、悪く思っていないかも知れないのです。いやもしかしたら、良く思っているかも知れないのです。賢い人は、相手の言うことを良く受け取ります。その方が楽しいし、自分の心を汚さないからです。どうか今のうちに、何でも良く受け取る癖をつけておいてください。向こうへ帰ったら大いに役立ちます。なぜなら、意識の世界へ帰ったら、テレパシーを使うようになるからです。テレパシーは、自分の想いがそのまま相手に伝わるので、悪く受け取れば大変なことになってしまうのです。どうか向こうへ帰って困らないよう、何でも良く受け取る癖をつけておいてください。

## 動と静

絶対界（実在界）は、波の無いまっ平らな世界です。凧の世界です。実に静です。何の動きもありません。ですから、そこには何もありません。一方、相對界（現象界）は、波のある（凹凸のある）世界です。実に騒々しく、忙しい世界です。その世界には何でもありません。この宇宙は、絶対界と相對界が互いに助け合い

ながら進化成長するようになっていっています。静がなければ動がありません。動が無ければ静がありません。静と動が互いに刺激し合いながら進化しているのが、宇宙の実態なのです。これは、瞑想についても言えることです。

例えば瞑想は、想念を集中させて行いますが、その時の身体は静でなくてはなりません。想念を集中させると、体の感覚が段々と無くなって行くので動きが自然と静かになります。ですから瞑想をしている時は、頭の「動」と体の「静」が同時に行われている状態なのです。

スポーツを考えてみましょう？ 技を身につけるには繰り返し繰り返しが必要ですが、それは体に技を覚えさす必要があるからです。繰り返し繰り返し訓練すると、体が技を覚えてしまうのです。ただし一旦体が技を覚えたら、後は想念を静かにしなくてはなりません。よく「無心でやれ！」と言いますが、想念が邪魔すると良い技が出せなくなるからです。

想念をどう利用するか、それが瞑想においても、スポーツにおいても、普段の生活においても、大切なことなのです。

## 科学的な生き方をしよう！

科学的生き方とは、どのような生き方でしょうか？ 実例を紹介しましょう。

ここに一生懸命 卵を抱いている親鶏と、ただ祈っているだけの親鶏がいたとしましょう。どちらの親鶏が卵を孵すことができるでしょうか？ 一生懸命 卵を抱いている鶏の方ですね……。卵を抱いている親鶏は、実際に行動しているのですから卵が孵るのは当然ですが、神頼みしている鶏は、何もしていませんから卵が孵るわけがないのです。

科学的生き方の実例を、もう一つ紹介しましょう。

ここに信号機を頼りに運転しているドライバーと、自分の目で確かめ運転しているドライバーがいたとしましょう。信号機を頼りにしているドライバーは、左右を見ず青信号だけ見て交差点を通過しました。自分の目を頼りにしているドライバーは、信号機付近で速度を落とし左右を確かめ通過しました。事故を起す確率が高いのは、どちらのドライバーでしょうか？ 前者の方ですね。なぜなら、自分が信号を守っても相手が信号を守るとは限らないし、信号機に故障が無いとも限らないからです。よく交差点で事故が起きるのは、信号機を頼り切っているからです。

これは、真理を学んでいる人にも当てはまることです。瞑想をしている人は、行動していませんから原子核をドンドン増やすことができませんが、偶像崇拜者は行動していませんから原子核を増やすことができないのです。確かに他力信仰者は、何もしなくても良いのですから楽です。でも神は、そんな怠け者に都合の良い仕組みを創るわけがないのです。地球に努力という字があるのは、努力なしに進化成長できない星だからです。「科学的な生き方とは、実際に行動し物事を実現させる生き方です。」どうか、科学的な生き方をしてください。それは、行動しなさいと言う意味です。努力しなさいと言う意味です。

## プラスマイナス零になるエネルギーの仕組み

世の人々は、極端な楽しみ（味の濃い楽しみ）を追い求めています。そのために多くの人が苦しんでいます。「吉凶は糾える繩の如し・・禍福は糾える繩の如し!・・」とは良く言ったもので、「楽あれば苦あり! 苦あれば楽あり!」なのです。つまり、良いこと・・悪いこと・・良いこと・・悪いこと・・が交互にくるのです。これは、「エネルギー均衡の法則」の働きによるものです。宇宙は、この法則によってエネルギーの均衡が保たれているのです。地球人類も、この法則あればこそ今日まで存続してこられたのです。

今、社会では、支払いの決済に約束手形やカードローンなどが使われていますが、これはエネルギーの先取りになるため、後々何らかの形で穴埋めしなければなりません。「私は穴埋めさせられていない！」と言う人は、目に見えない形でさせられているか、来生に持ち越されているかのどちらかで、いずれ必ず穴埋めさせられます。

エネルギーを出せば、出した分のエネルギーが必ず返ってくるのです。それも、出した色と同じ色のエネルギーが返ってくるのです。

例えば、「ありがとう！」という色のエネルギーを出せば、「ありがとう！」という色のエネルギーが返り、「バカ野郎！」という色のエネルギーを出せば、「バカ野郎！」という色のエネルギーが返ってきます。

これは私の体験から言っても、絶対間違いありません。ですから穏やかな生活をしたかったら、穏やかな色のエネルギーを出すことです。どうか「エネルギー均衡の法則」を信じ、正しいエネルギーの使い方をしてください。

## 正しい「身・口・意」の行使

「身・口・意」の「身」とは行為のこと、「口」とは言葉のこと、「意」とは思い(想い)のことです。昔から「身から出た錆び」とか、「口は災いの元」といった戒めの言葉はありますが、「意」を戒める言葉は見当たりません。それは、見えないモノが信じられないからです。でも一番大切なのは、見えない「意・想い」すなわち想念なのです。身を動かすのも、言葉話すのも、すべて見えない想いがやっています。想いは原因です。言葉や行為は結果です。原因(想い)あつての結果(言葉や行為)なのです。ですから一番大切なのは、「意」なのです。でも人間は「意」を軽視し、想いたい放題に生きています。だから人間社会には、沢山の苦しみがあるのです。これは、「想い」の恐ろしさを知らないからです。

神社やお寺の門前に、仁王像や閻魔像や金剛力士像などが置かれてありますが、目的は、「想い」の恐ろしさを知らしめるためです。あの恐ろしい表情は、「想いを正しく使いなさい！」という威喝なのです。象徴的な像ですから像自体には何の力もありませんが、あの像を見せつけることで「身・口・意」を戒めようとしているのです。今や門番のような存在になってしまいましたが、本当は「想い」を戒めるために用意された像だったのです。

## 悪はない！

この宇宙に、本質的な悪など一つもありません。良く受け取れば良くなり、悪く受け取れば悪くなるだけです。それは受け取る自分に責任があるのであって、相手に責任があるわけではないのです。そう言えるのは、「自分の宇宙の管理者は自分自身」だからです。

確かに私たちの目には、悪があるように見えます。でもその悪は、善を知るための悪ですから善なのです。何でもそうですが、相対的体験無しには気づけないのです。一の中には、一は分からないのです。白の中には、白は分からないのです。善の中には、善は分からないのです。悪を体験して、はじめて真の善を知るのです。真の善人とは、悪の苦味を体験し善の尊さを知った人です。赤ちゃんのように悪の苦味を知らない善人は、真の善人とは言わないのです。嵐を掻い潜って強くなった者が、真の勇者なのです。嵐を嫌って家に閉じこもっている者は、どんなに勇者に見せかけても真の勇者とは言えないのです。

このように、悪は悪ではないのです。進化成長に必要な悪なのです。このことが心の底で解ったら、どんな悪を見せられても心を汚さないでしょう。



## 偶然はない！

あなたは今日、蚊に刺されました。あなたは今日、石に躓きました。これを人は、偶然だと言います。もし本当に偶然があるなら、あなたは今、生きていないでしょう。なぜなら、今、隕石に当たっても、雷に打たれても、不思議ではないからです。私たちが曲がりなりに安心していられるのは、心の何処かで必然を信じているからです。

どうして、地球に努力という言葉があるのでしょうか？ それは・一生涯懸命やった分、見返りがある、「必然の世界」だからではありませんか？ 何をやっても偶然なら、どうして努力するのでしょうか？ 必然の世界は、やればやった分の見返りがあるのです。これは背後で、「必然の法則」（原因と結果の法則）が働いているからです。私たちは今日まで、この法則によって守られ成長してきたのです。今後も守られ成長して行くでしょう。

さあ、必然を信じ一生涯懸命努力しましょう。努力した分、必ず見返りがあります。これは私が保証するのではなく、必然の法則が保証してくれるのですから絶対間違いありません。

## 科学と化学の違い！

科学と化学の違いは、本当に有るモノと本当に無いものを研究する違いです。では、本当に有るモノとは何でしょうか？ それは永遠に無くならないモノです。ではこの世の物は、永遠に無くならないのでしょうか？ 必ず無くなりますね。それは、幻だからです。今、科学者たちは、無くなる幻を研究しているのです。それは、真実と現実の見極めができないからです。

「科学とは、永遠に無くならない真実を研究する学問です。」永遠に無くならない真実とは、意識のことです。意識を研究するのですから、自分が入っていきなくてはなりません。あなたは今意識を持っていますね・・・。私も今意識を持っています。と言うことは、あなたも私も、みな科学者だと言うことです。神は研究材料を、一番身近に置いてくれています。

「化学とは、消えて無くなる物を研究する学問です。」消えて無くなる物とは、「この世の物」「幽界の物」「夢の世界の物」「幻覚の世界の物」要するに・・・五感に感じる外側の物を研究するのが「化け学」なのです。外側の物を研究する学問ですから、自分が入っていません。と言うことは、誰のための学問なのでしょう？ このように言うのは、学問は自分の成長のためにすべきものだからです。なぜなら、自分しか

いないからです。

「化学はこの世限りの学問ですが、科学は永遠の学問なのです。」どうか、永遠の学問を学んでください。それは何処へ行く必要もありません。お金もかかりません。「自分の意識」を研究したら良いのです。

## 形そのものには何の力もない！

形が形を生むことはありません。なぜなら、形は実際に無い幻だからです。実際に無い幻が、どうして形を生むことができるでしょうか？ 形は結果体なのです。結果体が結果を生むことなど、できるわけがないのです。結果体には、何の力もないからです。もし形が形を生むなら、形は原因者になってしまいます。

「結果体を生むのは、あくまでも原因者です。原因者だけが、形（結果体）を生むことができます。」形を生むには、実際に有る何かが必要なのです。その実際に有る何かを私は、意識とか、素材とか、本質とか、エネルギーとか、生命とか、神とか、呼んでいるのです。

形は影なのです。影を生み出すには、光が必要なのです。光は実在しますが、影は実在しないのです。肉体は形ですから影なのです。影ですから肉体には、何の力もないのです。肉体の中で働いている「意識が・

本質が・生命が・エネルギーが」肉体を生かし、動かし、働かせているのです。「形には何の力もない、それは結果体だから」と言うことを知ってください。

## 自我を持った人類の凄さ

私たちは人間の形をしています。形が肉体を動かすことはありません。見えない何かが、肉体を動かしているのです。その見えない何かを、神と呼んだり、生命と呼んだりしているのです。これは鉱物や植物や動物も同じなのです。ただし人類には、鉱物や植物や動物に無い自我を持っています。自我を持っているがゆえに苦しみも生まれるわけですが、神はそれを承知で人類に自我を持たせたのです。それは、人類に自分を認めて欲しいからです。

自我を持った人類は、神を認めてやれる唯一の存在です。

自我を持った人類がいなかったら、神は存在できないのです。

認める人類が存在しなかったら、認められる神は存在できないからです。

では、神と人類どちらが上でしょうか？ 上も下もありません。同格です。なぜなら、認めてやれる人類

は、認められる神から生まれたからです。親がいなくては、子は産まれないのです。親あつての子です。でも子がいなくては、親も存在できないのです。なぜなら、認める子がいなくては、認められる親は存在できないからです。だから、親と子は同格なのです。

自我を嫌う人がおりますが、自我があるから神を認めてやれるし、宇宙も認めてやれるのです。それよりも何よりも、自我があるから自分が認識できるのです。

私たちは自我を永遠に持ちながら、宇宙の秘め事を永遠に探つてゆくのです。それほど自我は、凄く、偉大な、存在なのです。

## 光（エネルギー）には知恵がある

光（エネルギー）は、良し悪しの判断ができる知恵を持っています。それは、光（エネルギー）そのものが神そのものだからです。これは私の、次のような体験から言えるのです。

私が病人に手を当てると、光自らが病人の患部（光の少ない場所）を察知してエネルギーを適量注いでくれるのです。私はただ手を当てているだけです。光は絶対悪くしないのです。すべて良いように運んでくれ

るのです。それは、光は「善の知恵」を持っているからです。このように光は、「意思を持ち」「知恵を持ち」「力を持っている」生き物なのです。

「神は光なりき！」です。この宇宙は、その神の光で満ちているのです。ゆえに宇宙は、完全無欠です。健全健康です。大調和そのものです。少しでも闇が生まれたら、光が働きだしてそく闇を解消してくれるのです。だから宇宙は、今日まで無事存続してこられたのです。

どうか、光の偉大さを知ってください。光は神であることを知ってください。その光は、私たちの想念と直結しているのです。だから、想念のコントロールが大切になってくるのです。

## 飢餓は配分の誤りから生まれている

バスで大阪に来る途中、沢山の空き地を見ます。その時私は、いつも思うのです。どうしてこんなに空き地があるのに、人の世に飢餓があるのだろうか？・・・私は北海道で小さな畑を作っていたので良く知っているのですが、どんな荒地に芋を植えても採れるのです。それも翌年タネ芋を植えなくても、残りタネでいくらかでも採れるのです。空き地さえあれば、カボチャだって、トウモロコシだって、サツマイモだって、

いくらでも採れるのです。なのに、どうして地球上には飢餓があるのでしょうか？ 不思議だと思いませんか？ それは、「人間が配分を狂わせているからです。」人間は欲張りなのです。沢山の物が欲しいのです。

その欲が、配分を狂わし飢餓を生んでいるのです。欲をかかず足ることを知れば、地球上に飢餓で苦しむ人は一人もいなくなるのです。「それは指導者が悪いからです！」と、世の人々は言います。でも、指導者だけの責任でしょうか？ あなたに責任は無いのでしょうか？ あなたは、足ることを知った生き方をしておられますか？

- 珍しい物が売り出されたら、すぐに買いに行くのではありませんか？
  - 宣伝に踊らされ、まだ使える物を捨て、新製品を買いに行ったことはありませんか？
  - 楽をしたくて、便利快適なものを追いかけていませんか？
  - 美味しいものが食べたくて、店の前に並んだことはありませんか？
  - 人を押しのけ、欲しい物を手に入れたことはありませんか？
  - 欲しい物が手に入らなかった時、人を羨み、妬み、嫉妬したことはありませんか？
- はつきり言って、そのような欲が飢餓を生んでいるのです。

今、地球上で行われている資本主義経済は、人の欲望をくすぐって成り立っている制度ですが、その後押

ししているのが欲を持った一般人なのです。世の人々は、欲を逆手に取って繁栄している資本主義制度が、自分の首を絞めていることに気付いていないのです。資本主義制度は、幼い地球において必要な制度ですから否定はしませんが、真理を学んでいる皆さんは、もうソロソロそこから卒業してください。

## 統合の時代と分離の時代

分離分断は不調和です。多くの苦しみを味合わねばなりません。でも統合、合体、統一は調和です。統合へ進めば、平安な世がやってきます。今、地球上に、統合を進める光の天使が降りてきております。私の恩師である知花敏彦先生も、その光の天使の一人でした。知花先生は、天の光を数多く降ろしてくれました。その光に清められ、やがて人類がみな兄弟姉妹であることを悟るでしょう。その時、理想社会が現実のものとなるのです。科学や宗教や政治や経済が、理想社会にするものではありません。一人ひとりが、「本当の自分に目覚める」ことによって理想社会が訪れるのです。

今、地球が回っていると言っても、誰も疑りません。それは、知識が思想化されたからです。「人間神の子」の教えも思想化されたら、全人類が足並みを揃へて理想社会に突き進むでしょう。さあ「人間神の子」



の思想を広め、バラバラな宗教を一つに統合しましょう。それが出来るのは、学びの友の皆さんたちだけです。今すぐにできなくても、道筋をつけておけば後から続く人たちがやってくれます。道筋をつけることは、先に出ている者の使命なのです。

私の残した想いや文字や言葉は、一つも漏らさずアカシックレコードに刻まれます。皆さんが残す想いや言葉や文字も、同じように刻まれます。無駄なことは一つもありません。さあ、神を思い続けましょう！ 想えばアカシックレコードに刻まれ、後に続く人たちの役に立つのです。

## 必然とは完全のこと！

この宇宙は必然から生まれたので、どんなことも必然で起きているのです。それは、必然に起きることが完全だからです。裏返せば、完全だから必然に起きるのです。もし起きていることが不完全なら、必然は偶然になってしまい、宇宙は瞬時に消滅するでしょう。

偶然には秩序がないのです。必然には秩序があるのです。秩序があるから、この宇宙は永続しているのです。もし無秩序なら宇宙は無いわけですから、こんなお話さえもできないのです。今、宇宙が存在できてい

るのは、秩序の中にあるからです。つまり、法則の中にあるからです。

必然は、法則を意味するのです。偶然は、無法則を意味するのです。この宇宙に偶然がないのは、法則によって支配されているからです。その法則の中には、「意図と意味」が込められているのです。どんな意図と意味かと言いますと、すべてのモノを「進化成長」させる意図と意味です。

神様は、私たちを「進化成長」させるために必然の中に放り込んだのです。ですからどんな事が起きても、みな「良いことだ!」と思ってください。起きたことは、みな進化成長に結びついているのですから・・・。そう思えたら、何が起きても心は動揺しないでしょう。

## 実在しているのは完全のみである

1は実在です。今は実在です。私は実在です。

このことは、下の数式が証明しています。「1」だけ、「今」だけ、「私」だけが実在なので。これは、動かしがたい真理です。このことを前提に、完全について考えてみましょう。

完全とは、実在のことです。不完全とは、非実在のことです。実在しているモノは、すべて完全なのです。実在とは、永遠に無くならないという意味ですから、永遠に無くならないモノは実在そのものであり完全そのものなのです。非実在とは無くなるという意味ですから、無くなってしまふモノは非実在であり不完全なのです。人間が消えて無くなるのは、非実在であり不完全だからです。

実在は完全の証であり、非実在は不完全の証なのです。もし実在が不完全なら、神は不完全な宇宙を創ったことになり、宇宙は一時足りとも存在できないでしょう。今、宇宙が存在していること自体が、完全である証なのです。と言うことは、実在している「1」は、「今」は、「私」は、完全であると言うことです。

$$\text{無限時間} \times \frac{1(\text{今})}{\text{無限時間}} = 1(\text{今})$$

そうです。「私」は、完全なのです。私の中に不完全な想いがあるのは、「私」を人間と誤解しているからです。人間と誤解し不完全な想いを持つから、不完全なモノ（迷い・苦しみ・不幸）が生まれるのです。もし実在の「私」に目覚めたら不完全な想いは持ちませんから、幸せに生きられるのです。どうか不完全な人間の「私」に生きるのではなく、完全な「私」に・・実在の「私」に・・生きてください。

**分けられない！**

命のやり取りができないのは、宇宙に命は一つしか無いからです。一つしか無い命は、やり取りができないのです。一つは、分けられないからです。一つという意味は、無限という意味ですから、どんなに分けても無限なのです。例えば分けられたとしても、「同じモノを分けた」のですから意味がないのです。

命が分けられないのは、命は一つであり無限だからです。分けられるのは、あくまでも有限である物質だけです。でもその物質さえも、いつか無限のサヤに帰るのです。なぜなら、物質の本質も一なる無限から生まれたからです。一で創られている宇宙に、分けられるものなど一つも無いのです。私の命も、あなたの命も、万象万物の命も、同じ一つの命だから分けようがないのです。分けようとどんなに頑張っても、それは

無駄骨です。ですから、分けようなどと思わないことです。どうせ分けても「自分」なのですから……。  
**進化の変容は記憶されない！**

進化における変容は、私たちの意識（記憶）に上らないよう操作されています。だから私たちは、新鮮な気持ちでこの世に生まれ、一から出直すことができます。

私たちは気の遠くなるような年月、進化の旅を歩んできました。その間、どれほど変化の節目を通ってきたことでしょうか。あなたは、その通った節目の記憶がありますか？ 無いではありませんか？ それは、記憶に残らないよう操作されているからです。これからも進化の節目を何度も通るでしょうが、どんな節目の変化も記憶に残ることはありません。記憶に残れば、進化の邪魔になるからです。

私たちがすべきことは、過去のことや未来のことを詮索することではありません。今の一時を使って原子核を増やすことです。今の一時だけが実在であり、今の一時だけが創造できるからです。

どうしても節目の記憶を蘇えさせたいなら、ドンドン原子核を増やし未明の節目を超えてください。未明の節目を超えたら、過去生の記憶も、変化の記憶も、変容の記憶も、すべて蘇ってくるでしょう。

## 自尊心と神尊心

「自尊心を傷つけられた！」と怒る人がおりますが、「自分」を人間だと思っただけから怒るのです。自尊心など無いのですよ！ なぜなら、人間などいないからです。いない人間の自尊心など、傷つけられようが、踏み付けられようが、どうでも良いではありませんか？ この宇宙には、「神」しかいないのです。だから、「神尊心」しか無いのです。どうか、「自尊心」を「神尊心」に置き換えてください。そうすれば、例えば神尊心が傷つけられたとしても、神には怒りが無いのですから怒ることは無いはずですよ。

どうか、無い「自尊心」など捨ててください。無いものに拘ることほど、愚かなことはいないのですから・・・

## おかしな世の中？ おかしな社会？

地球社会には、おかしなことが沢山あります。ここで、そのほんの一部を紹介しましょう。

○ 駅のホームには、沢山の宣伝看板が掲げられています。一番多いのは病院の宣伝看板です。でもこれを、誰も不思議だと思っていないのです。病院の看板が多いと言うことは、それだけ今の社会に

病人が多いと言うことです。病気は悪心から生まれるわけですから、今の社会にはそれだけ悪心を持つ人が多いということです。それは、良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

- 現代社会は、法律や規則で縛られている肩苦しい社会です。それは、規制しなければ社会秩序が保たれないからです。と言うことは、裏返せばそれだけ社会秩序を乱す人が多くいると言うことです。それは良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

- 「我々の党は、社会福祉に沢山の予算をかけている！」と豪語する政治家がおります。でもそれは、社会福祉に頼らねばならない人が多いからではありませんか？ 何も偉ぶることではないのです。いやむしろ、「悪い政治をしているからそのような人が多い！」と気づくべきです。

- 国の予算で、武器を作ったり輸入したりしています。また国の予算で、殺人技術を身につけている軍人がいます。「殺人に国が関わっている！」社会は、良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

- 近年、ボランティアをする若者が多くなったと喜んでいる人がいますが、悪いことが多く起きるから、ボランティアをする若者が多くなったのではありませんか。それは、良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

こういう事も考えてみてください。

○ ボランティアをする若者の心理状態は、一体どうなっているでしょうか？ 彼らは、生き甲斐が欲しいのです。生き甲斐が欲しいのは、心が満たされていないからです。それは、良い社会だからでしょうか？ 悪い社会だからでしょうか？

○ パラリンピックが盛大になったと喜んでいる人たちがおりますが、盛大になるのは、それだけ精神的肉体的欠陥者が多くなったからではありませんか？ それは良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

○ テレビや映画で放映されているドラマの殆どは、事件（戦争・事故・争い事）ものです。それは、そのようなドラマを好む人が多いからではありませんか？ それは良い人の多い社会だからですか？ 悪い人の多い社会だからですか？

○ テレビのコマーシャルで一番多いのは、サプリメントや薬の宣伝です。それは、それだけ健康に気遣う人が多いからではありませんか？ それは良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

○ 「医学が発達している！」と医療に携わっている人たちは言いますが、ではどうして病人が増えるのでしょうか？ 医療費で今や、国家予算が破綻しそうなのですよ！ 医学が発達しているなら、ど



うして医療費が多くなるのですか？ 医療費が多いのは、良い社会だからですか？ 悪い社会だからですか？

## 自分の中にないものは見せられない！

「私はこんな厭なものを見せられた！」と言って怒る人がおりますが、「あなたの中にないものは絶対見せられないのです。」なぜなら、自分の中に無い波動は同調しないからです。出した電波に同調してテレビ画像が映るように、私たちが見せられている画像も、すべて自分が出した波動に同調して見せられるのです。特に必要な画像は、何度も見せられます。その時、なぜ何度も見せられるのか疑問に思ってください。疑問が解けたら原子核が増えます。

どんな出来事も、すべて進化成長に結びついている必然だと思ってください。その必然で起きていることは、何気なく見せられている中にもあるのです。それは、何気なく見せられていることの中に、進化成長に必要な題材があるからです。

人から嫌なことを言われたり、厭なことをされたりするのは、あなたの中にそのような欠点があるからで

す。だからその欠点に気づかせるために、嫌なことを言う人や厭なことをする人を自分が連れてきたのです。ですから、誰かが自分に見せているのではなく、自分が自分に見せているのです。自分が連れてきたのですから、その人を憎んだり恨んだりしてはなりません。それどころか、その人に感謝してください。

## スピードアップする因果の法則

---

波動の高い世界では、「原因と結果の法則」の働きが早くなります。その証に、幽界のような波動の高い世界では、思ったことがすぐに現象化されます。私たちが住んでいる表現世界でも、こう言うことがありません。

子供のころは、何か悪いことをしたらすぐに悪いことが返ってきました。これは、子供たちの波動が精妙だからです。だからケンカ早やかっただけで、仲直りも早かったはず。段々と大人になり波動が落ちてくると、悪いことをしてもすぐに返ってこなくなります。だから、大人は悪いことを重ねるのです。でも魂が成熟し、皆さんのように波動が高くなってくると、すぐに返ってくるようになるのです。波動の高い皆さんなら、心当たりがあるはず。

ところで最近、悪事の暴露されるスピードが早まっていると感じませんか？ 一昔前までは、悪い事をしても捕まるまで時間がかかりましたが、最近ではすぐに捕まるようになっていきます。人類の波動が落ちていくのに、どうしてこのようなことが起きるのでしょうか？ それは、「地球の波動が上がっている」からです。今、地球は、ドンドン波動を上げています。それは地球が、ある進化の節目に差し掛かっているからです。

近年、自然災害がスピード化しているのは、地球の波動が一昔前より上がっているからです。学びの皆さんだけでも、そのことを知っておいてください。

## 波動の精妙さは成長の証

魂が成長し波動が高まってくると、「原因と結果の法則」の働きが早まってきます。これは成長の証ですから良いことですが、今の若い地球人類には困るのです。なぜなら、学べることも学べなくなるからです。こう言うことです。

例えば波動の高い星で、若い魂が悪いことをしたとしましょう。波動が高いので、彼はすぐに痛い目に遭

います。彼は考えるはずです。「自分が悪いことをしたから、悪いことが返ってきたのではないか」と……。その子は、痛い目に遭いたくないから、すぐに悪いことをしなくなります。これは良いことだと思いかも知れませんが、魂の成長から見たら悪いことなのです。

地球のような波動の鈍重な星では、悪いことをしても悪いことが返ってくるまで相当の時間がかかります。時間がかかって返ってくるため、なぜ痛い目に遭ったのか？ これでは分かりません。ですから、また同じ悪いことをして同じ痛い目に遭うのです。でも何度も同じ痛い目に遭えば、どんな幼い魂でも気付きます。「そうか、この痛い目にあっただのは、こう言う悪いことをしたからだ」と……。気付いた幼い魂は、悪いことをしなくなります。

このように鈍重な地球では、悪い子から良い子になるまで沢山の体験時間が与えられるため、原子核を増やすことができるのです。幼い魂が成長するには、沢山体験し沢山痛い目に遭う必要があるのです。すぐに痛い目が返ってきたのでは、体験が少ないためあまり原子核を増やすことができないのです。

「因果のスピードアップ化は魂の成長の証」です。幼い時期は学ぶ課題が多いため沢山体験が必要です。成長すれば課題が減るので体験が少なくて良くなるのです。魂が成長すればするほど、スピードアップした方が早く学べるので、都合が良くなると言うわけです。

渋柿を焼酎で熟成させたのでは、本当の旨味が出せないのです。じっくり時間を掛けて熟成させてこそ、本当の旨味が出せるのです。魂の成長も同じなのです。付け焼き刃ではダメだと言うことです。

## 業を消す必要はない！

この表現宇宙は、魔法の白板に例えることができます。その白板に書かれた絵や文字は、不思議なことに消さなくても自然と消えてゆくのです。書かれた絵や文字とは、業のことです。罪のことです。どんな苦しい業を作っても、罪を作っても、自然と消えてゆくようにできているのが、魔法の白板なのです。これが、私たちが希望を持って生きられる根拠です。ただし、注意しなければならぬことが一つあります。それは、魔法の白板に同じ苦しい絵や文字を書かないことです。つまり、「業の上塗りをしない」ことです。

世の人々は一生懸命、業を消そうとしています。消そうとしても消せるものではありません。返って、業の上塗りをしてしまうだけです。消そうと思う必要はないのです。悪いと気付いて反省したら、後は魔法の白板に任せることです。

私たちがやるべきことは、社会体験と瞑想です。業に囚われていては、社会体験も瞑想も集中してできま

せん。どうか業を消すのは魔法の白板に任せ、あなたは社会体験と瞑想に打ち込んでください。

## 心安らかにするには!?

この宇宙には、ホンモノとニセモノがあります。ホンモノは実際にあるモノですが、ニセモノは一時存在する見せかけで、お金・物・財産・名誉・地位・権力などがそうです。これらのモノは、すべてこの世限りのニセモノです。消えて無くなるモノは、みなニセモノなのです。そのニセモノを追い求めるから、人間は苦しむのです。

どうしてニセモノを追い求めると苦しむかと言いますと、私たちの本性は永遠不滅のホンモノだからです。永遠不滅のホンモノが、消えて無くなるニセモノを追い求め苦しくないはずがないのです。

では、実際にあるモノとは何でしょう？ それは永遠に無くならない「神」です。「意識」です。「魂」です。「命」です。「光」です。名前は違ってても、皆同じホンモノです。ホンモノを想えば、光が入ってきます。気持ちが良くなります。心が楽しくなります。どうか、ホンモノを求めてください。ホンモノを求めようになったら、あなたの心は安らかになるでしょう。

## 形と本質

この宇宙で最も確かなことは、本質と形は絶対切り離せないという事実です。本質が有るということは、必ず形が有るということです。形が有るということは、必ず本質が有るということです。今、私たちは、人間の形をしています。その形の中には必ず本質が同居しているのです。私たちは本質の子なのです。「人間神の子！」と言われるのは、私たちが形作っている「本質が神」だからです。神はすべての本質なのです。神なしに人間あり得ないのは、本質なしに形はあり得ないからです。

私たちは、形が生きて形が働いていると思っていますが、本質が生きて本質が働いているのです。つまり、本質がものを考え、本質が言葉を話し、本質が行っているのです。その本質は、「無限なる存在！」「永遠なる存在！」「完全なる存在！」「自由なる存在！」ですから、本質に生きれば苦しみは無いのです。

さあ！私は、「無限なる！永遠なる！完全なる！自由なる！本質である！」と生きてください。そう思って生きれば、あなたは安心して生きられます。どうか、本質を意識し本質に生きてください。できるだけ肉体を意識しないで生きてください。

## 自分が認めれば良い！

世の中には、「自分のやったことを認めてくれない！」と腹を立てる人がいますが、その人は自分と他人を別けて考えるから腹が立つのです。人は自分なのです。自分は人なのです。人と自分は一つなのです。自分の他には、誰もいないのです。ならば、自分が認めればそれで良いのではありませんか？

「神自らが自らを認めている」のです。「人が神を認めて神を存在させている」という言い方は、客観的見方しかできない人に対してする説明です。主観的見方ができるようになった人には、人と神とを分けて説明する必要はないのです。

この宇宙には、私しか存在しないのです。自分しか存在しないのです。主観者しか存在しないのです。自分が自分を認め、自分を存在させているのです。このような説き方は、自覚に入るためには必要なのです。ですから今後 何度も説かれるでしょうが、皆さんの理解力が増せば増した分、納得度も増すでしょう。



## 「無・空」の意味

仏教語では、「無・空」の意味を、心を「無・空」にするとする意味で使われております。でも「無・空」の意味は、そのようなものではありません。

私たちの周りには、様々な情報が飛び交っています。その情報は、その人の発信した想念に同調して入ってきます。例えば、憎しみの想念を放てば、憎しみの情報が入ってきてその人を苦しくします。楽しい想念を放てば、楽しい情報が入ってきてその人を楽しくします。どのような想念を放つかで、心が苦しくなるか楽しくなるか決まるのです。

例えば、

- ・何も思わなかったら何の情報も入ってきませんので、心は波立ちません。
- ・苦しい情報が入ってきてても、心に留めなければ（拒否すれば）心は波立ちません。
- ・苦しい情報を受け取っても、良く受け取れば心は波立ちません。

このように情報が入ってきてても、対処の仕方一つで心を波立たせないようにできるのです。どんな情報が入ってきてても心を波立たせなくなった人を、不動心の持ち主と言うのです。不動心の持ち主は、外側の情報

はすべてが幻だと知っていますから、心を揺れ動かすようなことはしないのです。

世の人々は、偶然に情報が入ってくると思っていますが、偶然に情報が入ることは絶対ありません。情報を出したから、情報が入ってきたのです。これは、「結果を見て原因を発見する」実に合理的な学びの方法です。苦しい情報を受け取った人は、苦しい情報から学ぶ必要があったから、自分が苦しい情報を出して苦しい情報を受け取ったのです。学ばねばならないことが多くある人ほど、多く情報を発信し多く情報を受け取るのです。多く情報を受け取れば、多くの体験ができるからです。でも皆さんのように熟成した魂は、できるだけ不要な情報は出さないこと・受け取らないこと・です。たとえ情報が入ってきて、良く受け取り、心を波立たせないことです。「見ても心に留めない!」「聞いても心に留めない!」「語っても心に留めない!」「三猿の戒めを守ってください。

## 中庸の大切さを知る

この宇宙では、行き過ぎると反動がやってくる仕組みになっています。この反動の働きを、「中庸の法則」とか「エネルギー均衡の法則」とか言われているわけですが、私たちはこの法則によって真ん中の道を歩ま

されるよう仕組まれているのです。

例えば、食べ過ぎても、食べ過ぎても良くありません。運動しなくても、運動し過ぎても良くありません。眠らなくても、眠り過ぎでも良くありません。物質に偏り過ぎても、精神に偏り過ぎても良くありません。神は無駄なことをさせないわけですから、すること自体は悪いことではないのですが、行き過ぎれば何でも悪くなるのです。

シーソーは、端に寄れば寄るほど揺れが大きくなります。真ん中に寄れば寄るほど、揺れは穏やかになります。同じように私たちの生活も、偏れば偏るほど苦しくなるのです。どうか、「今、自分は中庸の生活をしているのか？」見極めながら生きてください。

この中庸は原子核の量によって人それぞれ違いますから、人のマネをしないでください。人には人の中庸が、あなたにはあなたの中庸が、あるのです。その中庸を見極めるのも、学びの一つです。私は今、正しい中庸の道歩んでいるのか？ 常に自分に問いかけながら生きてください。

## 人生は一回限りではない！

世の人々は、一回限りの人生だと思っていますので、「後は野となれ山となれ！」と言った無責任な生き方をします。でも人生は、一回限りではないのです。もし一回限りの人生なら、どうして不自由な体で生まれてくる人と、健全な体で生まれてくる人がいるのでしょうか？ どうして貧乏な家に生まれてくる人と、裕福な家に生まれてくる人がいるのでしょうか？ 一卵性双生児が、同じ環境で育ちながらどうして性格や氣質が違うのでしょうか？ 一回限りの人生で、しかも「一斉のドン！」で人生が始まるなら、こんなことはあり得ないはずです。これは、人生に続きがあると考えねば解けない謎です。

よく考えてみてください。不自由な体で生まれてきた結果があったと言うことは、そうなるべき原因を過去で作っていたからではありませんか？ つまり、過去世で悪い原因を作っていたから、今世 苦しい結果がやって来たのです。これは「原因と結果の法則」から考えても、当然のことなのです。しかし科学者も政治家も教育者も一般人も、偶然のせいにして真実から目を逸しているのです。その方が責任逃れできて楽だからでしょうか、それでは成長できないのです。

人生は、一回限りではないのです。過去にも人生があったし、未来にも人生はあるのです。人は輪廻転生

を繰り返しながら、進化して行くのです。

## この宇宙に偶然はあり得ない！

この宇宙に偶然は、絶対ありません。もしあるなら、この宇宙はとうに存在していません。必然の宇宙だから、今宇宙は存在できているのです。「偶然」と言う字は、「愚」かな「然」と書きますが、「愚」とは「おろか」という意味、「然」とは「状態」という意味ですから、通して解釈すれば、「愚かな状態」という意味になります。神が創られた宇宙に「愚」かな状態（然）があるはずがないのです。

偶然とは・「無茶苦茶」と言う意味です。「無法則」と言う意味です。「秩序が無い」と言う意味です。あなたは今、どうして生きていられるのですか？ 心臓が秩序を保って動き、秩序を保って息をしているからではありませんか？

- 春夏秋冬の順番が、狂ったことがありますか？
- 昼と夜が逆転したことがありますか？
- 水が下から上へ流れたことがありますか？

誰もこの必然性を考えないのです。そして、何か都合の悪いことが起きたら、偶然で起きた！ 不可抗力で起きた！ と言うのです。もう、そんな愚かなことを言わないでください。あなたが今存在している事自体が、偶然の無い証なのですから……。

### どちらが真の科学者か？

もし地球環境を良くする方法を教える科学者と、地球環境を悪くしない方法を教える科学者がいたとすれば、どちらが真の科学者でしょうか？ またどんな病気でも治せる医者と、病気にならない方法を教える医者がいたとすれば、どちらが名医でしょうか？ 前者の方は成果が目に見えるので商売になり、後者の方は成果が目に見えないので商売になりません。だから今の社会では、前者の方に人気があり、後者の方に人気がないのです。でも真に人のためになっているのは、後者の方ではありませんか？ なぜなら、前者の方は悪根を断つことができませんが、後者の方は悪根を断つことができるからです。でも今の人間社会では、それを認めようとしません。これが地球において、真の科学者や真の名医が育たない理由です。

「どんなに雑草を刈っても、根を断たなくてはまた生えてくるのです」「どんなに川下のゴミを拾っても、

川上のゴミを無くさない限り、川は綺麗にならないのです」どうか、原因の大切さを知ってください。結果はあくまでも発見の手がかりです。

## なぜ人は自由を欲するのか？

人間は「自由！」「自由！」と口癖のように自由を希みますが、なぜそれほど自由を欲しがるのでしょうか？それは、本当の自分が自由な意識だからです。私たちは、意識そのものなのです。意識は、どこにでも飛ばせるし、どうにでも縮められるし、どうにでも拡大できるし、どうにでも表現できるのです。そのことを本能的に知っているため、人間は自由を欲するのです。しかし幼い地球人類は、今、野放図な自由行使をして様々なトラブルを起こしています。

この表現宇宙には、自由を行使するに当たって守らなければならないルールがあるのです。それは、「陰と陽の法則」と「原因と結果の法則」です。つまり、「偏り過ぎてはならない！」「やり過ぎてはならない！」「悪を犯せば悪が返ってくる！」と言うルールです。偏り過ぎれば苦しみがやってきます。やり過ぎては苦しみがやってきます。悪いことを思い、悪い言葉を吐き、悪い行いをすれば、痛い苦しいがやってきます。

この二つのルールが無かったら、若い人間は好き放題に自由を行使し、宇宙を破壊してしまうでしょう。それでは宇宙の秩序が保たれないので神は、人間に制約の付いた自由を与えたのです。今の人類は、制約の付いた自由の中で生きています。でも人類は、いつまでも幼いままではありません。いずれ、正しい自由の行使ができるようになるでしょう。その時、今以上に自由が拡大するのです。

## 体験は宝です

体験は宝です。体験ほど大切なことはありません。ですから、体験を恐れたり嫌ったりしてはなりません。体験は、自分の身を守る知恵を授けてくれます。体験は、「人を強く」「大きく」「賢く」します。ですから、次のようなことはできるだけ避けてください。

過度なバリアフリーや過度な人助けは、いざという時身を守れない弱い人間にしてしまいます。ですからバリアフリーはそこそこに、人助けもそこそこにしてください。

人間社会には病気があるのは、学ぶためです。病気を恐れてはなりません。病気から学んでください。病気から生還した人が強くなるのは、病気から何かを学んだからです。



苦しい体験を苦しいままにしている、無駄な苦しみで終わってしまいます。どうか、苦しい体験から学んでください。「犬も歩けば棒に当たる！」と言う諺の意味は、棒に当たって転べば起き上がる時に必ず何かを学んで起き上がるという意味です。歩かなければ転びません。転ばなければ、何も体験できないので成長できないのです。歩くことは、体験することなのです。体験は、人を強く大きく賢くするのです。

### 何事も一生懸命やりましょう！

何事も一生懸命やりましょう！ 一生懸命やっている時は、天につながっているので良い仕事ができます。体も疲れません。人間関係も良くなります。事故災難にも遭いません。病気にもなりません。イヤイヤやっている時は、天とつながらないので良い仕事できません。体も疲れません。人間関係もうまくゆきません。事故災難に遭ったり病気になったりします。

人間は、神の手足となって働く神の分身ですから、本当は神のために体を使わなくてはならないのです。しかし今の地球人類は、自我の自分のために体を使っています。それでは、良い表現ができないのです。どうか、神のために頭も体も使ってください。そのためには、儲けを考えない職人馬鹿になってください。職

人馬鹿は、納得するものが出来上がるまで作り続けます。この一心不乱に物作りする姿が、天の心を打つのです。

「一生懸命」の意味は、「命のために一生を捧げる」或いは「天のために一生を生きる」と言う意味です。

「命」は「神」ですから、神のために一生を生きるのは当然です。私が「一生懸命」と言う言葉が好きなのは、一生懸命やれば神と一つになれるからです。一生懸命は神の願いです。どうか、何事も一生懸命やってください。

## 代理戦争

地球人類は、実に好戦的です。それは、まだ動物的な名残があるからです。自分が肉体だと思えば、身を守るためにどうしても好戦的になるのです。自分が、意識であり、神であり、生命であると思えば、身を守る必要がなくなるので好戦的にならないのです。好戦的な人は、人に勝ちたいのです。でも厳しい社会で、そう簡単に人に勝つことはできません。だからうっぴんを晴らすために、代理戦争をするのです。つまり、ひいきのチーム（自分の代理人）を作って相手と戦い、勝って鬱憤を晴らすのです。ひいきのチー

ムは、自分の身代わり戦士ですから、勝てば自分の喜びになるわけです。確かに、勝った時は気持ちが良いでしょうが、負けた時はどうでしょう？ 悔しさで、夜も眠れなくなるのではありませんか？

ひいきのチームを作ると言うことは、偏りを作ることですから陰陽の法則によって必ず苦しみがくるのです。応援もするなら平等な応援の仕方をしましょう！ そうすれば、苦しみはやってきません。

## 他愛は無い！

今人類は、様々な苦しみに喘いでいます。でもその苦しみは、決して悪いことではないのです。なぜなら、本当の自分を知るために必要な苦しみだからです。今の幼い人類は、苦しまなければ真理に顔を向けようとしません。真理に顔を向けなければ、神の道に乗ることができないのです。神の道に乗るためには、どうしても苦しい体験が必要なのです。でもその苦しみは、神が与えたわけではありません。「因果の法則」によって自ら与えた苦しみです。自分が自分に苦しみを与え、進化成長しようとしているのです。

私たちの中に、二人の自分がいるのです。一人は生徒の自分です。もう一人は、教師の自分です。その教師は、常に生徒を成長させたいと願っているのです。それは、自分を愛しているからです。ですから「自愛」

です。自愛は厳しいのです。それは自分しかないからです。

世の人々は、「他愛無いことを言っ！」と言っています。これは「つまらないことを言っ！」という意味ではなく、「他愛は無いですよ！」という意味なのです。

どうか、自分に厳しくなってください。厳しいからと言って文句を言っはならないと言っことは、「自愛」は厳しい愛を容認する愛なのです。どうか、厳しい愛を成長の糧にしてください。

## 一生懸命の意味！

一生懸命の意味は、「命に一生を捧げましよう！」と言っ意味です。命は神です。命は意識です。命は本当の自分です。ですから私たちは、命に生きるべきなのです。でも今の私たちは、肉体に生き命に生きていないのです。それは、肉体が自分だと思っているからです。肉体が自分だと思えば、肉体のために一生を生きるのは当然です。でもそれでは、人生目的が果たせないのです。

人生の目的は、本当の自分を心の底で知ることです。そのためには、命に生きなくてはなりません。命に生きるとは、「命」を想っと言っ意味です。つまり、瞑想すると言っ意味です。瞑想している時は、命に生

きているのです。その人は、光り輝いています。それは、天につながっているからです。

「命」に人生を捧げる人は、生き人です。「肉体」に人生を捧げる人は、死に人です。なぜなら、命は実在するけれど、肉体は実在しないからです。無い物に生きることほど、無駄なことはありません。どうか、本当に有るモノに生きてください。それも、「一生懸命」に生きてください。この場合の「一生懸命」は、「頑張る！」「真剣に！」「真心を込めて！」「熱心に！」と言う意味です。

## 因果は巡る

過去生で悪事を働いた人や、怠けて働かなかった人は、必ず今生しつぺ返しが来ます。今、苦しい環境にある人や、今、強制労働させられている人は、過去生の罪の償いをしていっているのです。可愛い顔をしているから善人だと思わないでください。過去生で、どれほど悪事を働いたか分からないのですから・・・。「因果は巡る」のです。「目には目を歯には歯を」です。悪い種を撒いたら、必ず悪いモノを刈り取らねばならないのです。

人の不幸を見て心を痛めないでください。彼らは今、罪の刈り取りをしている最中なのですから・・・。

今のあなたの苦しみも、罪の刈り取りをしている状態なのです。刈り取りが終わった暁には、あなたは大きく成長するのです。今、苦しんでいる人は、「今、成長している真っ最中だ！」と良く受け取ってください。苦しみを悪く受け取るから、黒石のままなのです。良く受け取れば、黒石は白石に変わるのです。どうか黒石を打たないで、白石を打ってください。

## 感謝！

天の恵みに感謝できる人は、幸せになります。感謝できない人は、不幸になります。それは、感謝の思いは光を呼び、無感謝の思いは闇を呼びからです。

「ありがとう！」の感謝の思いは、波動が高いのです。「不平不満」の思いは、波動が低いのです。高い波動は、神に届くので天から光が降りてくるのです。どうか、人にも、自然にも、何にでも「ありがとう！」と言える人になってください。実際に私たちは、人から様々な恩恵を受けていますし、天からも（陽の光・空気・水）様々な恩恵を受けているのです。ですから、感謝するのは当然のことなのです。でも今の人類は、その恩恵を当然と思っただけで感謝を忘れているのです。それでは、天の恵みが頂けなくなるのです。その証拠に、

近年 自然界がおかしくなっています。人間関係もギクシャクしております。これは、人のおごりが感謝の心を忘れさせたからです。

良く考えてみてください。何かを成すのは、外側のモノ（人・お金・物）でしょうか？ 内側の想いでし  
ようか？ 内側の想いが成しているのです。だから人生は、「どう想うか？ どう受け取るか？」次第だ  
と云うのです。これを理解するのは容易なことではありませんが、間違いのないことなのです。

感謝の「感」の字は、上に「成」、下に「心」と書きます。この字の意味は、「心」が「成」させると言  
う意味です。何でも自分の心（想い）が成させるのです。この意味の深さを知ってください。

許し！

今日あなたは、人に殴られたとしましょう。でも、許してあげてください。この世で罪を犯さない者など、  
一人もいないのですから・・・。「私は一度も罪を犯したことがない!」、と言う人ほど罪を多く犯してい  
るものです。確かに目に見える所では、罪は犯していないかも知れません。でも目に見えない所、つまり心  
の中では犯しているのです。だから、イエスは言われたのです。「あなたたちの中で罪を犯したことのない

者がまず、この女に石を投げなさい！」と・・・。

私も含め、どんな人も罪を犯しているものです。でも、幼い時にはそのことに気づかないので、神は気づかせるために厭なことをされたりしたりする相対的体験をさせているのです。確かに、叩かれたら叩き返したくなる気持ちは分かります。でも「原因と結果の法則」が罰してくれるのですから、あなたが相手を罰する必要は無いのです。もしあなたが罰したとすれば、いつかまたあなたは誰かに罰されることになります。こんな大損なことはありません。今あなたがすべきことは、相手を憎むのではなく「許す」ことです。そうすればあなたの心が通じ、相手は自分の過ちに気づいてくれるでしょう。あなたも過去生において、人を叩いたこともあったのです。今生は、反対の立場になっているだけです。

## ノアの方舟とは？

ノアの箱舟とは、「人類の夜明」の本のことです。この方舟に乗れば、人類は救われるのです。なぜなら、方舟の中に人類を救う方法が書かれてあるからです。この方舟に乗る以外、助かる道はありません。もうすぐ資本主義は崩壊します。その時人類は、何を頼りに生きれば良いのでしょうか・・・？ ノアの方舟はそれ



を教えているのです。

地球環境は今、とても危険な方向に進んでいます。局的豪雨の多発・台風やハリケーンの規模の拡大・雷や地震の多発などを見ただけでも分かります。このまま進めば、人類が住めない星になってしまいます。そうならないよう自然は、人類に様々な警告を発しているのですが、なかなか気づいてくれないのです。それどころか、ますます経済を拡大させようとしているのです。経済が拡大すれば地球環境が悪化するのには目に見えているのに、政治家も科学者も本腰を入れて地球環境を良くしようとしませんのです。一体どれほど痛い目に遭わなくては、人類は目覚めないのでしょうか？ 「自然は今後、ますます厳しい警告を発してくるでしょう。」

**地球は泣いている！**

石垣島に旅行した人からこんな話を聞きました。上から見た海は透き通って見えるのですが、そこに生息しているサンゴ礁の大半が白化していると言うのです。地元の人からその話を聞いたその人は、「そこまできたか！」と愕然としたと言います。サンゴ礁は、地球の汚染度を示すセンサーのような働きをしているの

です。大陸に住む人たちは、自然環境に鈍感かも知れませんが、島国に住む人たちは敏感なのです。ですから石垣島の人たちは、サンゴ礁の白化を危険信号として受け取っているのです。

- 近年大気汚染・水汚染・土汚染などが、ますます拡大しています。
  - 異常気象も拡大しています。
  - 大気の流れや潮流の流れなども、大きく変化しています。
  - 北極や南極の氷も、縮小しています。
  - 生き物たちの異常行動も、目につくようになってきました。
  - 病人がますます増えています。
  - 植物の世界や動物の世界も病気が増えています。
- これは、人類の生き様に対する警告なのです。地球は・・自然は・・泣いているのです。どうか、地球を・・自然を・・泣かせないでください。せめて真理を学んでいる私たちだけでも、地球のために良いことをしましょう。その良いことの一つが、瞑想をすることなのです。瞑想ほど、地球の浄化に役立つことはありません。どうか瞑想し、少しでも地球を浄化してください。

## パベルの塔の倒壊は必然？

なぜ資本主義が発達すると、建物が上へ上へと伸びてゆくのでしょうか？ それは「儲けなければならぬ！ 経済成長させなければならぬ！」と言う資本主義経済が、一極集中の都市を生み出しているからです。人口が都市に集まれば土地が狭くなりますから、当然 建物は上へ上へと伸びてゆくでしょう。

- 建物が上に伸びれば伸びるほど、ビルの建設費は高くなります。
  - 建物の維持管理費も半端ではありません。
  - 建物を壊す時にも多額の費用がかかります。
  - 当然 公害も進みますから、環境保全に多額の予算が必要になります。
- 個人においても、都会では生活費が高みますから、沢山お金を稼がねばなりません。そうなれば過酷な労働が強いられますので、健康を害する人も多くなります。近年ますます病人が増えています。これも資本主義経済の弊害の一つなのです。資本主義経済は、他にも様々な弊害をもたらしています。

○ 学歴社会

○ 競争社会

○ ノルマ達成

○ 過酷な労働

良い学校に入るため良い会社に入るため、幼い時から学歴社会に放り込まれます。ライバル企業に勝つために、ライバル同僚に勝つために、過酷な労働が強いられます。ノルマ達成にも悩まされます。これでは、一時たりとも心が休まりません。ですから精神病患者が、ますます増えているのです。

このように資本主義経済は、人の心を蝕むだけでなく様々な弊害を生み出しているのです。このまま進めば、間違いなく物質文明は崩壊する（バベルの塔は倒壊する）でしょう！なぜなら、資本主義経済は、必要以上資源を食いつぶして成長する仕組みだからです。果たしてそのような横暴が、いつまで許されるでしょうか？ 物質文明の崩壊は、時間の問題なのです。それは・人類がボール遊びに夢中になっている時、突然訪れるでしょう！

## かとう塾は、私一代限り

「かとう塾」は、私一代限りの塾です。誰かに引き継がせるつもりはありません。また、引き継がせるこ

ともできません。なぜなら、その人の器量（波動）で塾を持ち、その人の器量（波動）で塾生を呼ぶからです。私は、自分の器量（波動）で塾を持ち、自分の器量（波動）で塾生を呼んだのです。もし塾を持ちたいなら、自分の器量（波動）で塾を持ち、自分の器量（波動）で塾生を集めてください。

知花先生に引き継ぐ弟子がいなかったように、私にも引き継ぐ弟子はおりません。いるのは、学びの友の皆さんたちだけです。

**私が地球人類に残しておきたいこと！**

私が地球人類に残しておきたいこと！

それは・

「想い」がすべてであると言う、「想念の偉大さ」のことです。このことをアカシックレコードに刻み、地球人類に残しておきたいと思いません。

地球の「平和」は・

人類一人ひとりの「幸せ」は・・・

良い「想念」を使えば叶います！

叶います！

・今、アカシックレコードに再度刻みました・・・

(すでにアカシックレコードに沢山刻んであります。)

アカシックレコードに刻んでおけば、後々成長した人たちが引き出して使ってくれるでしょう。

## おわりに

この「真理の書」は、神の側面を深く理解してもらうために、色々な角度から神に光を当て説いておりません。言葉は違っても、みな同じ神の側面です。ただし、この書で述べている神の側面は言葉や文字にしか過ぎません。自覚を深めるためには、言葉や文字の奥に隠されている神の深味を、心の底で知る必要があるのです。でもそれは、難しいことはありません。なぜなら、私たちの中に真我（神我）がおられるからです。ですから、ただ真我（神我）の居場所に意識を持っていけば良いだけです。

この「真理の書」は、自覚の境界線 寸前まで来ている皆さんの為に書きました。どうか身近に置いて、自覚を深める為に役立ててください。

## 補足・・・誤った信仰（迷信）を正す

○インドのヒンドゥー教では、死者を火葬して一片の骨も残さず聖なるガンジス河に流さなければならぬと教えています。死人の毛や骨がこの世に少しでも残っていたら、その魂は天国に行けないと信じているからです。

この教えが正しければ、骨が原子に帰るまで数万年かかるわけですから、数万年天国に帰れないことになります。天国は物質（肉体）に関係ないので。天国は、いかに正しい想いを持って生きていくかで決まるのです。誤解されては困るので付け加えますが、天国と言う場所があるわけではないのです。天国のような精妙な波動の世界があると言う意味です。

○イスラム教では、火葬すると火炎地獄に落ちるので火葬してはならないと教えています。

この教えも間違っています。想念を悪く使っていたか良く使っていたかが逝く世界を決めるのであって、



埋葬の仕方によって逝く世界が違うのではないのです。

○インドのカラティア族の間では、子供が親の死肉を食う習慣があったようです。これは死体を食べる事によって、親と一心同体になれると信じられていたからです。

肉体は単なる物質です。いずれ原子崩壊して無くなってしまうのですから、自然に任せておいたら良いのです。その点、微生物が分解する土葬は、自然で一番良い方法かも知れません。でも日本のように土地の狭い国では、火葬が一番適していると思います。世界には、鳥葬・獣葬・風葬など色々な葬儀方法があるようですが、できるだけ早く元の原子に返してやるのが魂の進化のためには良いのです。なぜなら、原子を早く宇宙空間に返してやれば、再生されるチャンスが早まるからです。死体を食べて一心同体になるなど、甚だしい迷信です。

○百数十年前までは、生贖・殉死（殉葬）・人柱・後追い自殺・人身御供などの悪習がありました。

自然（神）の怒りを収めるために人柱を立てる・・尊い人のために殉死する・・死んだ人の義理のために後追い自殺するなど、意味のない悪習です。

○生前 良いことをしていれば天国に行け、悪いことをしていれば地獄に落ちて苦しむと言う教えがありません。

確かにこの考え方は、ある面正しいでしょう。でも、天国や地獄があるわけではないのです。天国のような・・地獄のような・・波動の世界があると言う意味です。死んだ人の想いが、天国や地獄のような世界を作っているだけです。

○生前の信仰心が、死後の行き先を決めると言う教えがありません。キリスト教が、これに当てはまるでしょう。キリストでは、洗礼を受けたキリスト教徒だけが神の国に行けると教えますが、この教えが正しければ他宗教の人や無信仰の人は、神の国に行けないこととなります。死後の行先を決めるのは、信仰心が有るか

無いかではありません。その人が、どんな想いを持って生きていたかです。

○生前の身分が、転生輪廻を決めると言う考えがあります。古代エジプトでは、王様だけがこの世に生き返ると信じられていましたので、王様が生き返っても寂しくないよう立派なピラミッドを作り、棺の周りを宝物で飾り立てたのです。

この考えが正しいなら、貧乏人や身分の低い者は生き返れない（転生輪廻できない）ことになります。

○死んだ時の思いが、死後の行き先を決めると言う考えがあります。

確かに想いは実現させますから、明るい思いを持ってこの世を去ったら明るい世界に帰り、暗い思いを持ってこの世を去ったら暗い世界に帰らなければなりません。でも、明るい世界や暗い世界があるわけではないのです。自分の思いが、「明るい世界や暗い世界」を作るのです。

○死の直前における遺族の態度が、死者の行く先を決めると言う考えがあります。

この考えが正しいなら、臨終の時に近親者はしつかり泣いてあげねばなりません。泣けば泣くほど皆から愛されていると思い、安心して死ねると言うわけです。ですから中国には、お金で雇われた泣き男や泣き女がいたのです。日本にも、泣き加減によって謝礼が違う、一升米泣きとか三米泣きとか言った風習があったようです。でもこんなことをすれば、死んだ人がこの世から離れづらくなるだけです。死んだ人は一刻も早く、逝くべき所に往かねばならないのです。

○死者の生前の行いが、生まれ変わる世界を決めると言う考えがあります。悪いことをした者は、地獄界や餓鬼界や畜生界や修羅界に生まれ変わり、良いことをした者は、人間界に生まれ変わると言う考えです。

これも迷信です。一旦人類に進化した魂は、どんなに悪事を働いても動物に生まれ変わることはありません。この宇宙には、進化はあっても退化は無いのです。死後の世界に、地獄界や飢餓界や畜生界や修羅界などがあるのではないのです。死んだ人の思いが、そのような波動の世界を作るだけです。

○供養すれば、死者が幸せになれるという教えがあります。仏教の供養の催事がそれに当てはまるでしょう。もしこの教えが正しければ、供養してくれる肉親のいない死人や供養できない貧乏人は幸せになれないことになります。

供養には、初七日・四十九日（忌明け）・百か日・一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌と言った行事があるようですが、これは生きている人たちの慰めや自己顕示欲にしか過ぎません。日本にはお盆祭りをする習慣などありますが、こんな祭りをすれば返って死んだ人を地上に縛り付けるだけです。

宗教に入っているか入っていないか、信仰心を持っているかいないか、供養をしているかしていないか、そんなことは関係ありません。肉親がどんなにお経を上げて、どんなに供養しても、どんなに大きな墓を作って飾ったりしても、死んだ人を幸せにすることはできないのです。肉親のただの気休めです。死んだ人が良い想念を持っていれば幸せになり、悪い想念を持っていれば不幸になるだけです。

よく事故の起こった場所に花束を置く習慣がありますが、これも生きている人たちの自己満足か自己顕示です。死んだ人には、向こうでやるべきことがあるのですから、ソーツとしてあげるべきです。騒げば騒ぐほど死人を惑わすだけです。

○死霊が地上に出ないよう墓の上に大きな石を置いたり、死体に石を抱かせたり、極楽縄や地獄縄と呼ばれる縄でグルグル巻きしたりする風習があるようです。これは死人を恐れる誤った信仰から生まれたもので、死人が生者に危害を加えることは絶対できません。

○道祖神を祀ったりお地藏さんを祀ったりする信仰があります。

目に見えない力を信ずる人たちは、何かにすがって身の安全を図りたいのです。でも、祀っても何の意味もありません。ただ、気休めにはなるかも知れません。

○「疝の虫退治」や「おまじない」を信仰する人たちがおりますが、

これも単なる気休めです。幸せが欲しいなら、自力（内側の力）でなさねばなりません。外側の力を信じ、自分を誤魔化してはなりません。

○世の中には、手相占い、顔相占い、タロット占い、方位占い、星占い、風水占いなど、様々な占いがあるようです。どうして占いが流行るのかと言いますと、一寸先闇が人生だからです。一秒後何が起こるのか、今日何が起こるのか、明日何が起こるのか分からない不安な人たちが、身を守るために占術に頼るのです。占いは信ずる人には効きますが、信じない人は効かないのです。それは、信じる思いが現象を作るからです。

○他にも、「丑時参りの信仰」とか「呪いの信仰」とか「祟を封じる信仰」などがありますが、いずれも無知が生み出した意味のない信仰だと思ってください。

○息について様々な考えがあるようです。

仏教でも神教でも息を吹きかける行為は、無礼な行為とされています。なぜ無礼な行為か？．．それは、人間を不浄な生き物だと思っているからです。だから仏教でも神教でも、祭壇のロウソクの火を息で消す行為を禁じています。不浄な人間が、尊い仏様や神様に息を吹きかけるのは、無礼だと言うわけです。確かに

人間は、汚い言葉を使いますから口から出る息は不浄かも知れません。でも本来、人間の息は清いのです。なぜなら、人間は神の息によって創られた「神の子」だからです。「息」とは、神のことなのです。ですから人間の息は、本来、清いはずなのです。覚者が息を吹きかけ場を清めるのは、「息」そのものが神の光だからです。

このように、人間は「息の子」です。つまり「神の子」です。だから人間の息は清いのです。事実、神の自覚を持った人の口から出てくる息は、白く輝いています。でも覚者でなくても、神を想っている人の吐く息は白く輝いているのです。どうか、神を想いながら口ウソクの火を消してください。

では、正しい息の吹きかけ方を教えましょう。

息を「フツ」と吹けばエネルギーを落とします。「ハアー」と吐けばエネルギーを高めます。ですから温める時は、「ハアーハアー」と息を吐き・・・冷やす時は「フーフー」と息を吹きかけねばなりません。息を吹く「フー」と吐く「ハアー」には、他にも意味があります。「フー」と息を吹くのは「陰」で、否定的な使い方です。「ハアー」と息を吐くのは「陽」で、肯定的な使い方です。ですから、否定的な「フツ」で息を吹きかけてはなりません。ただし、「ハアー」と吐いたのでは口ウソクの火は消せません。では、どうして消すか？ 神を想いながら、「フツ」と息を吹きかければ良いのです。



○人間社会には、色々な無礼行為があるようです。ここで無礼行為について考えてみましょう。

尊い物や高貴な人に足を向けたり背中を向けたりするのは、無礼な行為とされています。足は波動が低く汚く、背中は否定を意味するからです。ですから天皇様の前から去る時は、正面を向きながら後ずさりをします。西洋でも王様や高貴な人の前から去る時は、頭を下げ後ずさりしながら立ち去ります。このように人間社会には、色々な習わしがあるわけですが、真理を学んでいる皆さんは気にすることはありません。なぜなら、私たちは「息の子・神の子」だからです。神の世界には、陰も陽も下も上も無いのです。あるのは一のみです。一の世界に不浄や清浄などの差別は無いのです。迷信や旧習にあまり囚われないでください。ただし、周囲の人たちとの協調性を欠いてはなりませんから、郷に入れば郷に従いという諺があるように、その場の雰囲気を考え適切な行動を取ってください。

○先祖や死んだ人の幸せを願うなら、この世にいる自分たちの幸せな姿を見せることです。お釈迦様は、「お墓を作る必要はない！ 供養をする必要もない！」と、ハッキリと言っておられます。供養が美化されていますが、返って死んだ人の迷惑になるだけです。死んだ人に幸せになってもらいたい気持ちちは分かりますが、

それは守護霊や指導霊に任せておけば良いのです。確かに、両親やご先祖に感謝することはとても大切です。でもその感謝は、一度、心の中でしたら良いのです。私たちがすべきことは、一生懸命 社会体験して原子核を増やすこと・瞑想して原子核を増やすことです。それが、死んだ人に対する一番の供養になるのです。

○神社やお寺で手を合わせれば心が安らぐと言いますが、それは神社やお寺でなくてもどこでもできるので。なぜなら、陰の手と陽の手を合わせれば、場所に関係なく自分の心の中に光が生まれるからです。一般人は、神社やお寺に行った時にしか手を合わせないので、勘違いしているだけです。

○祟を恐れたり呪いを恐れたりする人たちがおりますが、祟も呪いも恐れることはありません。自分が良い想念を持っていたら影響を受けないからです。悪い想念を持っているから、同調して影響を受けるのです。外側のものが、自分を害することは絶対無いのです。自分の想いが、自分を害するだけです。

○外側の現象界は、結果の世界です。内側の意識界は、原因の世界です。結果は、原因の後に生まれるのです。先にあるのは原因です。その原因はあなたの想いです。ですから思いさえしっかり管理していたら、悪いことなど起きようがないのです。どうか、迷信や間違った信仰に惑わされなくてください。何が正しくて何が正しくないか、しっかりと見極めてください。あなたが信じるべきものは、自分の想いだけです。